

平成 27 年度産業観光を活用した  
地域活性化事例調査  
報告書

平成 28 年 3 月

経済産業省九州経済産業局



## 目次

I. はじめに.....	1
1. 調査の背景・目的と内容 .....	1
(1) 調査の背景・目的.....	1
(2) 調査の内容.....	2
2. 産業観光を取り巻く現状 .....	3
(1) 産業観光とは .....	3
(2) 九州の近代化産業遺産と明治日本の産業革命遺産.....	6
(3) 産業観光に対するニーズと現状 .....	10
(4) インバウンドの動向と産業観光.....	13
II. 九州における近代化産業遺産の保存・活用の現状と課題 .....	22
1. アンケート調査の概要.....	22
2. アンケート調査の結果.....	23
(1) 近代化産業遺産の現状 .....	23
(2) 近代化産業遺産の認定やストーリーの活用状況 .....	26
(3) 近代化産業遺産の公開・活用状況.....	33
(4) 近代化産業遺産への来場・集客 .....	46
III. 産業観光を活用した地域活性化の取組状況 .....	49
1. 明治日本の産業革命遺産を活用した地域活性化の取組状況.....	49
2. 産業観光を活用した地域活性化の取組.....	60
IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策.....	78
1. 産業観光を活用した地域活性化の課題.....	78
2. 産業観光を活用した地域活性化に向けた方策.....	82

### 参考資料

近代化産業遺産の保存・活用に関するアンケート.....	93
九州の産業観光資源一覧 .....	97
産業観光を活用した地域活性化事例調査委員会 開催概要 .....	118



# I. はじめに

## 1. 調査の背景・目的と内容

### (1) 調査の背景・目的

急速に成長するアジアをはじめとして、ここ数年外国人旅行者数は増加傾向にある。こうした状況を一過性のものとせず、各地域において観光需要を継続的に取り込むためには、歴史や文化の体験等の外国人の知的探究心に訴えることが重要になっている。また、人口減少・高齢化が進展し、内需が縮小する中では、地域外から人を呼び込み、地域内での消費を拡大させる必要がある。

こうした中、2015年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録された。世界遺産登録を契機に、九州が国内外から大きな注目を集めているところであり、本遺産を地域の観光資源と組み合わせて産業観光として活用し、地域経済の活性化につなげるまたとない好機が訪れている。

そこで本調査では、九州管内の各地域が有する産業観光に関する資源（産業遺産、工場見学、ものづくり体験等）を地域活性化の取組に活用するため、各地域の優れた事例を調査・分析し、九州における産業観光の実態について整理するとともに、地域活性化の取組に係る課題・今後の展開、地域の観光資源（自然、特産物、体験等）との組み合わせによる新たな活用方策、求められる施策等について研究することを目的とする。

## (2) 調査の内容

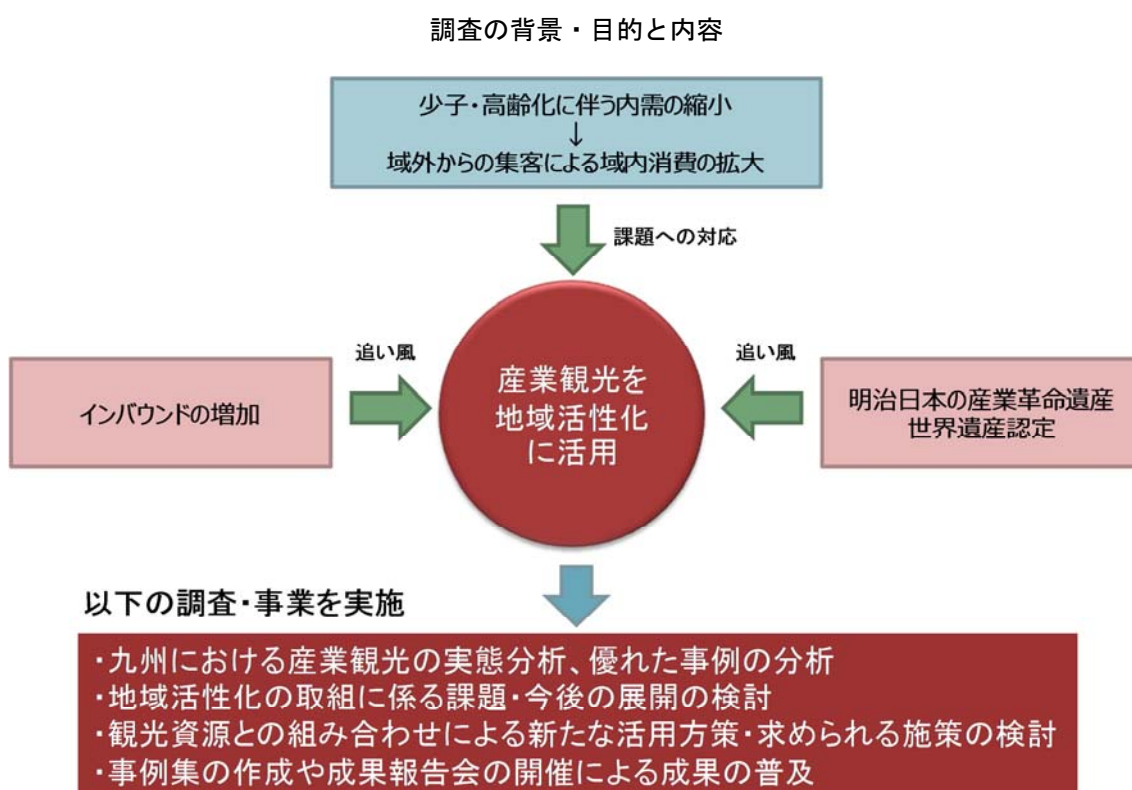
前ページで見た目的を達成するため、本調査では以下の調査を実施する。

はじめに、産業観光を取り巻く現状について、産業観光の定義を整理した上で、本調査の対象となる九州の近代化産業遺産や明治日本の産業革命遺産について概観する。産業観光に対する旅行者のニーズや旅行実態について、国内客、海外客（インバウンド）それぞれについて見ていく。

次に、経済産業省が認定した九州の近代化産業遺産の管理者に対するアンケート調査を行い、認定から10年弱が経過し、また明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録がなされたことを受けての対応や課題について定量的に把握を行う。

さらに明治日本の産業革命遺産の構成資産を有する地域のほか、産業観光を活用した地域活性化の九州内外の取組事例について、ガイドをはじめとする演出上の工夫や他の観光資源との組み合わせによる魅力創出などの現状と課題についてヒアリング調査を行う。

以上の調査結果をもとに、産業観光を活用した地域活性化の課題と方策を検討する。



## 2. 産業観光を取り巻く現状

### (1) 産業観光とは

産業観光とは何か。その定義については明確に確立されたものはないが、産業観光の実践に向けて 2001 年に開催された全国会議の「全国産業観光サミット in 愛知・名古屋」において提唱された以下の内容が、広く浸透している。

#### 産業観光の定義（全国産業観光サミット in 愛知・名古屋において提唱）

歴史的・文化的価値のある産業文化財（古い機械器具、工場遺構などのいわゆる産業遺産）生産現場（工場・工房等）及び産業製品を観光資源とし、それらを通じてものづくりの心にふれるとともに、人的交流を促進する観光活動。

上記に示されているように、産業観光とは、産業遺産から現役の生産現場といった産業に関わるあらゆる事物を対象とした領域の広い観光形態である。

「産業」観光という言葉に即して考えた場合、農林水産業やサービス業まで世の中の経済活動すべてが対象となるが、提唱された定義においても「ものづくりの心にふれる」といった記載があるように、基本的には第二次産業、なかでも製造業に関連する諸活動が中心に考えられており、そこから派生する形で第一次産業や第三次産業にも対象を広げた観光の形態といえる。

産業観光を構成する資源を例示したものを見ても、ベースにあるのは第二次産業（製造業）を中心としたものであることがうかがえる。そして、これらは他の観光資源（自然、歴史文化）などと同様に、有形、無形、両者がまとまったものとさまざまな形態となって存在している。

各種観光資源と産業観光における資源

	有形観光資源	無形観光資源	総合観光資源
自然観光資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉</li> <li>・海(岸)、河川(湖沼)、山岳(高原)</li> <li>・動植物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象(不知火、オーロラ)</li> <li>・気象(雪、雨、四季)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然公園</li> <li>・動物園、植物園</li> </ul>
歴史文化観光資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建造物</li> <li>・史跡(遺跡)</li> <li>・美術工芸(陶磁器、彫刻(仏像))</li> <li>・有形民俗文化財</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無形文化財(演劇)</li> <li>・無形民俗文化財</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神社寺院</li> <li>・美術館、博物館</li> <li>・テーマパーク</li> </ul>
複合観光資源			<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市、農村(景観)</li> </ul>
テーマ別観光資源(例) 産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業文化財(産業遺産)(機械器具、工場遺構)</li> <li>・生産現場(工場、工房)</li> <li>・エネルギー関連施設</li> <li>・交通通信施設</li> <li>・漁場農場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業体験</li> <li>・ものづくり(わざ、熟練)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業博物館、資料館</li> <li>・インダストリアルパーク(総合産業公園)</li> <li>・産業景観</li> <li>・産業観光地域圏</li> </ul>

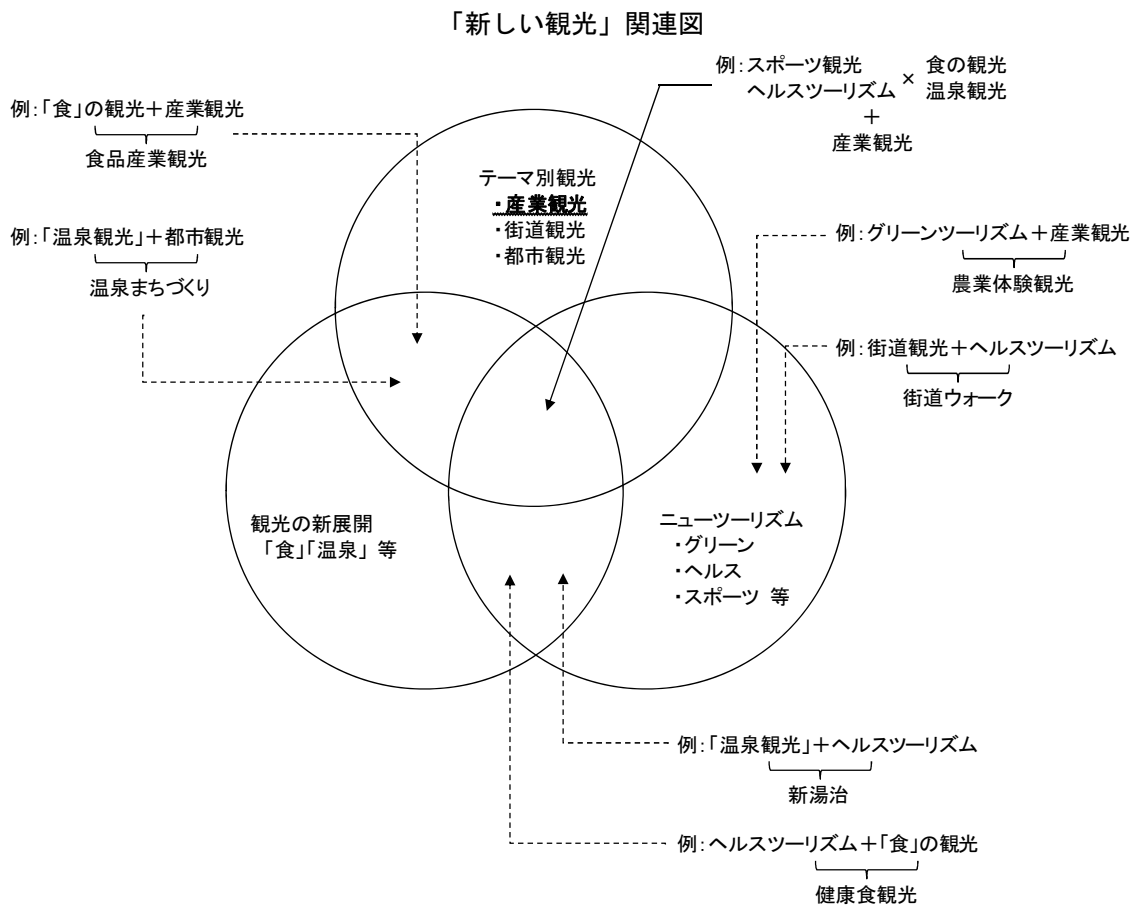
注) 総合観光資源とは、複数の観光資源がまとまり、ひとつの観光資源となったものをいう

複合観光資源とは、自然観光資源・歴史文化観光資源の両資源にわたるものをいう

資料) 須田寛「新産業観光」より一部改変



産業観光は、従来型の観光、すなわちかつての団体旅行中心で、名所旧跡を見て回るだけの観光とは対極にある新しい観光のスタイルのひとつであり、「見る」だけではなく、「学ぶ」、「体験する」といった要素を併せ持ち、他の新しい観光とも融合したものである。



資料) 須田寛「新産業観光」より一部改変

本調査においても、上述したような産業観光の定義、考え方にのっとり、近代化産業遺産や現在稼働している生産現場等を中心に、そこから広がるストーリー等を活かした地域活性化の取組について調査を行う。

## (2) 九州の近代化産業遺産と明治日本の産業革命遺産

### 九州では47の近代化産業遺産が存在

経済産業省では、わが国産業近代化の過程を物語る存在として、今日まで継承されている建築物、機械、文書が有する豊かな歴史的価値を顕在化させ、地域活性化に役立つ資源として全国で近代化産業遺産の認定を2007・08年度の2カ年にかけて行った。

九州では47群の近代化産業遺産が認定されている。

九州の近代化産業遺産の分布図



資料) 経済産業省「近代化産業遺産「観光」活用ガイド」より九州経済調査協会作成

## 九州の近代化産業遺産一覧

遺産名	所在市区町村
関門航路関連遺産	下関市、北九州市門司区
戦前の主要鉄道トンネル	下関市、北九州市門司区
九州大学工学部関連遺産	福岡市東区
手動式計算器	北九州市小倉北区
北九州市の衛生陶器・食器製造関連遺産	北九州市小倉北区
北九州市所管の近代水道関連遺産	北九州市小倉南区、北九州市若松区
筑豊炭田からの石炭輸送・貿易関連遺産	北九州市戸畑区、北九州市門司区、北九州市八幡西区、北九州市八幡東区、北九州市若松区、福岡県東峰村、福岡県芦屋町、福岡県赤村
九州工業大学関連遺産	北九州市戸畑区
北九州市の通信技術関連遺産	北九州市門司区
北九州市の鋳滓煉瓦製造関連遺産	北九州市門司区
部埼灯台	北九州市門司区
八幡製鉄所関連遺産	北九州市八幡東区、北九州市戸畑区
筑豊炭田関連遺産	飯塚市、田川市、直方市、福岡県福智町、福岡県築上町
三池炭鉱関連遺産	大牟田市、荒尾市
志免鉱業所関連遺産	福岡県志免町
戸畑鋳物（現：日立金属株）の内燃機関	福岡県苅田町
志田の窯業関連遺産	嬉野市
佐賀県の炭鉱関連遺産	唐津市
佐賀藩による事業の関連遺産	佐賀市
有田の窯業関連遺産	佐賀県有田町
雲仙観光ホテルと雲仙観光関連遺産	雲仙市
長崎の幕末造船関連遺産	佐世保市、長崎市
旧佐世保海軍工廠関連遺産	佐世保市
長崎市の造船関連遺産	長崎市
高島炭鉱関連遺産	長崎市
長崎市の有線通信関連遺産	長崎市
長崎市所管の近代水道関連遺産	長崎市
長崎市内の旧居留地時代のレジャー産業関連遺産	長崎市
黎明期の蒸気機関	長崎市、山陽小野田市
伊王島灯台	長崎市
水ノ子島灯台	佐伯市
鯛生金山関連遺産	日田市
別府温泉関連遺産	別府市
旧豊後森機関区の関連遺産	大分県玖珠町
三池炭鉱からの石炭輸送・貿易関連遺産	宇城市
熊本市の綿産業関連遺産	熊本市
物資輸送関連遺産（肥薩線）	人吉市、八代市、熊本県芦北町、熊本県球磨村、えびの市、霧島市、鹿児島県湧水町
JR肥薩線の関連遺産	人吉市、八代市、熊本県芦北町、えびの市
延岡市の化学工業関連遺産	延岡市
諸塚村の水力発電関連遺産	宮崎県諸塚村
鞍埼灯台	宮崎県南郷町
大口市の水力発電関連遺産	大口市
薩摩藩による事業の関連遺産（集成館事業）	鹿児島市、鹿児島県加治木町
鹿児島県立鹿児島工業高等学校関連遺産	鹿児島市
南九州市の航空機関連遺産	南九州市
安房森林鉄道	鹿児島県屋久島町

注) 各遺産は単一または複数の動産・不動産で構成される。詳細は引用元を参照

資料) 経済産業省「近代化産業遺産「観光」活用ガイド」より九州経済調査協会作成

## 明治日本の産業革命遺産

九州における産業観光の振興にとって、大きなインパクトを与えたのは、2015年7月の「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業（以下、明治日本の産業革命遺産と表記）」の世界遺産登録である。2014年には「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登録されており、明治期におけるわが国の産業の発展に貢献したこれらの産業遺産に対して世間の関心が高まっている。

明治日本の産業革命遺産の構成資産は、九州の16カ所を中心に、岩手や静岡、山口を含めた計23の資産で構成されている。

明治日本の産業革命遺産の構成資産

エリア	構成資産	所在地	
九州	八幡	官営八幡製鐵所 官営八幡製鐵所旧本事務所	北九州市
		官営八幡製鐵所修繕工場	北九州市
		官営八幡製鐵所旧鍛冶工場	北九州市
		官営八幡製鐵所遠賀川水源地ポンプ室	中間市
	三池	三池炭鉱・三池港 三池炭鉱宮原坑	大牟田市
		三池炭鉱万田坑	大牟田市、荒尾市
		専用鉄道敷跡	大牟田市、荒尾市
		三池港	大牟田市
		三角西(旧)港	宇城市
	佐賀	三重津海軍所跡	佐賀市
	長崎	小菅修船場跡	長崎市
		長崎造船所第三船渠	長崎市
		長崎造船所旧木型場	長崎市
		長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン	長崎市
		長崎造船所占勝閣	長崎市
		高島炭坑	長崎市
		端島炭坑	長崎市
		旧グラバー住宅	長崎市
	鹿児島	旧集成館	鹿児島市
寺山炭窯跡		鹿児島市	
関吉の疎水溝		鹿児島市	
九州外	釜石	橋野鉄鉱山・高炉跡	岩手県釜石市
	蕨山	蕨山反射炉	静岡県伊豆の国市
	萩	萩反射炉	山口県萩市
		恵美須ヶ鼻造船所跡	山口県萩市
		大板山たたら製鉄遺跡	山口県萩市
		萩城下町	山口県萩市
		松下村塾	山口県萩市

明治日本の産業革命遺産が世界遺産登録されるまでのあゆみを以下の年表にまとめた。端緒となったのは、1999年における鹿児島市の集成館の普遍的な価値の共有で、2005年の「九州近代化産業遺産シンポジウム」における「かごしま宣言」の採択、2006年の九州地方知事会における政策連合項目の決定、2008年の世界遺産登録推進協議会の設立を経て、世界遺産登録を目指す動きが本格化し、2013年の暫定版推薦書の提出、2014年に正式版の推薦書の提出を行い、2015年の世界遺産登録となった。

#### 明治日本の産業革命遺産 世界遺産登録までのあゆみ

年	概要
1999	日本の産業遺産研究の第一人者で同年に『産業遺産』を上梓した加藤康子氏と島津商事(現島津興業・鹿児島市)の島津公保社長(当時)が同書をきっかけに出会い、集成館の普遍的価値を共有。
2002	「薩摩ものづくり」シンポジウムにおいて、産業遺産の世界的権威であるスチュワート・B・スマイス氏が、九州内の産業遺産をまとめれば世界遺産となる可能性が高いと発言。集成館を含めた九州全体での世界遺産登録への機運が高まる。
2005	鹿児島県的主导により「九州近代化産業遺産シンポジウム」が開催。学術的評価の推進や、保全・活用に向けた機運醸成、産学官での取組強化を謳った「かごしま宣言」を採択し、世界遺産登録に向けた動きが表面化。
2006	「九州近代化産業遺産の保存・活用」が九州地方知事会における政策連合項目に決定し、関係自治体の取組に発展。
2008	6県11市(現在は8県11市)によって「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会(会長:鹿児島県知事、事務局:鹿児島県)が設立。
2013	構成資産の加除を経て、ユネスコへの政府推薦案件として決定。暫定版の推薦書を提出。
2014	暫定版から一部の区割りを修正し、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の名称で正式に推薦書を提出。
2015	5月、イコモス(ユネスコの諮問機関)より登録が適當の勧告が出され、7月の世界遺産委員会で登録決定。名称は「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

資料) 各種資料より九州経済調査協会作成

### (3) 産業観光に対するニーズと現状

#### 関心が高まる産業観光

日本生産性本部「2015 レジャー白書」が過去に経験のある旅行テーマを尋ねたところ、2006年、2014年ともに1位～4位のテーマは同じで、癒しの旅や歴史のある街並みなどを楽しむ旅などが主流であることに変わりはないことがわかる。

一方で、産業観光に関連する選択肢については、「ものづくりの現場を見学する旅」に関しては順位を落としているものの、「世界遺産を訪問する旅」が2006年は10位だったものが、2014年には6位に大きく上昇、「歴史的遺産を訪問する旅（※選択肢としては、鉄道や工場などの歴史的遺産を訪問する旅）」が2006年の14位から、12位に上昇するなど産業観光、とくに世界遺産訪問や工場等に関する歴史的遺産を訪ねる旅が市民権を得つつあることがわかる。

過去に経験のある旅行テーマ（2006年と2014年の比較）

過去に経験のある旅行テーマ(2006年)			過去に経験のある旅行テーマ(2014年)		
順位	旅行テーマ	経験率	順位	旅行テーマ	経験率
1	癒しの旅	60.0	1	癒しの旅	46.3
2	歴史のある街並みなどを訪ねる旅	38.4	2	歴史のある街並みなどを訪ねる旅	34.5
3	大自然の魅力を味わう旅	34.2	3	大自然の魅力を味わう旅	26.2
4	アウトドア体験を楽しむ旅	33.3	4	アウトドア体験を楽しむ旅	22.9
5	スポーツ活動を楽しむ旅	28.2	5	博物館や美術館を訪問する旅	21.1
6	博物館や美術館を訪問する旅	24.5	6	世界遺産を訪問する旅	20.2
7	季節の花をたずねる旅	20.9	7	季節の花をたずねる旅	16.7
8	地域の食文化を楽しむ旅	17.4	8	スポーツ活動を楽しむ旅	16.6
9	祭りや伝統芸能を鑑賞する旅	16.9	9	地域の食文化を楽しむ旅	16.4
10	世界遺産を訪問する旅	15.6	10	祭りや伝統芸能を鑑賞する旅	13.0
11	ものづくりの現場を見学する旅	15.4	11	自分の関心のあるテーマを実現する旅	12.9
12	自分の関心のあるテーマを実現する旅	12.6	12	歴史的遺産を訪問する旅	9.6
13	病気回復や健康の維持・向上のための旅	10.0	13	病気回復や健康の維持・向上のための旅	9.0
14	歴史的遺産を訪問する旅	9.5	14	ものづくりの現場を見学する旅	8.7
15	子どもや孫と交流するプログラム参加	8.9	15	スポーツ観戦を楽しむ旅	6.4
16	スポーツ観戦を楽しむ旅	8.4	16	ロケ地を訪問する旅	4.7
17	創作体験をする旅	7.8	17	子どもや孫と交流するプログラム参加	4.2
18	ロケ地を訪問する旅	5.5	18	創作体験をする旅	4.1
19	農業体験や滞在を楽しむ旅	3.1	19	農業体験や滞在を楽しむ旅	2.2
20	漁業体験や滞在を楽しむ旅	2.0	20	ボランティア活動に参加する旅	1.7
21	ボランティア活動に参加する旅	1.3	21	漁業体験や滞在を楽しむ旅	1.5

資料) 日本生産性本部「2015 レジャー白書」

### 産業観光の経験者は年配者が中心

産業観光に関連した旅行形態の経験率を男女・年代別に見たものが下表である。これによると上の年代ほど経験率が高くなる傾向が見られる。「世界遺産を訪問する旅」や「ものづくりの現場を見学する旅」では、男性よりも女性の方が経験率が高めであるが、「歴史的遺産を訪問する旅」では男性の方が経験率が高い。

男女・年代別に見た産業観光に関連した旅行経験（2014年）

(単位:%)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
世界遺産を訪問する旅	男性	6.8	11.2	11.3	14.5	19.0	22.1	32.4
	女性	5.4	18.9	15.8	20.0	20.8	32.2	38.6
歴史的遺産を訪問する旅	男性	7.6	8.7	10.2	10.2	13.1	10.4	15.4
	女性	8.9	6.9	6.5	8.1	9.5	9.4	8.7
ものづくりの現場を見学する旅	男性	9.3	11.7	1.5	5.9	9.5	6.8	10.4
	女性	9.8	6.5	6.5	11.3	11.4	13.1	10.0

資料) 日本生産性本部「2015 レジャー白書」より九州経済調査協会作成

### 世界遺産訪問は若い女性の潜在需要が高い

産業観光に関連した旅行形態の潜在需要（上記の経験率から希望率を引いたもの）について見てみると、「世界遺産を訪問する旅」の潜在需要が高いことがわかる。とくに若い女性においてその数値が高くなっている。世界遺産には屋久島や知床のような自然遺産も含まれるが、調査実施年の2014年は、富岡製糸場と絹産業群の世界遺産登録がなされた年でもあり、産業観光（近代化産業遺産）に対する関心の高まりが反映されていると考えられる。

男女・年代別に見た産業観光関連の潜在需要（2014年）

(単位:%)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
世界遺産を訪問する旅	男性	11.0	8.2	11.3	11.6	12.0	8.5	1.7
	女性	25.0	15.7	11.9	18.4	11.8	8.1	▲ 2.1
歴史的遺産を訪問する旅	男性	6.0	9.7	4.9	6.0	7.9	2.6	▲ 2.2
	女性	5.4	3.2	5.8	3.8	1.1	1.0	▲ 0.4
ものづくりの現場を見学する旅	男性	1.7	▲ 1.5	6.0	4.3	3.2	2.6	▲ 4.9
	女性	0.9	6.9	9.3	3.5	▲ 3.4	▲ 5.7	▲ 3.8

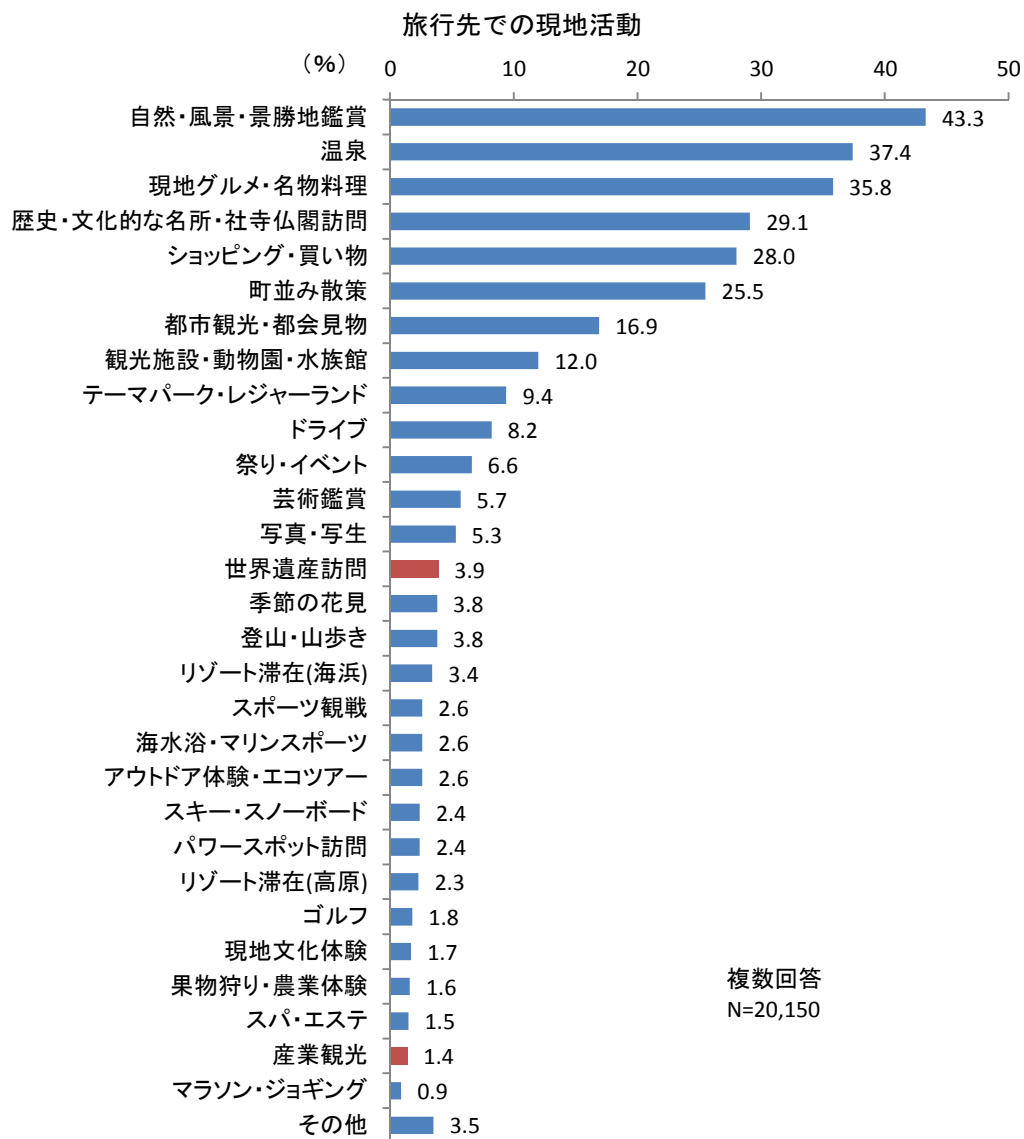
注) 潜在需要の算出方法=経験率（上表）－希望率

資料) 日本生産性本部「2015 レジャー白書」より九州経済調査協会作成

## 産業観光は観光全体で見ると少数派

関心の高まりつつある産業観光であるが、ボリュームで見た場合には依然少数派であることも事実である。JTBF 旅行実態調査によれば、旅行先での現地活動として上位にあがっているのは「自然・風景・景勝地鑑賞」や「温泉」、「現地グルメ・名物料理」であり、これらは3割以上を占める主要な観光のコンテンツといえる。

一方、「世界遺産訪問」は3.9%、「産業観光」は1.4%となっており、観光の形態としては少数派である。しかしながら、「世界遺産訪問」は都道府県別に見ると、京都府や奈良県、広島県、沖縄県では10%を超えており、世界遺産を抱える地域では一定程度の観光客がいるものと考えられる。



資料) (公財) 日本交通公社「旅行年報 2015」より九州経済調査協会作成 (原資料: JTBF 旅行実態調査)



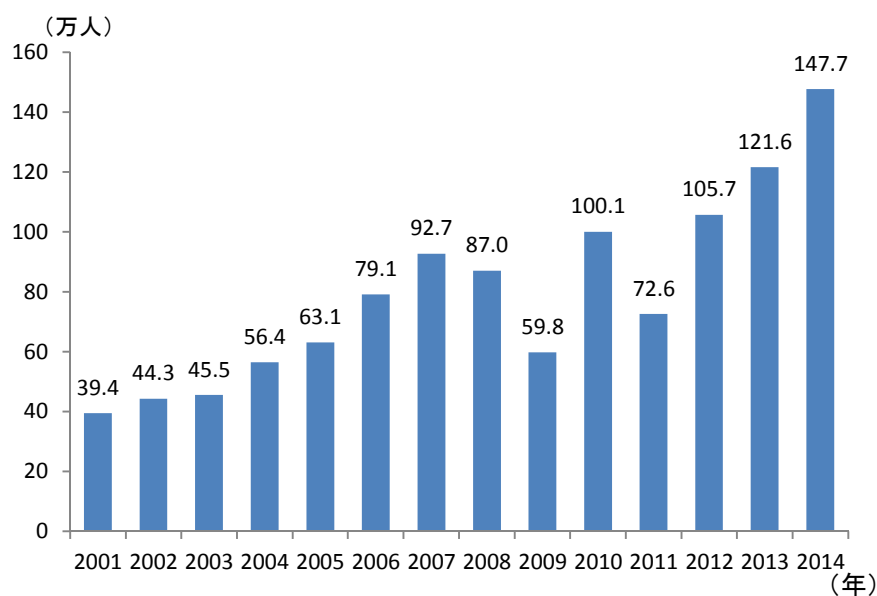
#### (4) インバウンドの動向と産業観光

##### 九州への外国人入国者数は右肩上がり増加

2014年における九州への外国人入国者数は147.7万人で、2001年と比較すると3.7倍の伸びとなっている。リーマンショックや新型インフルエンザの流行があった2009年、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故があった2011年には落ち込んでいるものの、基本的には右肩上がり増加している。

九州地方知事会や九州経済連合会などの経済団体が組織される九州地域戦略会議では、2013年に今後10年間程度の九州における観光戦略を定めた「第二期九州観光戦略」の中で、2023年の訪日外国人数440.6万人を目標に掲げており、インバウンドの拡大に向けたさまざまな施策を展開している。

九州への外国人入国者数の推移



資料) 法務省「出入国管理統計年報」

### 九州への外国人入国者数の9割以上はアジアから

九州への外国人入国者数を国・地域別に見てみると、アジアが139.3万人で、全入国者数（147.7万人）の94.3%を占めている。アジアの中では、韓国が85.6万人で全入国者数の57.9%を占めている。次いで多いのは、台湾の14.3万人、中国の14.2万人、香港の8.3万人、タイの4.3万人で、上位5カ国・地域はすべてアジアである。

対前年の伸び率で見ると、総数では21.5%の伸びとなっている。すでに多くの入国者数がある韓国では7.7%と低い水準であるが、それでも増加傾向にある。伸び率の高い国・地域は、タイ（90.4%）、オセアニア（83.0%）、香港（78.7%）、中国（74.8%）といったところが目立っている。

九州への国・地域別外国人入国者数（2014年）

	2014年		
	入国者数 (人)	構成比 (%)	伸び率 (%)
総数	1,477,223	100.0	21.5
アジア	1,393,280	94.3	20.5
韓国	855,802	57.9	7.7
中国	142,174	9.6	74.8
台湾	211,846	14.3	25.2
香港	83,133	5.6	78.7
ベトナム	8,282	0.6	34.1
タイ	43,068	2.9	90.4
フィリピン	12,320	0.8	15.3
インドネシア	4,470	0.3	21.2
インド	1,624	0.1	7.5
その他のアジア	30,561	2.1	51.1
ヨーロッパ	30,669	2.1	46.4
アフリカ	812	0.1	7.7
北米	39,072	2.6	27.7
南米	814	0.1	31.1
オセアニア	12,554	0.8	83.0
無国籍	22	0.0	▲ 42.1

資料) 法務省「出入国管理統計年報」

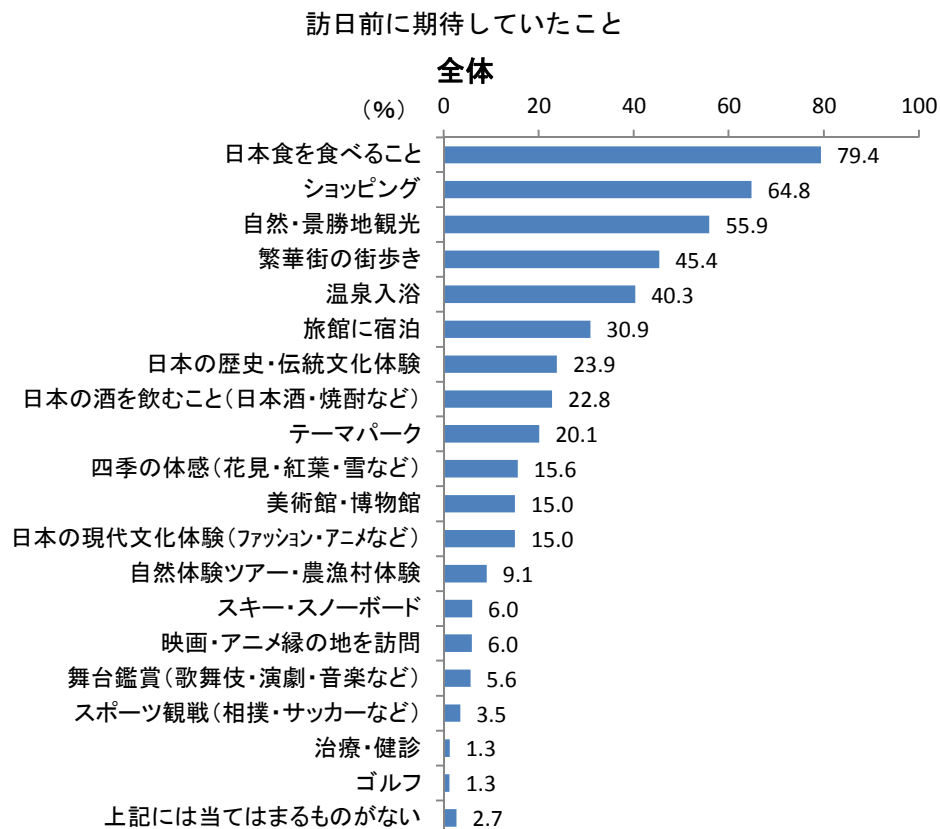
## 日本食、ショッピング、自然・景勝地が人気

日本を訪れる外国人の観光ニーズはどのようになっているだろうか。観光庁「訪日外国人消費動向調査（2014年）」では国・地域別に、そのニーズを調査している。

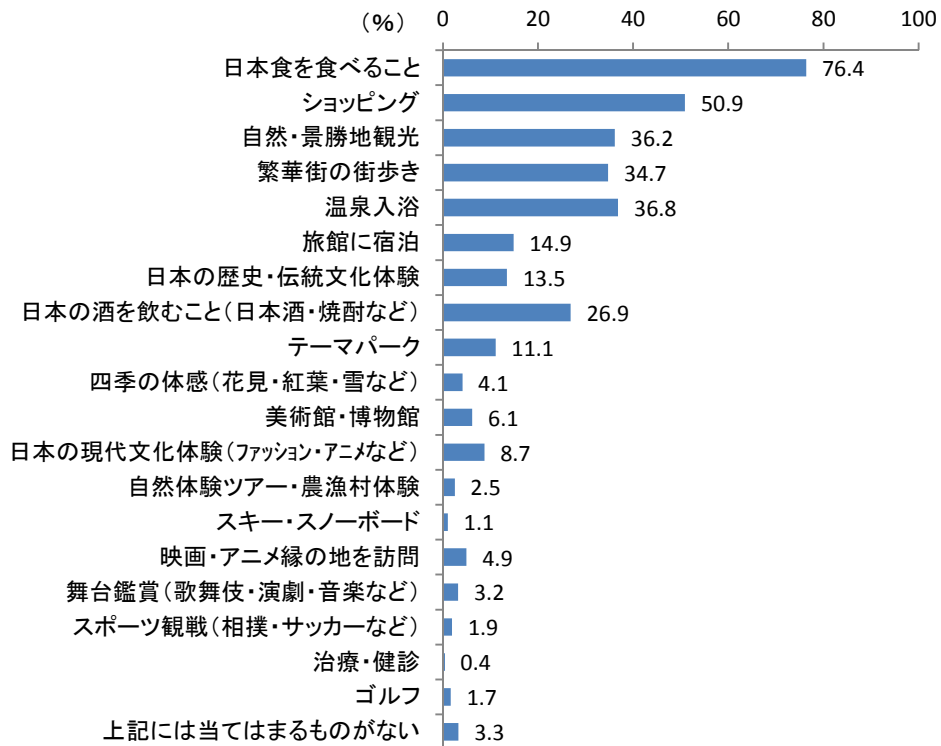
これによると、最も多かったのは「日本食を食べること」で79.4%に上った。次いで「ショッピング」が64.8%、「自然・景勝地観光」が55.9%、「繁華街の街歩き」が45.4%、「温泉入浴」が40.3%であった。

産業観光に関連するような選択肢である「日本の歴史・伝統文化体験」は23.9%、「日本の酒を飲むこと」は22.8%、「美術館・博物館」と「日本の現代文化体験」はともに15.0%であった。これについて、九州への入国外国人の多い5カ国・地域（韓国、台湾、香港、中国、タイ）とアジアでありながら文化的には大きく異なるインド、アジアとは異なる文化圏であり、観光のニーズも異なると考えられる英国、米国も加えて比較を行った。

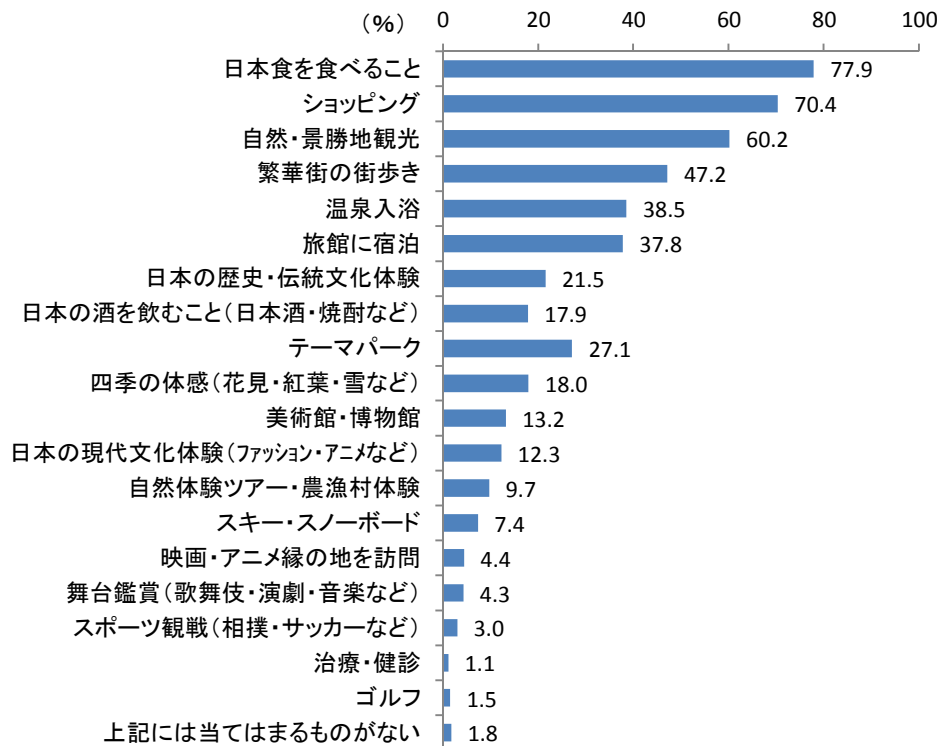
これによると、産業観光に関連するような選択肢に関しては、九州への入国外国人の多い5カ国・地域では全体よりも低い数字を示しており、文化が大きく異なるインドや英国、米国では高い値となっていることがわかる。

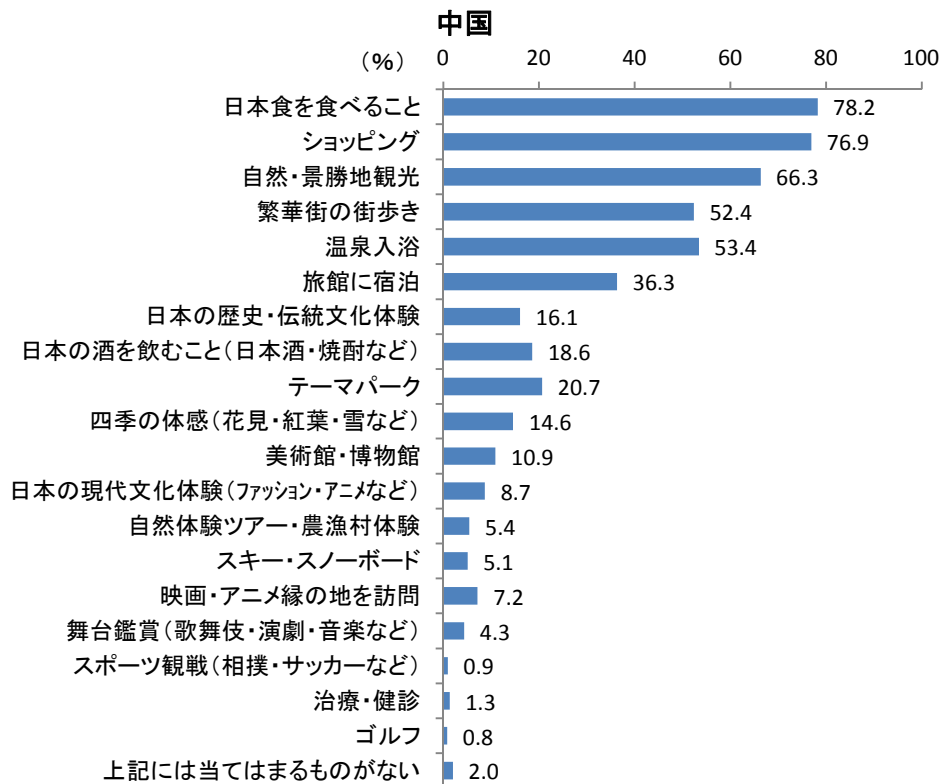
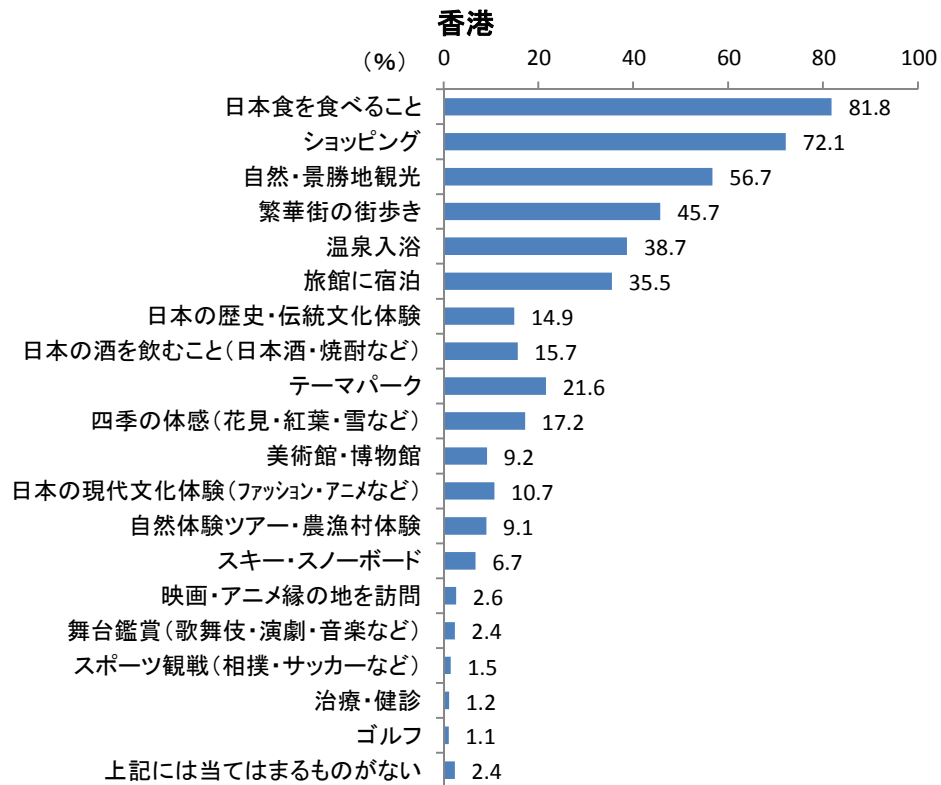


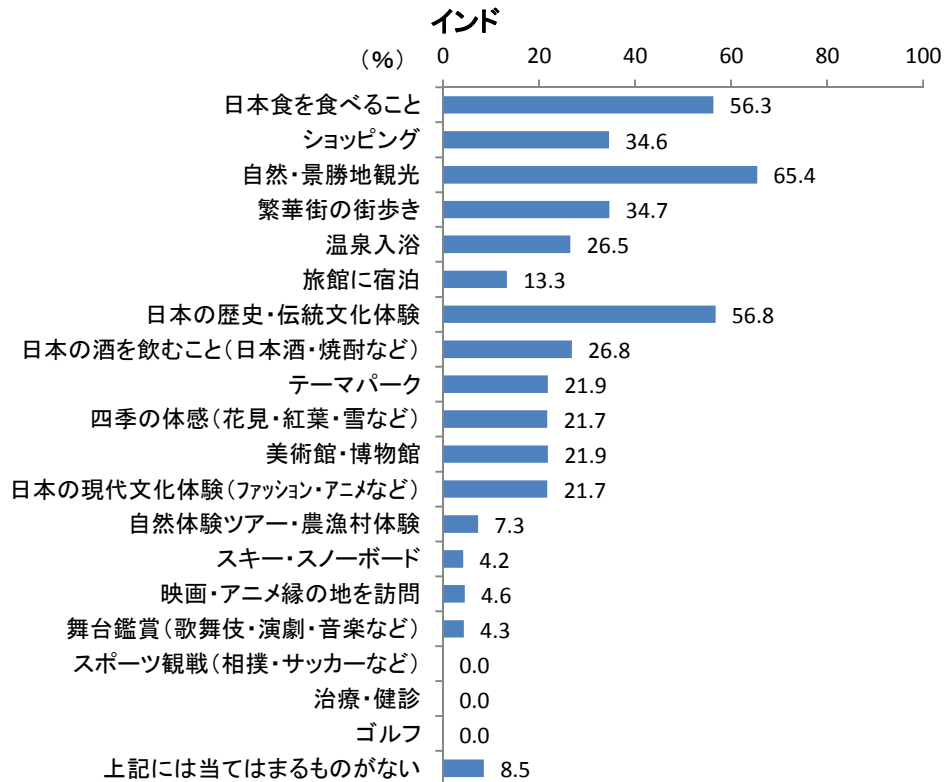
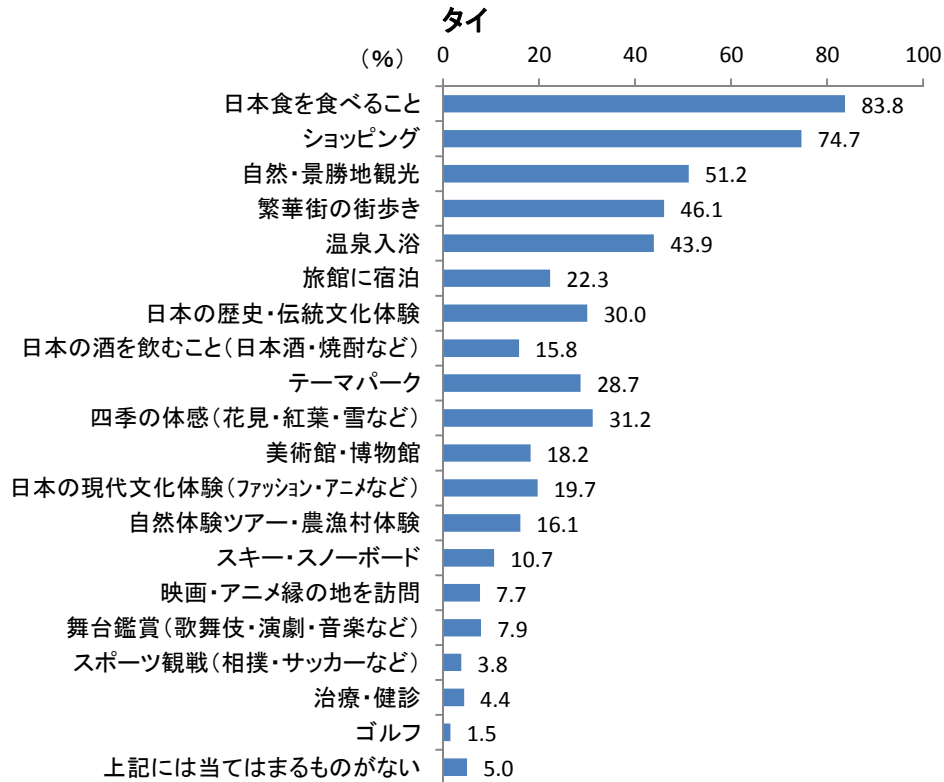
### 韓国

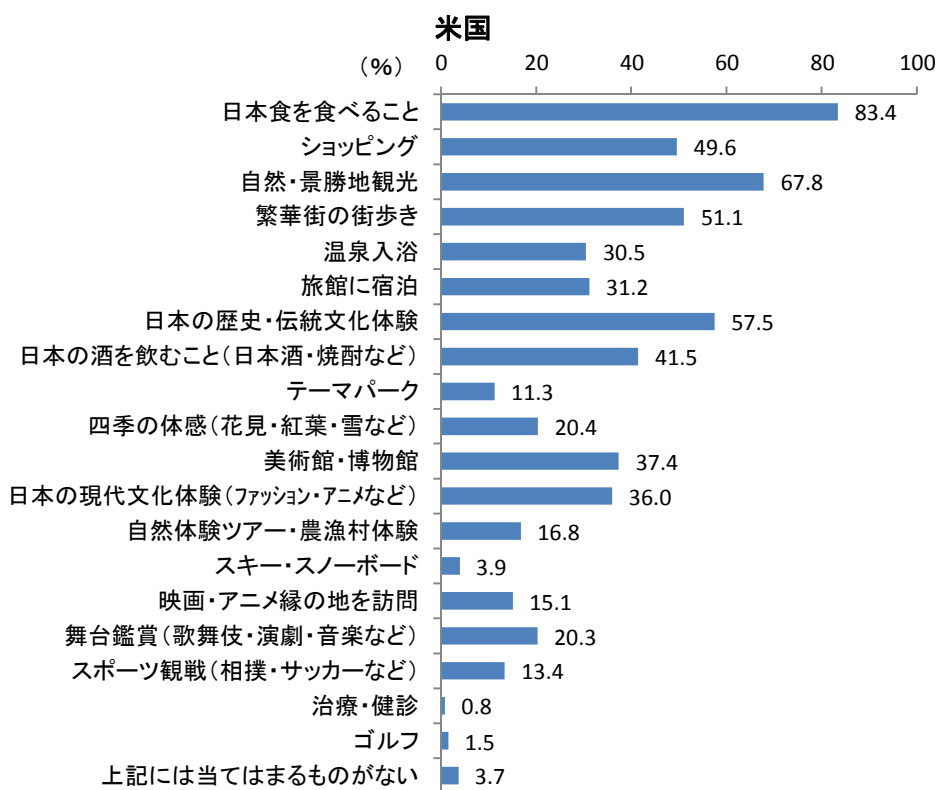
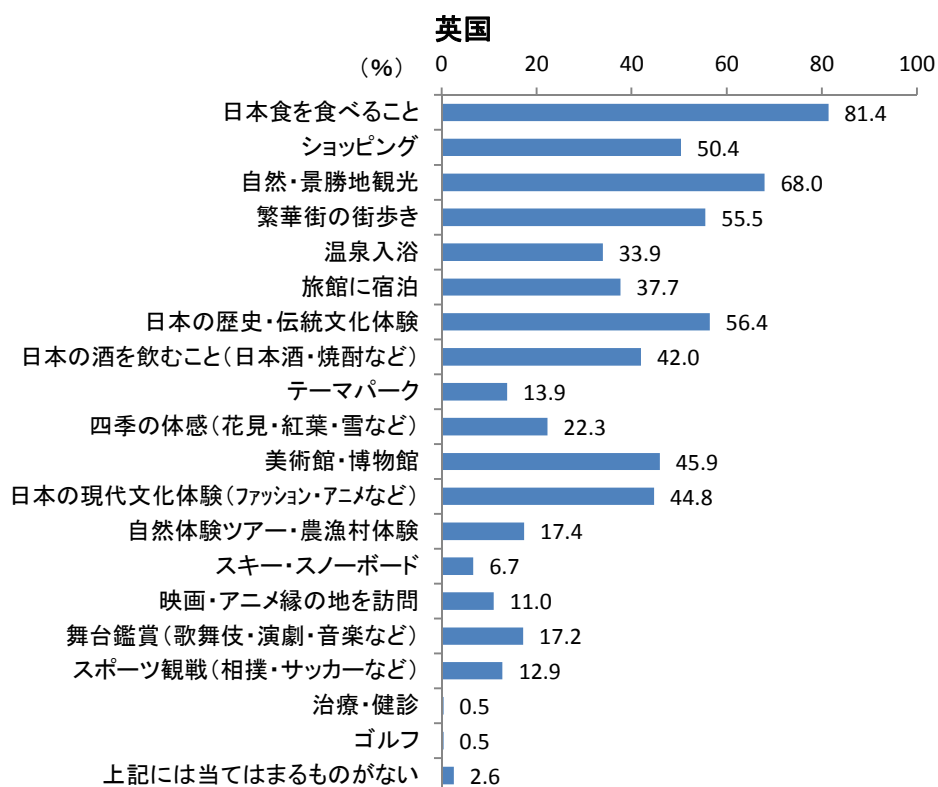


### 台湾







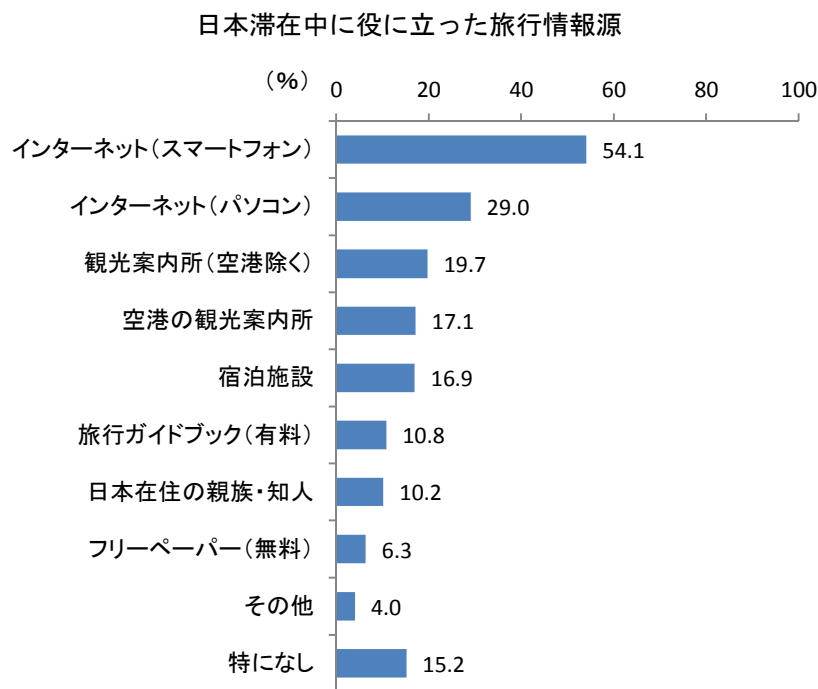


資料) 観光庁「訪日外国人消費動向調査(2014年)」

### スマートフォンが主要な旅行情報源

日本滞在中に役に立った旅行情報源について見てみると、「インターネット（スマートフォン）」が54.1%で最も多く、2番目に多い「インターネット（パソコン）」の29.0%を引き離している。3番目以降は、「観光案内所（空港除く）」の19.7%、「空港の観光案内所」の17.1%、「宿泊施設」の16.9%であり、固定された場所での情報収集ではなく、外出先で必要なときに必要な情報を入手している様子うかがえる。

国・地域別で見た場合も、「インターネット（スマートフォン）」はほとんどの国・地域でトップになっており、とくにアジアの国・地域からの旅行者におけるスマートフォンからの情報収集の傾向が顕著にうかがえる。



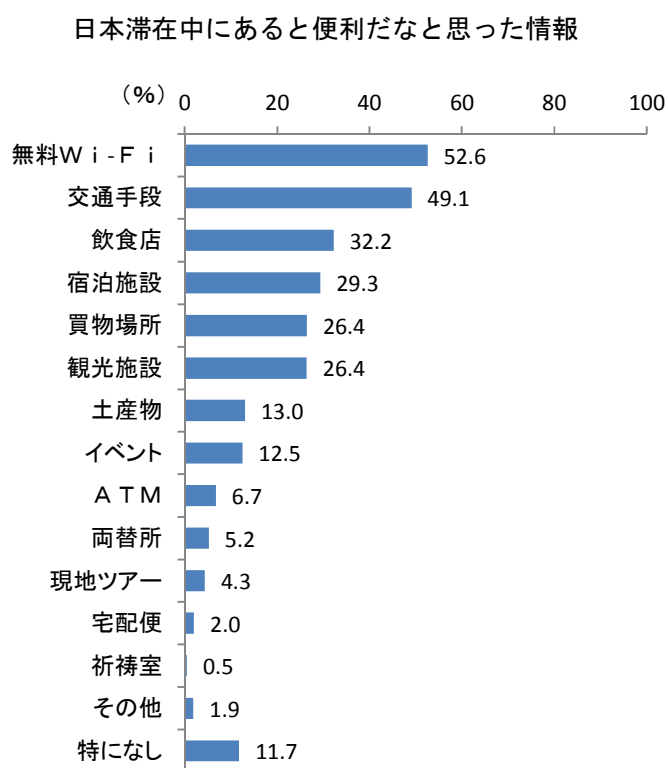
資料) 観光庁「訪日外国人消費動向調査(2014年)」



## 無料 Wi-Fi への高いニーズ

日本滞在中にあると便利だと思った情報について見てみると、「無料 Wi-Fi」が 52.6%で最も多く、次いで「交通手段」が 49.1%、「飲食店」が 32.2%で続いており、分野別の情報よりも、情報にアクセスするための手段となる無料 Wi-Fi に対して高いニーズがあることがわかる。また、前述の旅行情報源にもあるように、スマートフォンからの情報収集が主流となるなかで、それを実現させるための無料 Wi-Fi を求める意見が多くなっているとも考えられる。

国・地域別で見た場合も、「無料 Wi-Fi」はほとんどの国・地域でトップになっており、とくにアジアの国・地域からその傾向が顕著である。



資料) 観光庁「訪日外国人消費動向調査(2014年)」

## Ⅱ．九州における近代化産業遺産の保存・活用の現状と課題

### 1．アンケート調査の概要

経済産業省では、平成 19・20 年度に「近代化産業遺産群」の認定を通じ、産業観光の振興に努めてきたが、認定から 7～8 年が経過し、その間には「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録など、九州の近代化産業遺産を取り巻く状況は大きく変化していることから、九州管内の「近代化産業遺産群」に認定された施設の管理者に対して、近代化産業遺産の認定後の現状や活用状況、課題、他の観光資源や観光振興に関連する組織との連携状況などについてアンケート調査を実施した。

調査の概要と結果のポイントは以下に示すとおりである。なお、調査票は巻末の参考資料に添付している。

#### 【調査の概要】

調査対象：経済産業省が平成 19、20 年度に認定した近代化産業遺産  
(そのうち管理者がわかっているもの)

発送数：195 件 (近代化産業遺産 1 件につき 1 通発送)

回収数：138 件

回収率：70.8%

実施時期：2016 年 1 月

#### 【結果のポイント】

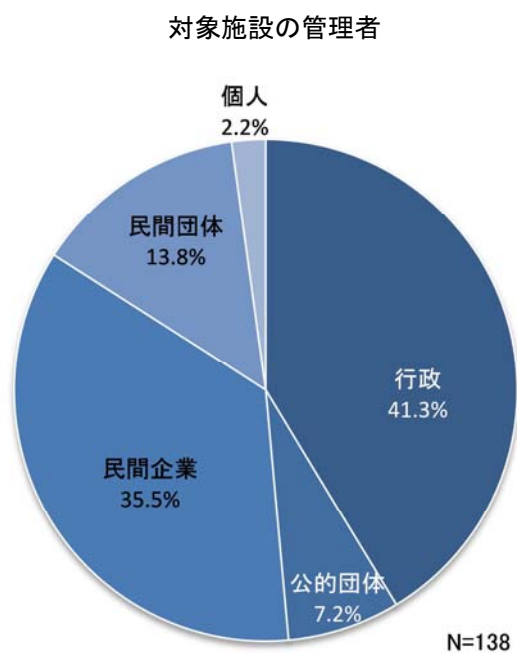
- 近代化産業遺産は、稼働中、非稼働、転用にほぼ三分
- 近代化産業遺産認定、世界遺産登録により約半数の施設で見学者や問い合わせが増加
- ストーリーを活用した取組は 6 割が実施、他の観光資源との連携模索が主体
- 条件付きも含め 8 割超が一般公開、うち有料公開は 4 割、ガイドありは 6 割 (無料が多い)
- ガイドの課題は、繁閑差による人繰り、資金面、ガイドの高齢化が主
- 外国語の受入環境整備はまだ
- 活用の課題は、維持・補修のコストのほか、活動資金や人材の問題も
- 来場者の増加は、住民の誇り・意識向上に最も貢献

## 2. アンケート調査の結果

### (1) 近代化産業遺産の現状

近代化産業遺産の管理者は官民半々

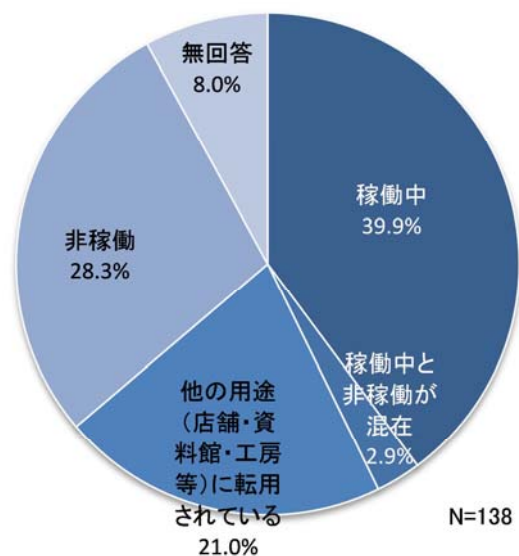
近代化産業遺産の管理は、官（行政、公的団体）48.5%、民（民間企業、民間団体、個人）51.5%とほぼ二分されている。



#### 4 割が稼働遺産

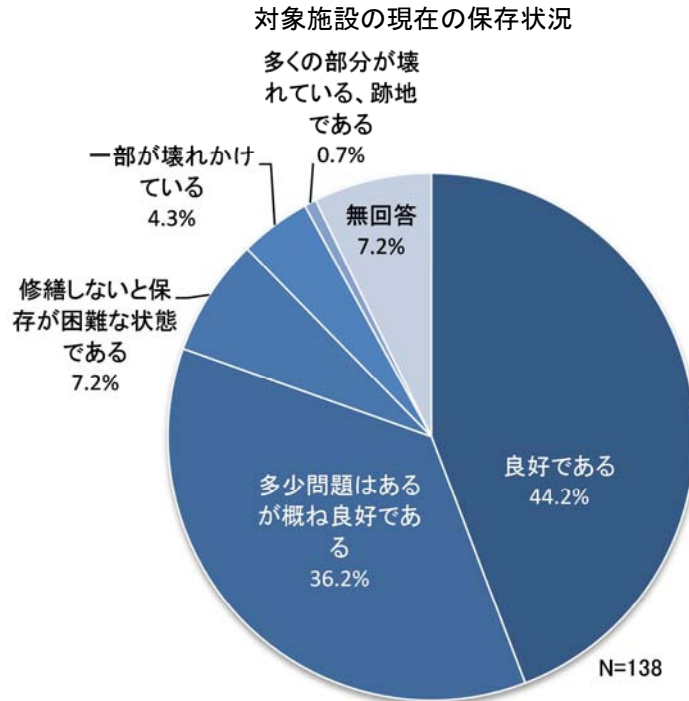
近代化産業遺産の 42.8%が現在も稼働（非稼働混在含め）している。また、店舗や史料館工房といった他の用途に転用されているものも 21.0%存在しており、非稼働となっている近代化産業遺産は 28.3%であった。

対象施設の現在の稼働状況



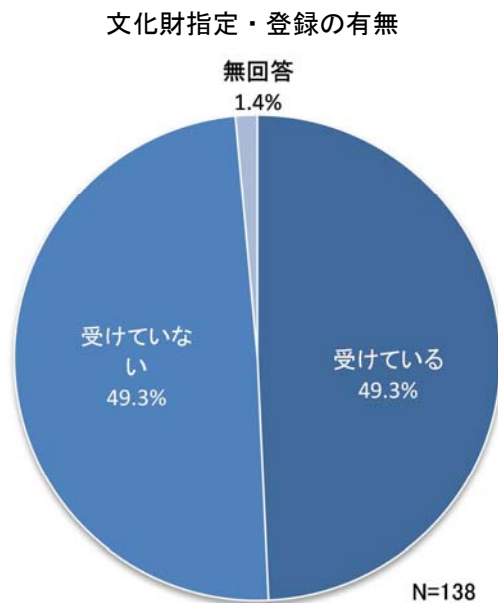
### 保存状態良好が8割

近代化産業遺産の保存状態は、「良好」「概ね良好」を合わせて、80.4%が良好である。



### 文化財指定・登録は半数

近代化産業遺産の49.3%が、文化財指定・登録を受けている。



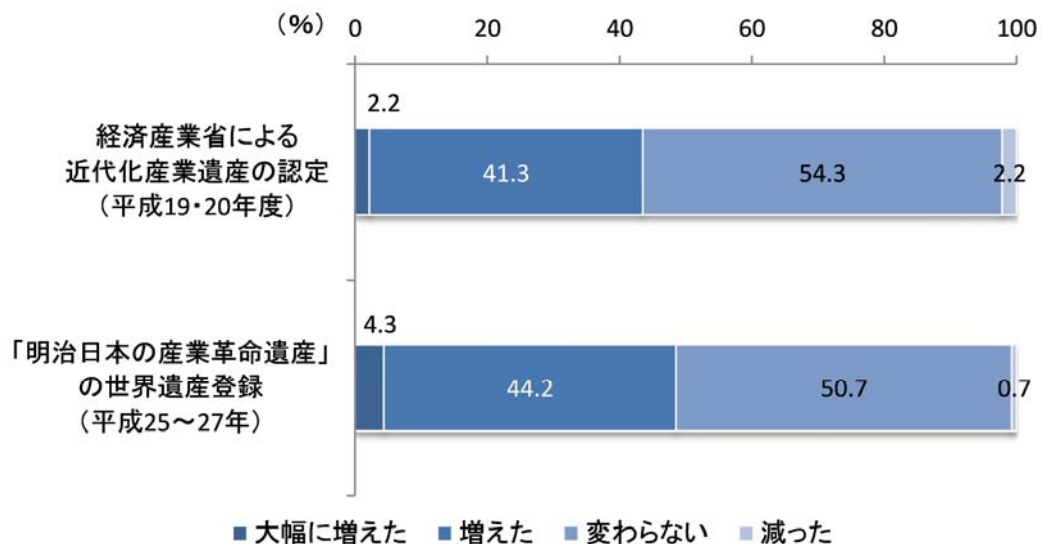
## (2) 近代化産業遺産の認定やストーリーの活用状況

### 4割が近代化産業遺産認定や世界遺産登録による見学者・問い合わせ増

平成19・20年度の近代化産業遺産の認定によって見学者や問い合わせが増えたとする施設（「大幅に増えた」と「増えた」の計）は43.5%に達し、近代化産業遺産の認定が半数近くの施設でプラスに作用したことがうかがえる。

また、平成25～27年にかけての世界遺産登録をめぐる動きによって「大幅に増えた」、「増えた」とする施設は48.5%に達している。回答者には世界遺産登録された施設も含まれているが、そうでない施設の方が多くを考えると、世界遺産登録が契機となって近代化産業遺産に対する注目が高まっているといえる。

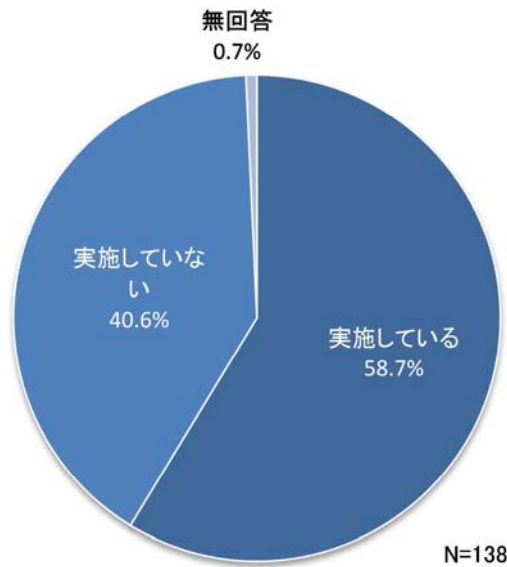
近代化産業遺産認定、「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録をめぐる一連の動きを受けての見学者や問い合わせの増減



### 約6割の施設でストーリー等を活用した取組実施

回答全施設（138 施設）のうち、58.7%（81 施設）が認定資産やストーリーを活用した取組を行っている。実施していないのは40.6%（56 施設）。

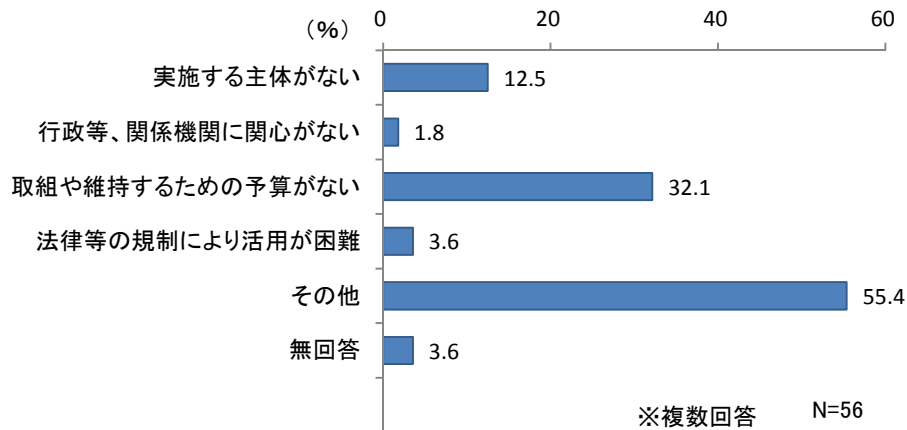
認定資産やストーリーを活用した取組の実施状況



### 取組が進まない一番の理由は「予算がない」

ストーリーを活用した取組を行っていないと回答した56施設において、その32.1%が「予算がない」と回答。その他としては、「稼働遺産である」「ノウハウがない」などが挙げられた。

取組を実施していない理由



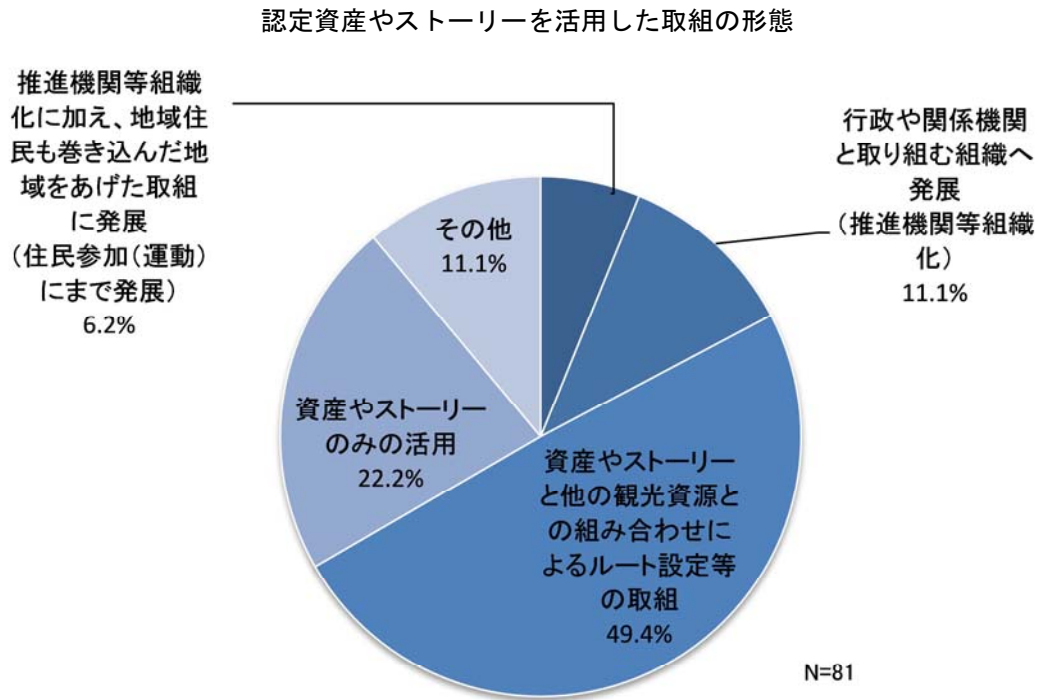
### 「その他」の具体的内容

稼働資産であるため
稼働中の工場内建屋であり、一般見学で公開するものではないため
構内外に立地する稼働施設であるから
ノウハウがない
国から統一した展示の指示がないため
マンパワー不足、当該資産単体での取り組みには限界があるため
ストーリー等がない
外観及び看板を見てもらうのみ
教育的資源を併せ持つため観光偏重が懸念される
産業遺産との関連性がPR要素になりにくい
平成28年度に大規模耐震工事等を計画しており、事前に申入れがあった場合のみ公開
休館中。特別開館のみ
他部署が主体となり実施している
県に移管
所有者との調整がつかないため
別の用途として使用しているため
特段理由はない



### 3分の2の施設で自施設に留まらない取組

ストーリーを活用した取組を行っているという回答した81施設において、その66.7%が「他の観光資源との組み合わせによるルート設定等の取組」「推進機関等組織化」「住民参加（運動）」にまで活動の幅を広げている。



### 「その他」の具体的内容

博物館での関連展示
文学館としての観点から関わり等を紹介している
ストーリーを利用したボランティアガイドによる施設案内
行政・関係機関・ボランティア団体で連携し保存・活用
ウォーキングイベント等のコースとして活用

## 地元の理解と巻き込み

取組を進めるためには、近代化産業遺産に対する地元の理解が不可欠であり、行政や関連機関、なによりも住民を巻き込めるかどうか重要である。

### 取組に至るまでにうまく進んだ理由や障害となったこと

世界文化遺産に登録されたことによる対応
世界遺産登録の機運となりうまく進んだ
地域住民の活動から保存や活用の動きが進んでいった
地域住民の協力により、現在も地域活性化の柱となっている
「町歩き」や「史跡めぐり」等のイベント時には解説ボランティア等の協力で公開し活用している
近代化産業遺産の認定、開設 100 周年が同時期であり、地域を挙げて機運の盛り上がりにつながった
調査研究の結果、事実に基づいたストーリーがわかったこと
来館者に対し歴史的位置付け等細かな説明と案内を行い満足していただいている
近代化産業遺産の認定について、大学内外の学識者によって作成した近代建築物の評価報告書に記載された
当施設は文化財登録もされ、行政からの見学申込や施設めぐりの見学者が増加
近代化産業遺産として認定された事がこれからの技術向上等になると思う
行政が入ることにより、国・県・市との調整が容易になった
施設の修繕等は行政で行っている
県・市・民間の協働に工夫が必要
商工会議所との連携により見学者が増えた
他機関との連携不足のため進んでいなかったが世界遺産登録後、実施した特別展後、連携が進んだ
バス等が利用できる駐車場の整備が出来、集客につながった
区画限定であるが見学コースを設けた
管理している企業のご協力によりうまく進んだ
資産に関するエピソード等に対し、マスコミ等が関心を持った
外部営業活動により集客出来た
大学の研修、街中の案内、出前講演等を行う
年 1 回、一斉公開しているほか、地域の団体と共に展示会等をしている
無人の敷地家屋であるため通常機械警備で管理している
●経済産業省認定の近代化産業遺産そのものの認知度、訴及力がない
●世界遺産登録に対して地元の取組が乏しい
●一見、その凄さが伝わりづらいこと
●資産の説明が専門的になりがちのため、一般向けに正しく資産の価値を伝えることが難しい
●観光行政との接点が少なく広域的な取り組みが不足している

●障害になったことは、生涯学習施設と併用であること
●ボランティア団体の自己資金での活動のため、イベントの拡大は難しい
●ボランティアガイド不足、高齢化
●所有企業との協議がなかなか進まなかった（というより市の財政的余裕がなかった）
●現在、仮置きという形で、工場敷地内に留めさせていただいているため限定的な公開とならざるを得ない
●会社の休日の申込もあり、対応難である
●周辺漁業関係者との調整
●建物が相当傷んでおり、修復に相当の費用がかかった
●年々建物の老朽化が進んでいる

●は障害となったこと

### 周知と協力体制

取組を進めるには、まずは「周知」と、官民含めた協力体制を作っていくことから始めるべきとの意見が多く挙がっている。また、予算面での不安を挙げる声も根強い。

#### 今後、認定資産やストーリーを活用した取組を進めていく上での課題

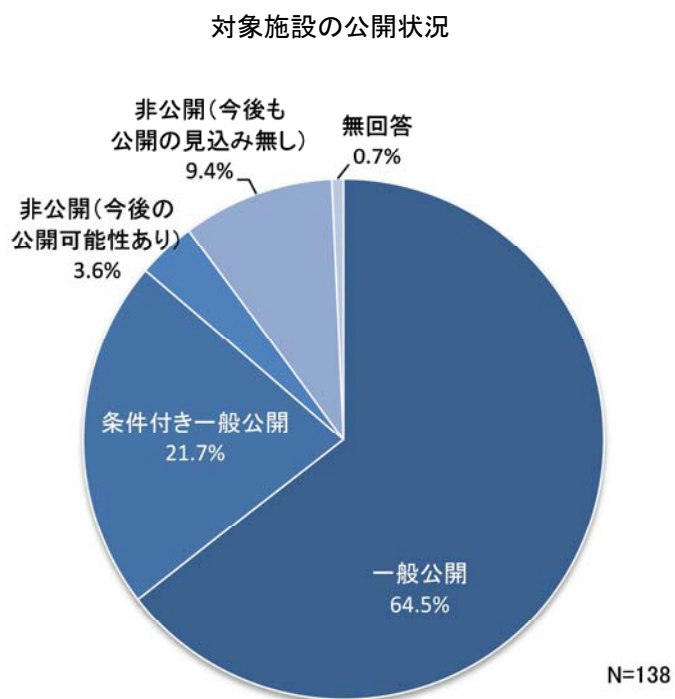
きちんと、そのすばらしさを”伝える”広報の部分
マスメディアを活用した周知の徹底
認定資産についてのアピールが必要
効果的な PR
もっと PR を行い、来店者を増やす事が大事と考える
認定資産の周知
まずは知っていただくためのイベントからスタートしたい
情報発信に力を入れていく必要がある
取組（イベント等）の周知が必要
稼働、非稼働に限らず施設所有者の理解で協力を得ながら資産の活用を図る
貴重な遺産であり、官民が一体となってより一層活用していく必要がある
「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産に登録された事業と連携のとれた取組が必要である
他の資産との連携強化
行政を巻き込んだ町づくりの一環として取組を進めていきます
地域団体と共に出来る事をやる
行政だけでなく、民間の力を取り入れた利活用
収益性の高い事業の取組

ボランティアガイド不足、高齢化
見学者数が大人数である場合、説明・案内者の数が追いつかない
入館者増時の施設関係スタッフの対応
構内に立地するため一般公開が不可
稼働中の資産であるため一般公開が不可
観光施設とコミュニティ施設との区分が明確でない
生涯学習施設と観光施設の両面をもっており観光施設に特化した取り組みが難しい
生活道路であり、観光資源としての活用は困難
資金
継続的に PR していくための予算やマンパワーがない
安全対策面での予算不足
予算やマンパワー不足に加え当該資産の所有者・管理者が各々違うため調整が困難（取りまとめ部署の不在）
老朽化による修繕が課題である
対象施設の一部は修復して店舗として利用しているが、未修復の施設の傷みが進み、対応に苦慮している
施設は、二つの世界遺産の中間にあって素通りの状態である。
資産が全国にわたって点在しているため、一度に全ての資産をまわる観光ルート等の形成が難しい
どのような活用方法が好ましいのか分からないので、モデルとなる活用例などがあれば見てみたい

### (3) 近代化産業遺産の公開・活用状況

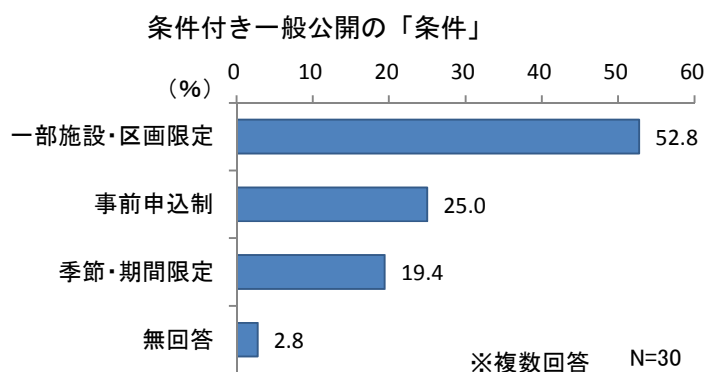
#### 一般公開は8割強

全 138 施設のうち、条件付きを含めて一般公開している施設は 86.2% (119 施設)。逆に、9.4% (13 施設) は将来的にも非公開の見込み。



#### 条件付き一般公開施設の半数が区画限定

条件付きで一般公開している 30 施設の公開条件では、「一部施設・区画限定」が 52.8% と半数を超える。

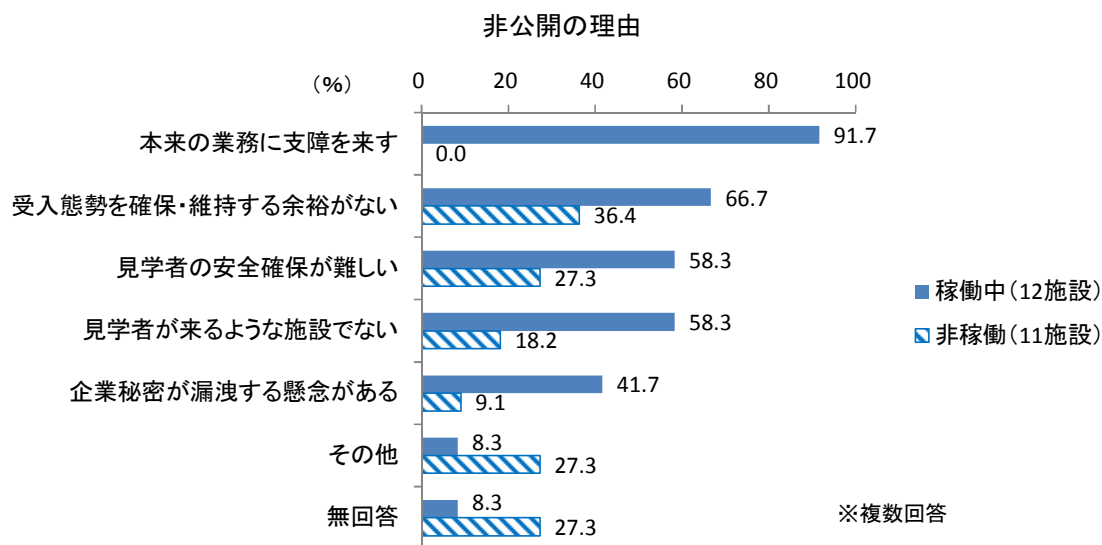


### 稼働中の施設の非公開の理由は本来業務への支障

非公開の 18 施設と条件付き一般公開施設のうち 5 施設から寄せられた非公開の理由は、施設が稼働中かどうかで回答が大きく異なる。

稼働中の 12 施設では、91.7%（11 施設）で「本来業務に支障」となった。

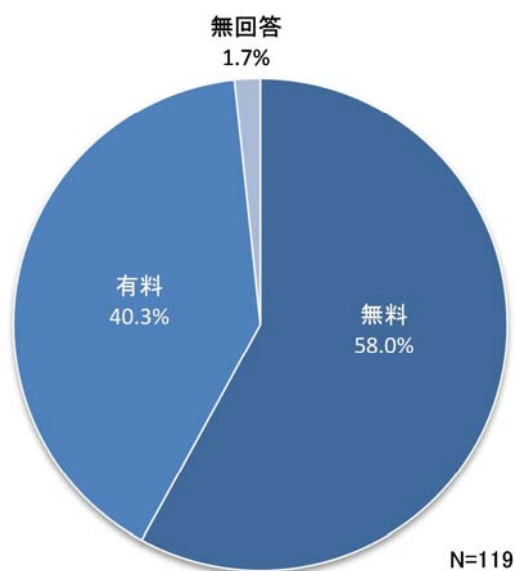
非稼働の 11 施設では、「受入態勢の余裕がない」（36.4%）、「安全確保が難しい」（27.3%）が上位となった。



### 一般公開施設の6割弱が無料公開

条件付きを含め一般公開している 119 施設のうち、58.0%が無料、40.3%が有料である。

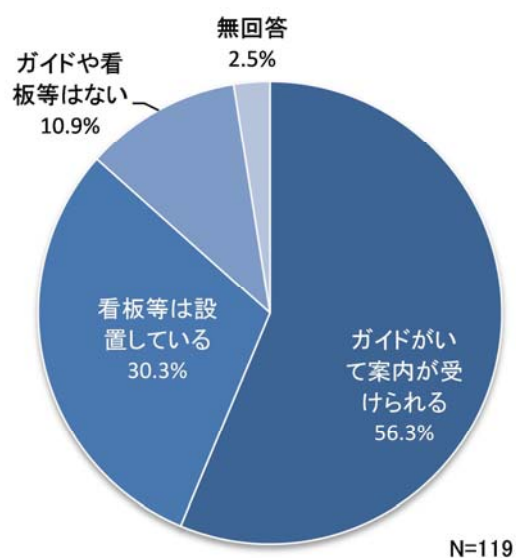
施設公開の有料／無料の別



### 一般公開施設の半数以上には案内ガイド有り

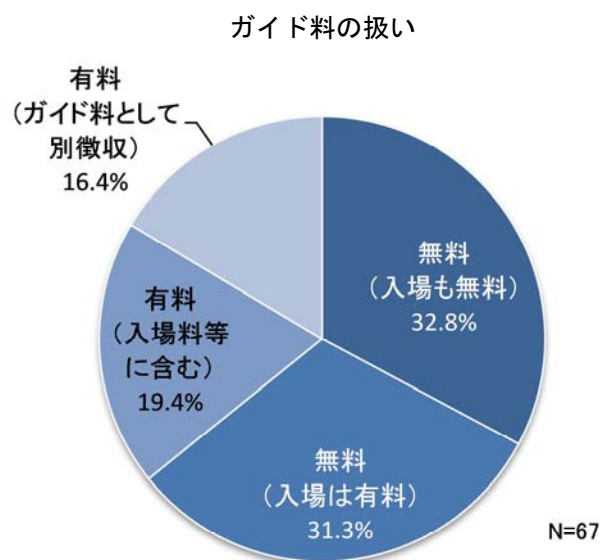
条件付きを含め一般公開している 119 施設のうち、ガイドによる案内が受けられる施設が 56.3% (67 施設)。

公開形態の詳細



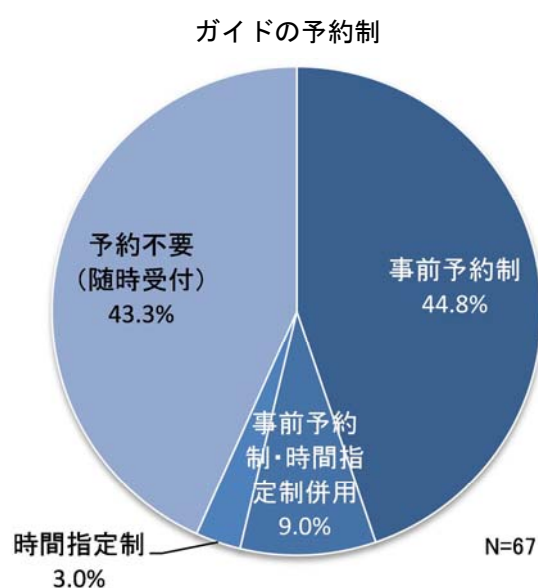
### ガイド有り施設の6割強が無料ガイド

ガイドがいる67施設において、ガイド料も入場料も無料は32.8%。なお、「無料（入場は有料）」は入場料が必要な施設だがガイドは無料と回答したもので、「有料（入場料等を含む）」と同意で回答したものもあると思われる。



### ガイドの随時受付は4割

ガイド有り67施設のうち、事前予約や時間指定などの条件がある施設は56.7%。ガイドによる案内を随時受け付けている施設は43.3%。

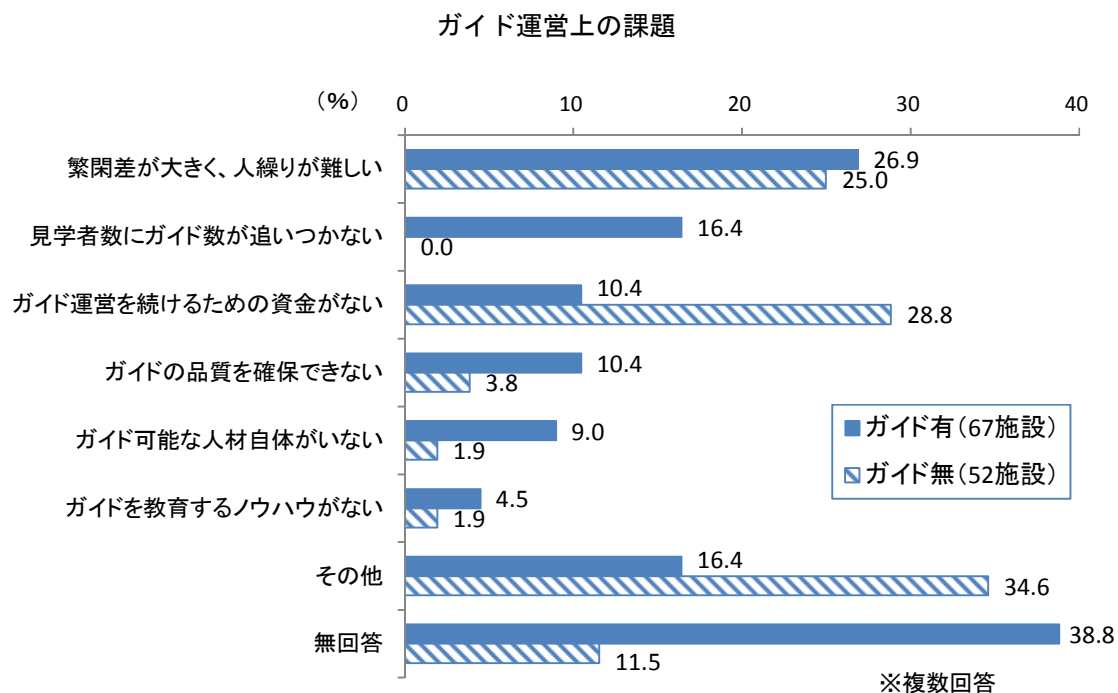




### ガイド運営にも資金と高齢化の壁が存在

ガイド運営上の課題は、一般公開施設であっても、ガイド有り（67施設）、ガイド無し（52施設）で異なる。どちらも4分の1が「人練りの難しさ」を挙げているが、ガイド無しでは、それ以上に「資金不足」（28.8%）が挙げられている。

その他として、ガイド有りでは「高齢化」が挙げられる一方、ガイド無しではそもそも「ガイドが不要な施設」というコメントも多かった。



その他の詳細（ガイド有り）

ガイドの高齢化と人数の確保
ガイド予約数が多く、ガイドの割振りとその連絡体制
土・日以外はこの場所で事業をしているので、簡単に説明できる
ガイド役は社員が行うので特に問題はない
日常の業務中に説明を実施している
飲食・サービス業という本来業務により見学できるスペースが限られている
通常無人であるため、急に見学に来られても対応できない

その他の詳細（ガイド無し）

営業を続けているので専属スタッフをもうける必要がない
担当部署等での対応が可能のため
見学者が少なく、ガイドを必要とする施設ではない
公園として整備しているのでガイドの配置は考えていない
一般公開している部分が登山道であり、対象施設専属のガイドが必要ない
学校内に所在するため、観光施設化の在り方との検討が必要である
対象施設は教育施設であり、観光施設ではないと考えているため
生活道路であり、ガイドを置いて案内する（常時）ものでない
ガイド等の必要性を認めない
モニュメントでありガイドは必要ない
外観及び看板を見てもらうのみ
休館中

## ガイドの運営方式は施設により異なる

ガイドとしては、職員が兼務するパターン、専門スタッフを配置するパターン、ボランティアガイドにお願いするパターンなどがある。

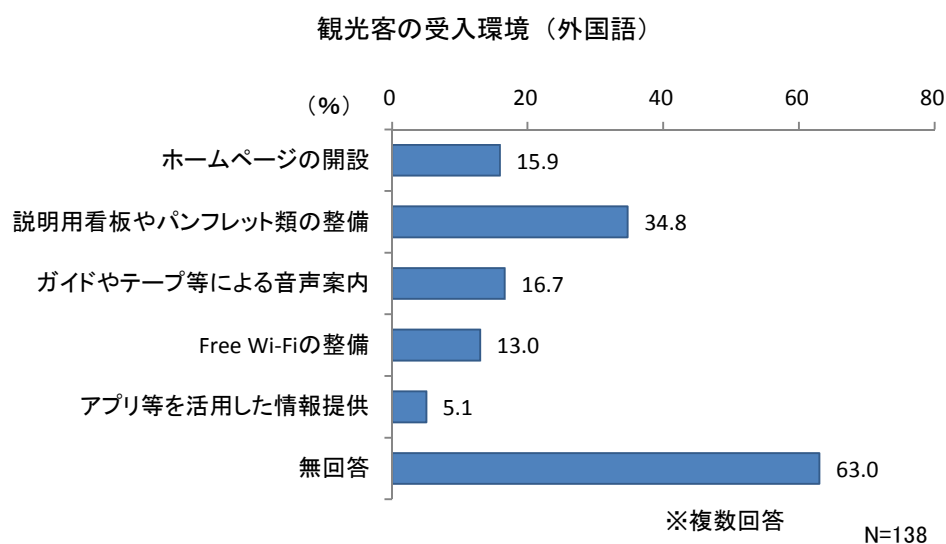
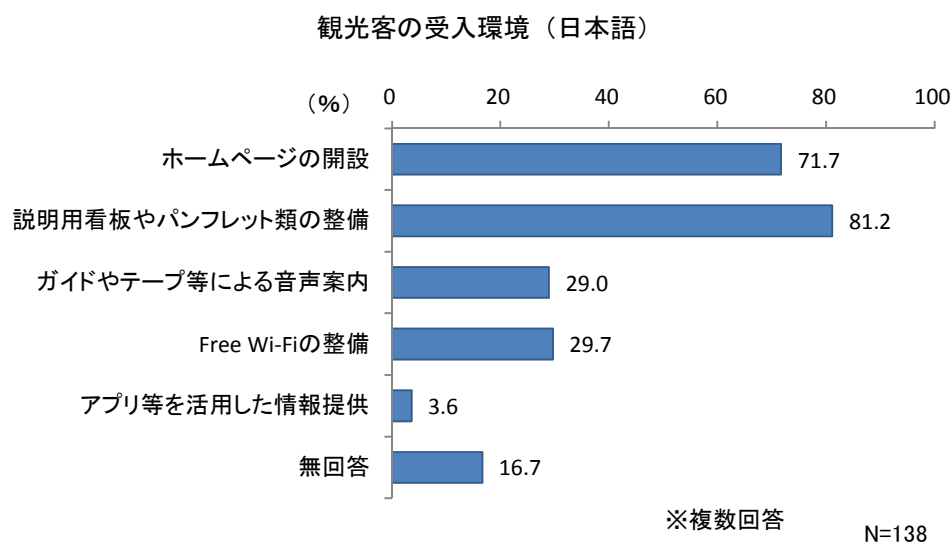
### ガイドの概要・特徴、運営上の工夫

予約団体は職員が対応。一般は要請があれば対応している
ガイドは職員みんなで行っている
受付業務、ガイド業務を兼務
従業員によるガイド運営をしているが、会食・宴会を承っている場合が多く、会館全体を見学できる時間が限られている。会食の予約を承れた場合のみ、館内案内をしている
職員による自主ガイド
社員によるガイドで、施設やその周囲の特徴等の説明を実施
職員（5人）が随時（ご希望があれば）ご案内している、ボランティアガイドはなし
製品の説明後、見学コースに案内するので製品のPRにもなる
専門ガイドは不在の為、経営者、社員等で説明する
指定管理制度の導入により民間ノウハウを活かした提案を受けて実施している。他の施設と一体管理することで、他施設との連携やクルーの確保ができています
事前に見学等の申込を頂ければ実行委員で対応
当社所属の専門ガイド
博物館内をメインで解説し、敷地内から館外の近代化遺産の解説も行う。主に博物館職員（嘱託）が行っているが、ボランティアで解説を行ってくださる方もいる
事前に常設展示の展示解説希望があった場合、学芸員が案内を行う。（ガイドというより展示解説）
専門の語り部による講話（30～40分） 10名以上の団体、事前予約（平日） ・土日祝は時間を決めて行い自由に聴ける、無料
認定されている物は明治期の職人が制作した工芸品で現在の職人が作った作品との展示ですので比較しながらの説明になる
地域住民におけるボランティアガイド
地域住民主体によるボランティアガイドの常駐案内、英・中・韓・仏など多言語対応可
研修を受けて修了したボランティアガイドのみが建物内でガイドを行っている
鉄道関連施設を元鉄道マンで構成されたボランティアガイドが案内
周辺住民有志で構成されたボランティア組織がもてなし
元炭坑マンにガイドを依頼
元炭鉱マンを会員に含む市民団体によるガイドを10～15時の間の1時間ごと・1日6回実施
観光協会のボランティアガイドの研修に協力している
少しずつではあるが、行政のボランティアガイドの養成を行っている

職員と施設のボランティアガイドで自主的に定期的に勉強会・発表会を行っている
年2回、ホームページやチラシ等で募集、月曜～日曜日までの7班体制、曜日ごとに10名ずつで活動
構内は機械説明をしている
外国語に対応したガイド機（@200円）34カ所 約50分の案内を用意している。
館内に数カ所、音声案内を設置している
Closed-Wi-Fiによる音声案内を導入（市より寄贈）スマートフォン対応
他施設の研修等によるスキルの向上
近隣自治体の御協力
観光船のガイドが資料館の案内をしている
ガイドの案内は来場者に随時行っているが、ガイドの予約を行う場合は1000円で別途受け付けている。
観光部署が土日祝日のみガイドを配置している
観光協会が運営。30分の基本コースがあるが、予約団体の時間に合わせて60分コースまで対応可能
自由見学で来場所も限定的なため、看板の充実が現実的

## 外国語対応は看板、パンフレットから

全 138 施設において、日本語による看板やパンフレット（81.2%）、ホームページの開設（71.7%）は進んでいるが、外国語に対しては、ホームページ（15.9%）よりも看板、パンフレット（34.8%）の整備が先行している。なお、外国語の無回答（63.0%）の多くは未対応と思われる。



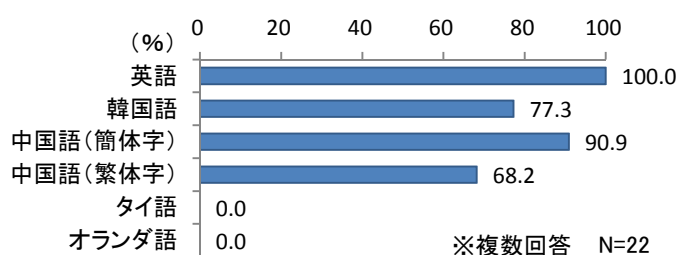
## 英語、中国語（簡体字）、韓国語、中国語（繁体字）の順に対応

外国語対応している施設で、対象物別にどの言語対応をしているかを確認した。なお、対応有りとしていても対応言語の記載がなかった施設は除いている。

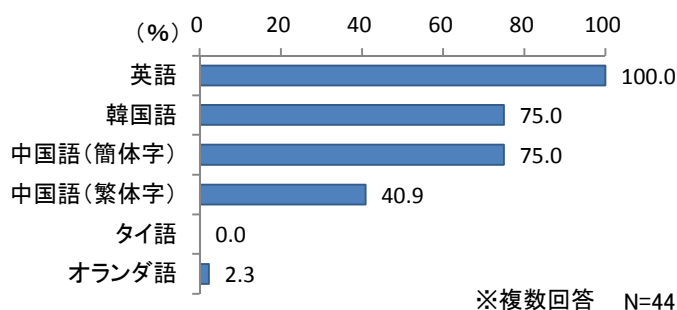
対応言語の傾向はどの対象物においても似ている。英語はほぼ 100%対応され、韓国語、中国語（簡体字）は8割程度の対応だが、若干、中国語（簡体字）対応の方が多い。中国語（繁体字）への対応は遅れ気味。施設との関連性により、タイ語やオランダ語に対応するケースもあった。

### 項目別観光客の受入環境（外国語）

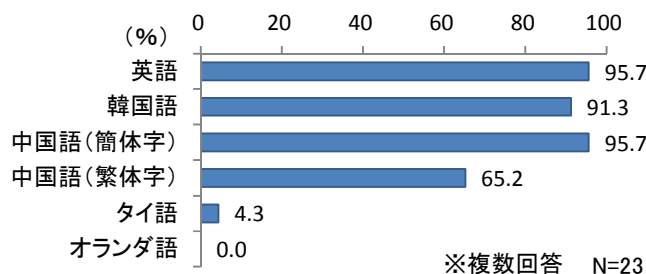
#### 【ホームページの開設】



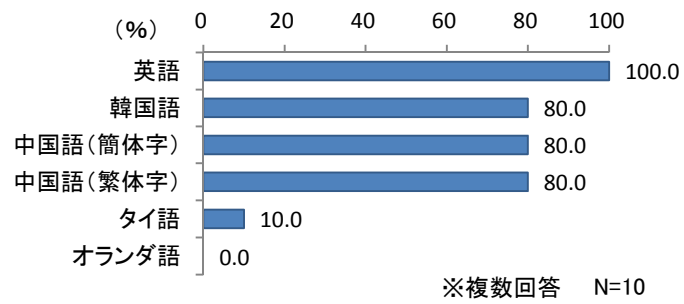
#### 【説明用看板やパンフレット類の整備】



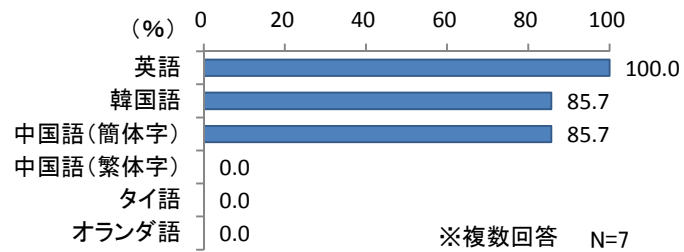
#### 【ガイドやテープ等による音声案内】



### 【Free Wi-Fi の整備】



### 【アプリ等を活用した情報提供】

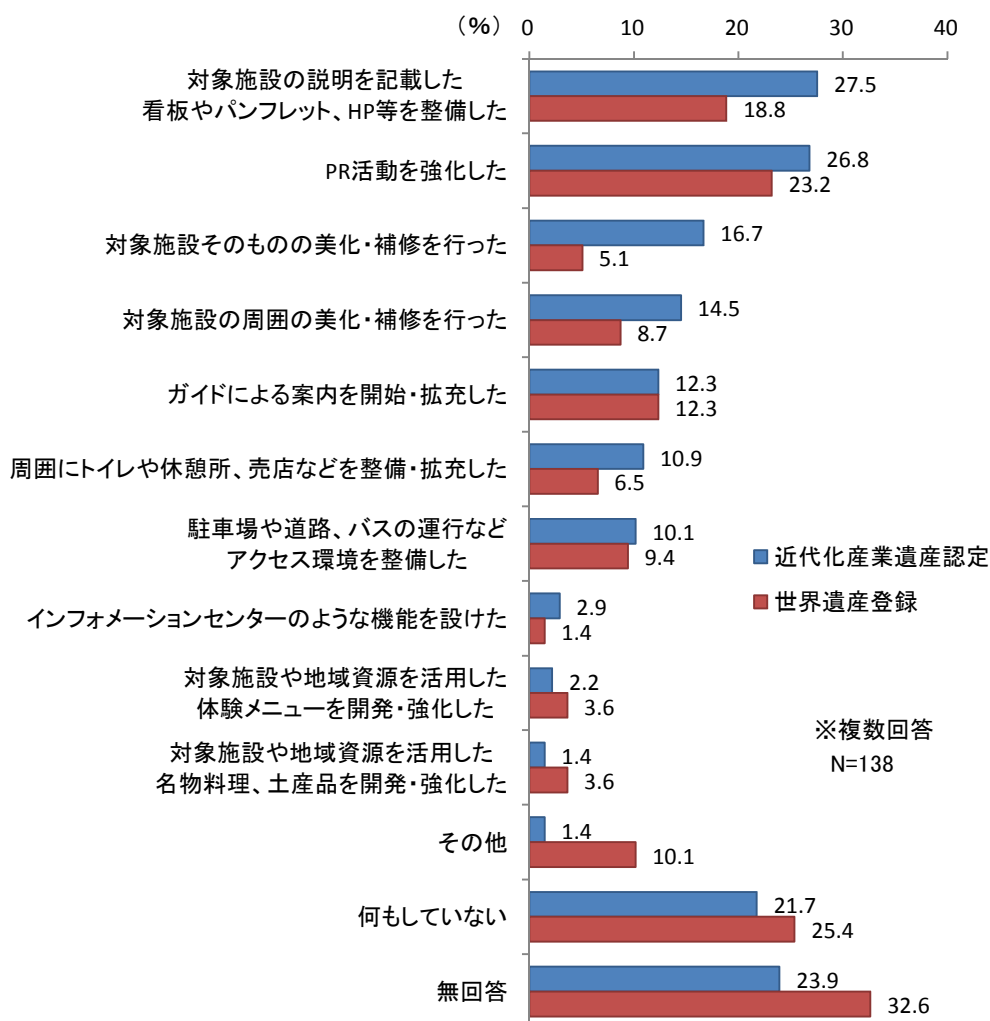


### 最初に手を付けるのは看板、パンフレット、HPの整備とPR活動

平成 19、20 年度の近代化産業遺産認定と世界遺産登録を受けての対応状況では、近代化産業遺産認定の際には、無回答を含めた「(認定を受けてからは) 何もしていない」が 45.6% と半数近くに上る。残りの施設の中では、約半数が、「看板やパンフレット、HP の整備」(27.5%)、「PR 活動の強化」(26.8%) と回答している。

明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録をめぐる一連の動き(平成 25~27 年)を受けての環境整備については、無回答を含めた「何もしていない」が 58.0% に上っているが、これは一部には近代化産業遺産認定を受けた際に環境整備を行っており、世界遺産登録を受けては行っていないと考えられる。そのほかでは、「PR 活動の強化」(23.2%)、「看板やパンフレット、HP の整備」(18.8%) が上位にあがっていた。

近代化産業遺産認定、世界遺産登録を受けての環境整備

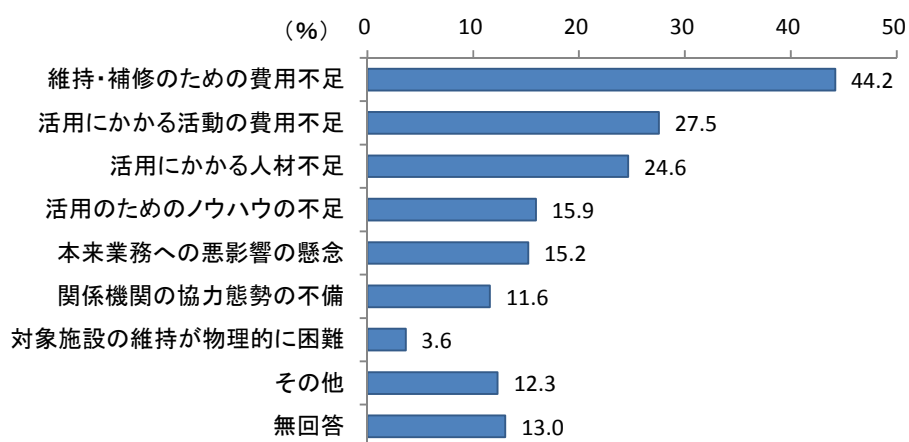




### 多くの施設で維持・補修費用が不足

施設の保存、活用について、「維持・補修費の不足」(44.2%)、「活動費の不足」(27.5%)と、費用不足を挙げる施設が多い。

対象施設の保存、活用に当たっての課題



※複数回答

N=138

### その他の内容

展示のための環境整備
施設移転に伴い、対象施設の保存・活用する運営主体を探っている
建物の保全が最優先
現在、改築中である
補修中、施設を休館しなければならない
本施設は費用対効果で考えると利活用が困難なため、後世に残せる復元可能な記録保存を行った上で解体する。課題は記録保存を行うための手法と費用

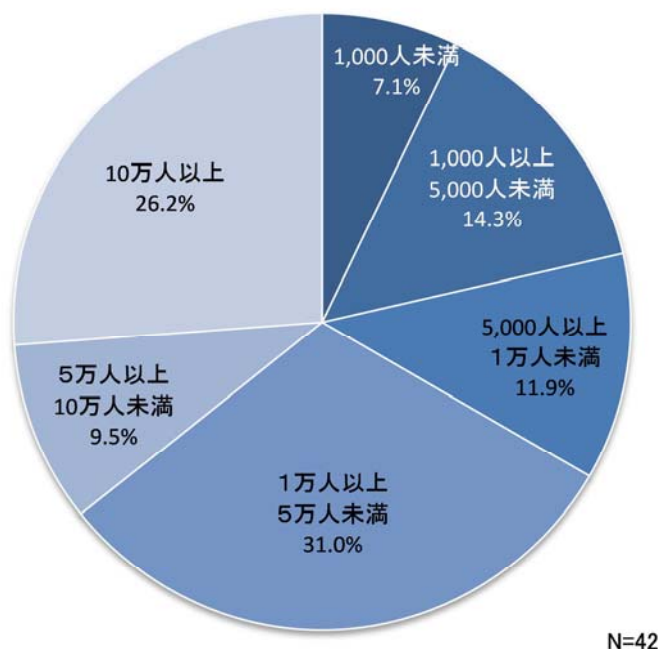
#### (4) 近代化産業遺産への来場・集客

##### 11 施設で 10 万人以上の年間来場者

来場者数をカウントしている 42 施設（周辺の複数施設を一括でカウントしている施設も有り）のうち、1 万人以上の来場者があった施設が 66.7%であり、さらに 26.2%（11 施設）では 10 万人以上の来場があつている。

なお、平成 25 年度よりも来場者が増えた施設が 25 施設、減った施設が 14 施設（前年度との比較ができない施設が 3 施設）であつた。

対象施設への来場者数（平成 26 年度）



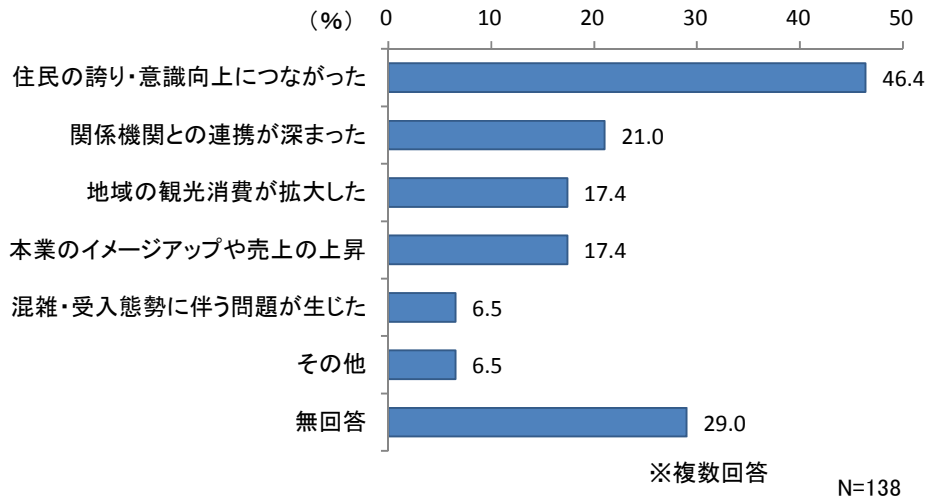
来場者数の増減

平成26年度 来場者数	平成25年度との比較		
	増	減	比較対象外
1,000人未満	1	1	概算記入で同数が1施設
1,000人以上5,000人未満	4	1	前年未集計1施設
5,000人以上1万人未満	4	1	
1万人以上5万人未満	8	4	概算記入で同数が1施設
5万人以上10万人未満	1	3	
10万人以上	7	4	
合計	25施設	14施設	3施設

### シビックプライドの醸成に効果

近代化産業遺産への来場効果として、「住民の誇り・意識向上につながった」が46.4%と最も多く、シビックプライドの醸成に大きな効果を及ぼしていることがわかる。

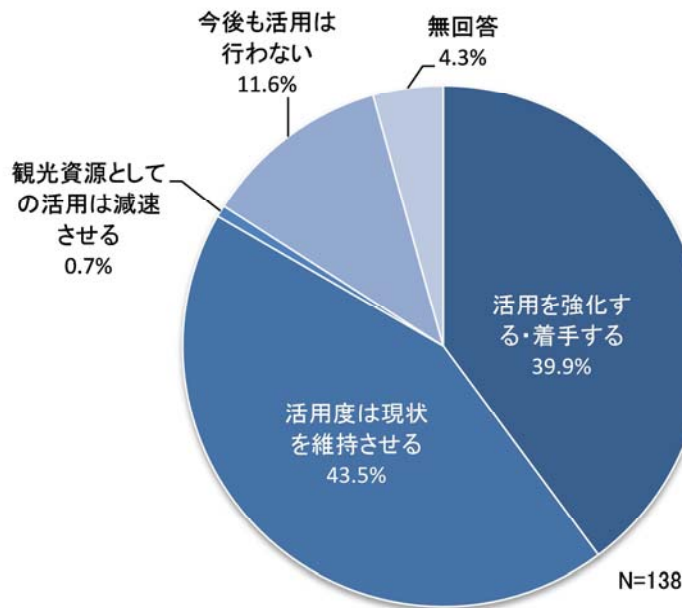
対象施設への来場による効果、影響



### 活用強化・着手は4割

全138施設のうち、現状維持が43.3%で最も多かったが、39.9%が「活用を強化する・着手する」と回答している。

対象施設の今後の活用方針



## 観光と文化財保護の両立

近代化産業遺産を観光の起爆剤としたい意見がある中、文化財としての保護を第一義にすべきとの意見もある。

### 対象施設の活用、他の観光資源との連携、政策的な支援などについての課題や意見

観光資源としての活用が主となりがちであるため、文化財としての活用方法等について、文化庁・県文化財保護課等を含めた協議が必要である
文化財としての活用を検討する
世界遺産としての保全が第一義であり、観光が負の影響を与えることを危惧する（そうならないよう進めるが）
学術的研修を伴う観光ルートとの共存が図られる必要があり、修学旅行等のものづくり学習探訪により学校間交流などの可能性の研究が検討要素である
現施設は、主としてコミュニティ施設として活用しているもの
施設維持のための予算が問題
建物保全に向けた補助制度の拡充が必要
文化財建造物は整備後、年々維持補修費が増大していく。公開、活用を続けるにあたり、維持補修費の確保に苦慮しているので、補助金制度等の充実を望んでいる
予算やマンパワー不足に加え当該資産の所有者・管理者が各々違うため調整が困難（取りまとめ部署の不在）
施設所有者の理解と関係機関のさらなる協力を得て事業推進を図りたい
個人で所有維持しているので、活用・運営について協力者が欲しい
自治体の宣伝広報等は公共施設が優先され、民間施設にとっては不利となることが多い
地域を越えた関連施設を結んだツアーの造成などの支援をお願いしたい
機会があれば地元自治体とタイアップして観光資源となるような取組にしていきたい
当遺産周辺の整備が終了していないため、今後も継続して行っていく必要がある
旧市街地に立地し大型バスの進入が難しい（道路の幅員が狭く、電柱・信号機により迂回が必要、大型バス2台の駐車スペースのみ）
一般公開部分はメジャーな観光スポットの通り道となっているため来場者が対象施設を目的として訪れているかは把握できない
所有者が公的団体と民間企業の複数あり、調整がつかないため、自治体としては対象施設を活用する予定はない
近代化産業遺産と現在の職人がその技を引き継いで行って努力しているのでさらなる発展につながると思う
27年度に文化庁の補助事業として保存活用計画の策定、耐震計画を策定、28年度は公開整備工事と耐震工事を計画しており、29年度に隣に駐車場整備を予定している。今後、活用を図る予定である

### Ⅲ．産業観光を活用した地域活性化の取組状況

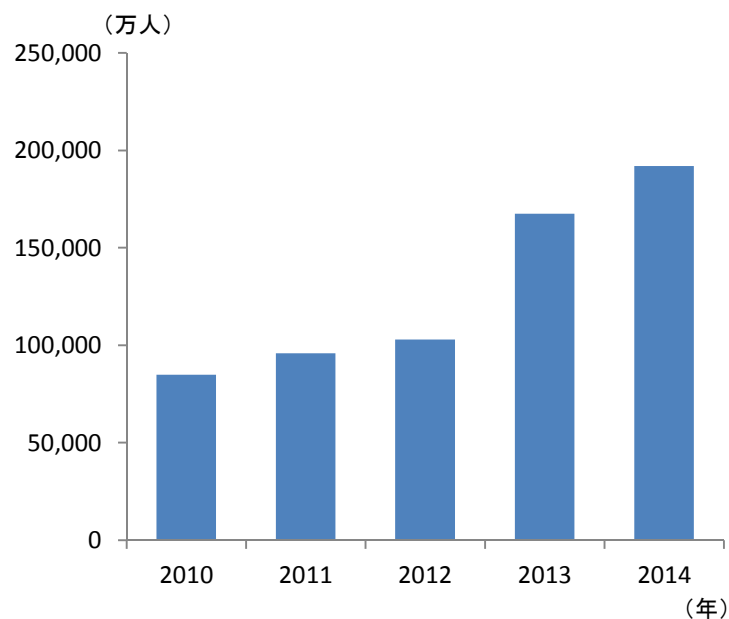
#### 1．明治日本の産業革命遺産を活用した地域活性化の取組状況

##### 世界遺産効果により増える来場者数

明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録によって、構成資産への見学者や問い合わせは急激に増えている。前述のアンケート調査では、世界遺産登録をめぐる動きによって来場者や問い合わせが「大幅に増えた」と回答した施設が6施設あったが、そのうち5施設が明治日本の産業革命遺産の構成資産であった。

たとえば、端島（軍艦島）への上陸者数は、2010年は約8.5万人だったものが、世界遺産登録の動きが具体化し、露出も増えてきた2013年から急激に増え、2014年には約19.1万人と、わずか5年の間に倍増している。

端島（軍艦島）への上陸者数



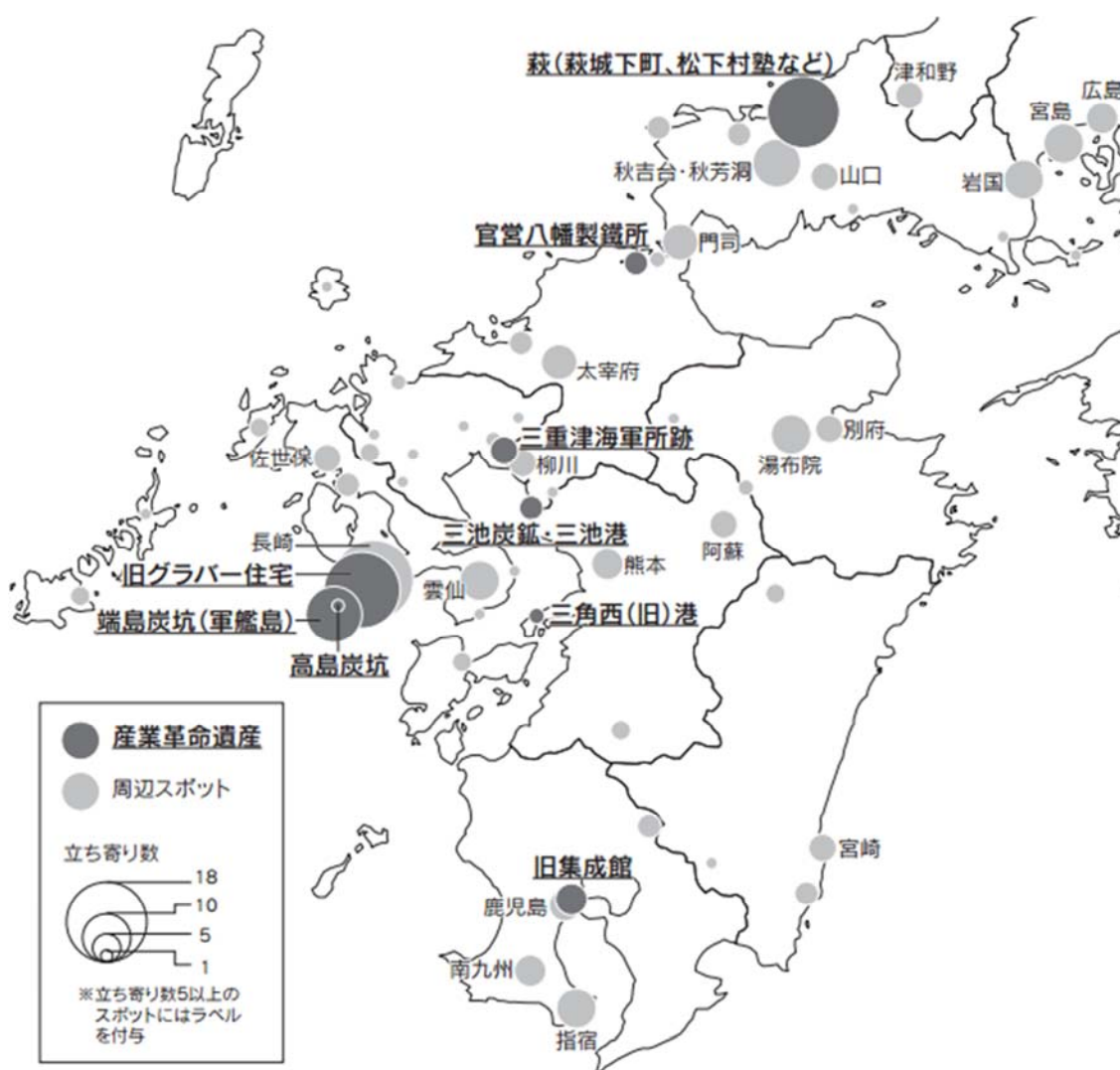
資料) 長崎市

## 周辺地域との相乗効果で集客拡大させる明治日本の産業革命遺産

下図は、国内旅行大手のうち添乗員付きのツアーを多く催行している3社のツアーと、地場旅行会社である西鉄旅行のバスツアーのうち明治日本の産業革命遺産の構成資産に立ち寄る46のツアーを抽出して、各スポットへの立ち寄り数を可視化したものである。

個人客の観光行動については捕捉することが困難であるため、いわゆるマス・ツーリズムの動向に注目したが、マス・ツーリズムは「売れる」商品を造成することを考えれば、明治日本の産業革命遺産を組み込んだ周遊観光の大まかな傾向を捉える際の参考になる。また、周遊観光の状況を把握するため萩も含めて集計した。

明治日本の産業革命遺産を組み込んだ周遊観光の状況



- 注) 1. 2015年7月出発のプラン  
 2. 国内旅行3社については、首都圏出発、添乗員付きのツアーに限る  
 3. 西鉄旅行についてはバスハイクに限る

資料) ㈱ジェイティービー(東京都品川区)、KNT-CTホールディングス㈱(東京都千代田区)、㈱阪急交通社(大阪市)、西鉄旅行㈱(福岡市)の旅行プランをもとに九経調作成

これによると、すでに比較的多くのツアーに組み込まれているのは、旧グラバー住宅（ツアー数：17）、萩（16）、端島炭坑（軍艦島）（同：12）となっており、長崎や萩において、明治日本の産業革命遺産を活用した周遊観光ルートができている。旧グラバー住宅や端島炭坑をめぐるツアーの場合は、長崎市街地のほか、佐世保やハウステンボス、さらに宿泊先として雲仙といった周遊ルートが確立している。なお、萩の場合は、秋吉台や山口、津和野、本州方面からの中国地方観光の玄関となっている広島周辺を巡るパターンが多く、北九州などとの周遊ルートを形成するには至っていない。

九州内で長崎に次いで商品が多いのは、旧集成館（ツアー数：6）で指宿での宿泊や、知覧など薩摩半島が周遊ルートとなっている。しかしながらこのコースはすでに観光ルートとして確立されていることもあり、新たに誕生したルートというよりも既存のルートに世界遺産登録された旧集成館が加わったと見るべきである。実際、鹿児島県内の観光関連事業者へのヒアリングでは、明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録による効果は、それほど顕著なものとはなっておらず、その効果を拡大するための取組が課題であるとの指摘もあった。

一方、三重津海軍所跡（ツアー数：5）、三池炭鉱・三池港（同：4）や三角西（旧）港（同：2）については、その地域自体の観光地化があまり進んでいないこともあり、世界遺産登録直後によって来場者自体は急激に増えているものの、世界遺産登録前はほとんど観光客が訪れなかったこともあり、周辺の観光資源との組合せによる魅力づくりが課題になっている。

以降は、明治日本の産業革命遺産の構成資産を有する3地域の事例と、明治日本の産業革命遺産より1年早く世界遺産登録をされた「富岡製糸場と絹産業遺産群」を有する群馬県の取組について見ていく。

## ①北九州市

### 北九州のブランド=工業地帯から産業観光に着目

日本の近代化を支える産業都市として発展してきた北九州市は、5市合併<sup>1</sup>から50年以上が経過したものの、対外的には「北九州」の認知度が低く、集客を図る際のブランドイメージの形成にマイナスとなっていた。こうした中で北九州が強いブランド力、認知度を持つものとして北九州工業地帯<sup>2</sup>があり、そこから北九州の地域資源としての工場群に着目し、これらの集積を活かしつつ、地域の食や文化と融合した北九州市版の産業観光の振興に取り組むようになった。

2010年に(株)安川電機の利島康司会長(現・特別顧問)が、北九州商工会議所の会頭に就任すると、商工会議所における産業観光振興の取組も加速し、トップセールスの効果もあって経済界においても産業観光の振興の気運が高まった。その結果、産業観光の受け入れが中小企業にも広がった。産業観光は、来訪者が普段なかなか見ることのできない現場の雰囲気を生で味わえるという非日常の経験ができるという効果のほかに、受け入れ側の企業にとっても、見られることによる従業員自身の仕事に対する誇りの醸成、ひいては勤務先へのロイヤリティの向上といった効果を生み出しており、協力する企業の姿勢も前向きになっている。



### ガイド教育を通じてシビックプライドを醸成

企業の協力もあり、北九州市への産業観光を楽しむ人の数は年々増えつつあるが、一方で来訪者が増えたことによる課題も生じてきた。工場見学は協力先の企業従業員か商工会議所のスタッフが案内することにより、その面白さが伝えてきたが、来訪者が増えたことでこれまでの体制では対応ができなくなったことから、観光協会ではガイドの育成に着手している。北九州市の産業観光資源は、現役の稼働施設を中心に構成されていることから歴史資源のガイドと異なり、日々刻々と変わる産業動向を更新しながら説明することが求められる。したがってガイドの育成は、北九州市の産業観光を成り立たせる重要な要素となる。一方でガイド教育を受けた人たちは学びの過程で地域の価値を知り、シビックプライドの醸成にもつながることから市民向けのツアーも行うようになった。

### 資源の見せ方、産業に根ざした文化との融合により滞在時間の延長、宿泊増を図る

北九州市の観光の弱みは、観光消費額の高い宿泊客が少なく、日帰り型の観光地となっ

<sup>1</sup> 門司、小倉、戸畑、八幡、若松の5市が対等合併し、1963年に北九州市が誕生した

<sup>2</sup> 30~40代より上の世代は社会科の授業で北九州工業地帯を日本の四大工業地帯として学んでいる



ていることであった。工場見学による産業観光は、原則昼間の対応となるため、宿泊需要につながりにくい。そこで夜間の滞在を促すべく、工場夜景クルーズをメニューに加えるほか、工場労働者に愛されて発展した角打ち文化<sup>3</sup>に着目し、観光した後は角打ちでお酒を楽しんでもらうという提案も行っている。

### 産業観光を取り込んだ民間企業の動きが活発化

商工会議所や観光協会では、会員企業に対し「北九州世界遺産」のロゴを無償で利用できるようにし、世界遺産登録を契機にした特産品開発の促進を図っている。すでに市内の洋菓子店では、ネジとナットの形をしたチョコレート<sup>4</sup>を開発しているが、土産品としての販路を持っていないため、商工会議所が協力して八幡ロイヤルホテルでの商品取扱を支援している。同商品は産業観光の街・北九州を象徴する土産物として発売から間もないものの大ヒットとなり、品薄状態が続いている。



工場夜景クルーズは、当初試験運航として行政の補助を得て始まったが、人気を博したことから民間事業者（関門汽船（株））の事業として自立した運営にシフトしており、2016年4月からは月2回から週1回の運航に増便されている。市内の中小旅行会社では着地型の産業観光ツアーを造成しているが、ターゲットとなる個人観光客にPRするチャンネルを十分持っていないため、商工会議所がパンフレットの作成支援やホームページへの掲載などで商品情報を告知し、ハンドリングを旅行会社に委ねている。このほか、リーガロイヤルホテル小倉では、工場夜景の眺めがよい部屋を確保するプランを用意するなど、産業観光を活かした民間企業の動きが活発化している。

### <各主体の関係>

北九州市における産業観光は、市、商工会議所、観光協会の推進主体が一体となって「北九州産業観光センター」としてのワンストップ体制を構築し、同じベクトルでその振興を図っている。このようなワンストップ体制は、観光客に対するわかりやすさを前面に打ち出していることになっていることも特徴である。

### <対外的なPR方法>

- 北九州産業観光のポータルサイト (<http://sangyokanko.com/>) から情報発信
- PR ツールや販路を持たない市内の民間事業者には北九州産業観光センターが支援

<sup>3</sup> 酒屋の店頭で酒を飲むこと。三交代の仕事帰りの工場労働者が昼から開いている酒屋で酒を飲んで帰宅して寝るといった文化が北九州には根づいていた。現在は、こうした角打ち文化を北九州のブランドとして発信していこうと「北九州角打ち文化研究会（角文研）」という団体も誕生している

<sup>4</sup> 実際にネジのチョコレートをナットのチョコレートにはめることができる

## ②大牟田市・荒尾市

### 世界遺産登録によって輝きを取り戻すかつての石炭のまち

明治日本の産業革命遺産の構成資産を複数抱える三池炭鉱・三池港<sup>5</sup>は、福岡県大牟田市と熊本県荒尾市にまたがる地域に存在する。両市は県境を挟んでいるものの、どちらも三池炭鉱の発展とともに成長した都市であり、市街地も連担した1つの地域となっている。



三池炭鉱は1997年を最後に閉山となり、両市ともに人口減少、街のにぎわいの喪失など暗い話題が多く、また過去の争議や事故の影響から石炭産業が斜陽化する中で、市民の炭鉱に対する意識も、誇りというよりネガティブな意識を持つ人が大勢を占めていた。しかし、2015年、かつての街の発展を支えた三池炭鉱関連資産の世界遺産登録によって来訪者は急増、街は明るさを取り戻している。

### 一朝一夕ではなかった炭都としての誇りを取り戻す取組

市民の間における三池炭鉱に対するネガティブな意識は、登録を目指す動きから始まる世界遺産登録によって瞬間的に変わったわけではない。世界遺産登録が市民意識に大きな影響を与えたことは確かだが、それ以前から地域の歴史を見つめ直し、その価値を評価しようとする動きは水面下で起こっていた。

大牟田市では、三池炭鉱に関わったさまざまな人のポジティブな話もネガティブな話もすべて記録する「こえの博物館」プロジェクトが3年にわたる予算折衝の末、2001年から始動した。これらの記録は、最終的には「三池 終わらない炭鉱の物語」という映画として保存され、市内外での上映会を通じて三池炭鉱の負の側面も含めた歴史や価値を伝える上で大きな役割を果たした。また、2001年には、三池炭鉱関連施設の保存および活用を通じたまちづくり活動を目的とした市民団体「大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ<sup>6</sup>」が設立された。その他にも市民レベルでは、三池炭鉱関連資産の価値を発信する動きは起こっており、市民の間に「炭都」としての誇りを取り戻そうとする芽は存在していたのである。

### 世界遺産効果による来訪者の急増でガイドの育成が急務に

2015年の世界遺産登録により、大牟田・荒尾の三池炭鉱関連資産には多くの観光客が訪

<sup>5</sup> 宮原坑、三池港（以上大牟田市）、三池炭鉱専用鉄道敷跡（大牟田市と荒尾市にまたがる）、万田坑（敷地のごく一部が大牟田市にかかっているがほぼ全域荒尾市）の4点が世界遺産登録されている

<sup>6</sup> 2003年にNPO法人としての登記を行っており、現在も活動を継続している

れるようになっている。荒尾市の万田坑では、近代化産業遺産としての公開をスタートした 2010 年度の来場実績である 5 万人を瞬く間にクリアし、2015 年度は 1 月現在ですでに 10 万人をオーバーしている。来場者の急増により、施設を案内するガイドの数が追いつかなくなっており、その育成が急務となっている。

荒尾市では 2014 年度からガイドの育成事業に着手し、初年度の卒業生 11 人はすでにデビューをしている。大牟田市では炭鉱 OB の人材を中心にシルバー人材センターを通じてガイドの確保を行って対応しているほか、定期的ではないものの地元の小学生によるガイドも行われている。



### 安全対策が 1 つの演出に

万田坑は、巻揚機室の内部（写真左）にも入ることが可能である。

内部には大型の歯車などが当時の姿のまま展示されているが、入場者にはヘルメットの着用を求めている。この対応はあくまで安全上の理由からの措置であるが、来場者にとっては臨場感を味わわせる演出にもなっている。

### 積極的な初期投資やクラウドファンディングを活用した維持費の捻出

世界遺産の構成資産は、価値を保全するために使用されていた状態で残す必要がある。これは後世に渡って取り組まなければならないことであるため、ランニングコストの軽減につながるものに関しては、イニシャルコストを惜しまないようにしている。具体的には防草シートで、敷設には約 3,000 万円かかったが、敷設せずに毎年の草刈りを外部委託した場合、毎年 1 億円以上のコストとなることから必要な投資として実施している。

世界遺産を構成する三池炭鉱専用鉄道の電気機関車は、現在、大牟田市が管理しているが、企業の敷地内に置いているため年 1 回の一斉公開の時しか公開できていない。また、建屋内での保管でないため、補修費用や部品の盗難対策に苦慮している。そのため車両の移設計画があり、その費用はふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより、これらの資産の価値を理解する人の協賛を得て資金の一部を確保している。

明治日本の産業革命を支えた世界文化遺産「三池炭鉱」を世界に発信する！プロジェクト「世界遺産じゃなかばってん」第一弾！炭鉱電車は見たか！の巻

NHKで紹介されました  
福岡県大牟田市  
世界文化遺産  
三池炭鉱  
百年前の炭鉱電車を移設・展示したい!!

達成金額 **9,632,211円**  
目標金額: 30,000,000円

達成率 **32.1%** 支援人数 **270人** 終了まで **23日 / 213日**

福岡県大牟田市 (おむたし)  
福岡県大牟田市

**このプロジェクトに参加**

プロジェクト締切日: 2015年9月1日～2016年3月31日 (213日)

プロジェクトオーナー: 福岡県大牟田市 (おむたし)

大牟田市は、日本の近代化を支えた三池炭鉱遺跡の多くの遺構が残っています。そして2013年7月8日、これらのうち「高野坑」「三池車」「常時鉄道駅」が、「明治日本の産業革命遺産-製鉄・製鋼・造船・石炭産業」として世界文化遺産に登録されました。これらの近代化産業遺産群を未来に継ぎ、国内外に発信していくためにご協力いただいております。みなさんのふるさと納税は、三池炭鉱での炭鉱電車の移設・保存に活用させていただきます。ふるさと納税の集積が「三池炭鉱」に貢献したお礼の品をご用意しています。

### ③長崎市

#### 8つの世界遺産を有する観光都市・長崎

九州を代表する観光都市である長崎市は、2015年の「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録により、観光客を引きつける魅力を構成する要素が新たに加わっている。長崎市内で世界遺産登録がされた資産は、長崎造船所の関連資産が5点<sup>7</sup>、その他の資産3点<sup>8</sup>の計8点存在している。

長崎市の世界遺産では、その造形美から端島炭鉱（通称：軍艦島<sup>9</sup>、以下は軍艦島と表記）への注目度がとくに高い。軍艦島は1974年の閉山→無人島化以降、一般人の立ち入りは制限される場所であったが、2009年から一般上陸が可能になり、初年度に5.5万人だった上陸者数<sup>10</sup>は、2015年度（2月末現在）には25.5万人にまで増えている。その他の構成資産においても夏休み期間中のデータでは大幅な来場者の伸びを示しており、世界遺産登録による効果が生まれている。



#### ガイドとセットになった軍艦島クルーズ

軍艦島へのクルーズは、現在5つの船社が就航している。長崎港から軍艦島までは片道30分以上の行程となることもあり、スタッフが軍艦島への上陸時だけでなく、航行上も軍艦島にまつわる歴史や航路上の名所などの案内を行っている。ガイドに関しては、市が一定の指針は示しているものの、各社、各人の情報収集や伝え方の工夫により観光客へのおもてなしを行っている。

軍艦島は外海に位置し、波も高いため天候次第では上陸できないリスクも少なくない。また、小さい子どもやお年寄りなどは安全な上陸が難しい場合もある。こうしたこともあり、軍艦島の眺望スポットにある軍艦島史料館の訪問や、車窓観光も含めた市内の世界遺産をめぐるガイド付きのバスツアーも民間事業者の手で行われている。

<sup>7</sup> 小菅修船場跡、第三船渠、旧木型場（三菱重工業株式会社長崎造船所「史料館」）、ジャイアント・カンチレバークレーン、占勝閣の5点。このうち小菅修船場跡、旧木型場以外は非公開となっている

<sup>8</sup> 高島炭坑 北溪井坑跡、端島炭坑（通称：軍艦島）、旧グラバー住宅の3点

<sup>9</sup> 岸壁が島全体を囲い、高層鉄筋コンクリートが密集して立ち並ぶ外観が海に浮かぶ軍艦のように見えることから「軍艦島」と呼ばれて親しまれていた

<sup>10</sup> 軍艦島を訪れるツアーが出港しても時化などにより上陸できず船上からの鑑賞になる場合もあるため、乗船者数はこれよりも多い（2009年度は5.8万人、2015年度（2月末現在）は28.1万人）

## 着地型観光の先駆である「さるく」と産業観光が融合

長崎では、2006 年からスタートした「長崎さるく<sup>11</sup>」という地域資源を活かした着地型観光の歴史を有している。長崎さるくでは、多くのメニューが提供されているが、なかでもさるくガイドが案内する「通さるく」が長崎さるくの看板商品といえる存在となっている。

通さるくのコースには、明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録を受けて、構成資産のひとつであるグラバー邸を中心としたまち歩きのコースが設定されるようになっている。



名称	概要	料金	予約の有無
長崎遊さるく	さるくマップを手に各人が長崎の街を自由に行動するコース	無料	なし
長崎通さるく	さるくガイドによるガイドがついたまち歩きツアー 期間限定の「通さるく」もメニューにある	500円/人	予約制
長崎学さるく	その道の専門家による講座や体験を通じて長崎の魅力をより深く体験するメニュー	テーマ毎に設定	予約制
長崎食さるく	長崎ならではの「食」を、ただ食べるだけでなく、講座や体験を通じて楽しむツアー	テーマ毎に設定	予約制

また、世界遺産の構成資産ではないが、池島炭鉱では元炭鉱マンによるガイドつきで実際に使用されていたトロッコに乗車して坑内を見学し、削岩機の操作などを体験できる「学さるく」のコースも用意されるほか、長崎市内から池島までは公共交通でのアクセスが容易ではないことから長崎駅発のツアーを設定するなど、産業観光に関連したメニューが拡充されつつある。

### <各主体の関係>

軍艦島クルーズを行っている5つの船社では、協議会を設けており、長崎市もオブザーバー参加している。協議会では、安全運航に関する協議・報告が主であるが、各社が抱えている課題の情報交換、行政への要望事項などについても討議している。

### <対外的な PR 方法>

- 軍艦島に関しては、マスメディアや旅行会社からの問い合わせが多く、パブリシティの効果によって情報が拡散されている。
- さるくに関しては、(一社)長崎国際観光コンベンション協会がハンドリングを行っているが、10年以上の実績もあり旅行会社からの引き合いも多い。

<sup>11</sup> さるくとは「街をぶらぶら歩く」という意味の長崎弁で、まち歩きを通して長崎の街を深く楽しむ新しい旅を提案するものである

#### ④群馬県富岡市、桐生市

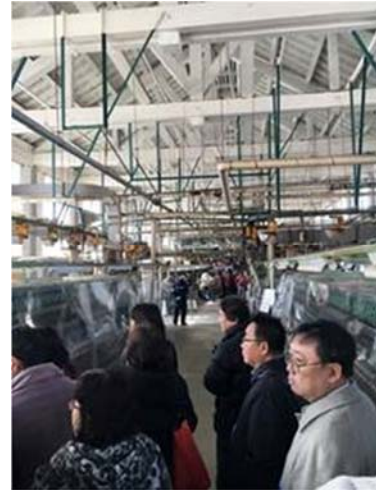
##### <富岡製糸場を核とした近代化産業遺産活用の取組>

##### 値上げ後も減少しない見学者数

2014年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産登録された富岡製糸場は、世界遺産登録から2年近くが経った今も多くの来場者で賑わっている。登録前の2013年度に31万人だった来場者は、登録後の2014年度には134万人にまで増え、2015年度も12月末現在で100万人を超えている。東京から約100kmの場所にあり、軽井沢への道中にあるなど立地のよさも手伝って世界遺産登録効果が今なお続いている。

富岡製糸場は、当初500円だった見学料を2015年度から1,000円に上げているが、保存費用に充当するための値上げ<sup>12</sup>として受け入れられており、それは来場者の減に現れていないことから明らかである。

こうした賑わいを受けて製糸場の周囲には、絹や下仁田ネギなどの地域特産品にちなんだ土産物店の新規出店が進み、さながら駅前町のようなにぎわいを見せている。



##### プロ化によりガイドの意識向上と見学者の満足度向上

富岡製糸場は、所有者であった片倉工業（株）が1987年の操業停止後も「売らない、貸さない、壊さない」の3原則で建物を保全してきたことが今日の世界遺産登録につながっているが、製糸場は四半世紀にわたって閉鎖されていたこともあり、市民にとっては近寄りがたい場所としてのイメージが根づいてしまっていた。

これに対し、市民の愛着を高めるべくボランティアガイドの育成を行った。現在、ガイドは団体客3,500円、個人客200円/人で有償化しているが、見学者の3～4割はガイドを利用している。有償化はガイドにプロ意識をもたらし、製糸場に対する知識を深めたり、話し方の工夫を行うなど自発的に研鑽に励むようになり、結果として見学者の満足度を高めることにつながっている。また、地元の小中学校における郷土学習において、製糸場の歴史と地域の誇りであることについて子ども達が学ぶことにより、製糸場に距離感を持っていた大人がその価値を再認識するといった効果も生まれている。このほか市民養蚕の事業にも取り組んでおり、市内で作られた蚕を使って製糸場にある機械を動態保存すると同時にオール富岡産の糸を作る構想も進んでいる。

<sup>12</sup> 入口（チケット売場脇）にも保存のための費用に充当する旨の看板が掲示されている

## ＜桐生市における近代化産業遺産活用の取組＞

### 織物の街・桐生を象徴するノコギリ屋根の活用

絹織物の産地として発展した桐生市には、近代化産業遺産にも認定されているノコギリ屋根<sup>13</sup>と呼ばれる織物工場独特の景観が現在も残っており、その活用を通じたまちづくりが進められている。ノコギリ屋根の建物は、一部には織物工場として現在も稼働しているものもあるが、多くは倉庫や工房・ギャラリーなど他の用途で使われているものが多い。桐生では、(株)桐生再生という民間企業が中心的なプレイヤーとして、ノコギリ屋根を中心とした桐生の産業観光ガイド等の事業を展開している点がユニークである。桐生再生の事務所の向かいには、ベーカリーカフェとして転用され、にぎわいを見せているノコギリ屋根の建物（写真右）もある。



### 地域資源である群馬大学との連携によりEVバスが富岡とつながる

桐生市は織物の街として発展してきた経緯もあり、群馬大学の理工学部は県庁所在地である前橋ではなく、桐生にキャンパスを有している。その意味では群馬大学も織物の街の歴史に連なる地域資源といえる。

桐生再生では、群馬大学の次世代EV研究会で開発された低速電動バス eCOM-8（愛称：MAYU、写真左）<sup>14</sup>を4台保有し、レンタルや運行も事業として行っている。



MAYUは、電気自動車であるため環境負荷が小さく、また低速で走るといった特性から、自家用車での入山規制がある谷川岳の一の倉沢での導入実績<sup>15</sup>等があったが、2016年度からは富岡においても導入される予定である。製糸場の最寄り駅である上州富岡駅から製糸場までは徒歩10分程度の微妙に長い距離であり、また駅周辺に駐車場を確保していることもあって製糸場までの移動手段として活用する予定になっている。

<sup>13</sup> 屋根の北側に採光のための窓をつけた屋根の造りがノコギリの歯のように見えることからその名がついている。北側の窓から採光をすることで時間帯による照度の変化を抑えることができ、織物の仕上りを同一品質で確認することができることから、このような形態を採っている。

<sup>14</sup> 最高時速19km/h、定員10名のEV（電気自動車）バス。小型でスピードも出ないかわりに一般のEVバスと比べて大幅に安いコストで生産が可能。公道の走行も可能。土日祝日には桐生駅からノコギリ屋根の建物が多く残る重伝建保存地区の間を桐生市からの委託事業として運行している。

<sup>15</sup> 一の倉沢への自家用車入山規制は、足腰の悪いお年寄りなどに限っては自動車での入山が可能であったが、歩いて向かう人から白い目で見られるなど、お互いに嫌な思いをしていたが、低速で走るMAYUに変えてからは手を振り合うなど両者が良好な関係になる効果を生んでいるという

## 2. 産業観光を活用した地域活性化の取組

前節では、明治日本の産業革命遺産の構成資産を有する地域の取組について見てきたが、構成資産からは外れたものの優れた近代化産業遺産を活用して地域活性化に取り組む事例や近代化産業遺産以外の産業観光資源を活かした取組を行う地域が存在する。本節では九州内外の事例をもとに、産業観光を活用した地域活性化の取組について見ていく。

### ①飯塚市

#### 旧伊藤伝右衛門邸の保存・活用を契機に観光振興を強化

筑豊地域の中心都市である飯塚市は、長崎街道の宿場町としての歴史を持ち、明治期以降は筑豊炭田の中心地として発展した都市である。閉山後は、九州工業大学や近畿大学などの大学誘致により学術研究都市としての性格を持つようになったものの、観光地としての認知は、市内外ともにほとんど無い街であった。

石炭産業で栄えた飯塚市には、旧伊藤伝右衛門邸（以下、伊藤邸）<sup>16</sup>や麻生大浦荘といった往時の栄華を偲ばせる建造物が残っていたが、これらは長らくの間、観光資源として活用されることはほとんどないまま時間が経過していった。

伊藤邸は、時間の経過とともに老朽化も進み、豪邸ゆえに維持補修の費用も多額になることもあり、当時の所有者である日鉄鉱業（株）から飯塚市に対して売却の申し出があった。これを受けて飯塚商工会議所をはじめとする民間団体等により「旧伊藤伝右衛門邸の保存を願う会」が発足、署名や募金活動、日鉄鉱業や飯塚市への要望活動などを行うと同時に、保存後の活用方策の検討を進めていった。

こうした市民の声をを受けて、2006年、日鉄鉱業から飯塚市に対し、建物は無償、土地は購入という形で譲渡されることとなり、同年に市の有形文化財指定、約1年間の補修期間を経て一般公開されることとなった。こうして、一時は解体の危機に瀕した伊藤邸は保存・活用されることとなり、これまで観光振興とは無縁であった飯塚市が、ご当地グルメの開発<sup>17</sup>も含めた取組を強化させるようになった<sup>18</sup>。



<sup>16</sup> 伊藤伝右衛門邸は、当時、筑豊御三家と呼ばれた麻生、貝島、安川に次ぐ炭鉱王・伊藤伝右衛門が50歳の時に、当時25歳の柳原白蓮と再婚する際に、彼女を迎え入れるために日本建築の粋を集めて改築した豪華絢爛な近代和風建築である

<sup>17</sup> 当地でよく食されているホルモンを石炭に見立て、ご飯の底に埋めて掘り起こす「ほるホルめし」のほか、シュガーロードとしての歴史から市内に多くある菓子店が、石炭にちなんで黒で統一したスイーツを



## 外部からの評価が保存・活用の気運と取組を後押し

伊藤邸の保存・活用は、商工会議所が中心となった保存・活用を目指した運動に加え、外部からの評価が大きな後押しとなって実現につながった。

2005年、九州観光誘致促進協議会<sup>19</sup>が、旅行会社などにツアーの商品開発を呼びかけるためのツールとして、第1号となる九州の広域観光モデルルートを作成した。その中に、柳原白蓮をテーマに福岡と大分、熊本との3県を結ぶルートを作成し、伊藤邸がルートの起点に位置づけられた。さらにこのモデルコース設定を伝えるニュースが、2005年3月15日の西日本新聞の朝刊1面<sup>20</sup>に取り上げられることとなり、保存運動の気運を一層高めると同時に、伊藤邸の価値を十分理解していなかった人たちに対しても訴求することによって、その価値が広く理解されるようになった。

## 福岡から嘉穂劇場を経由して伊藤邸へ向かう特急バス「でんえもん号」の運行

西日本鉄道（株）では、2015年3月から天神高速バスターミナルから嘉穂劇場や飯塚バスセンターを経由して伊藤邸を結ぶ特急バス「でんえもん号」を毎日3往復運転している。

「でんえもん号」は、運行主体である西日本鉄道が、高速バスを利用した観光需要の掘り起こしを検討する中で、行政等の補助なしに新設した路線である。これにより福岡都心部から伊藤邸に公共交通機関で直行できるようになった。

同年7月からは、「でんえもん号」の1往復を伊藤家と柳原家の家紋や伊藤邸の写真、伝右衛門と白蓮の肖像などを描いたラッピングバス<sup>21</sup>として走らせており、福岡と飯塚を結ぶ移動手段としてだけでなく、走る広告塔としての役割も果たしている。また、バスの車内には、独自に作成したモデルコースの提案や運転士がお勧めする飯塚のグルメやスイーツの紹介なども行うチラシを載せて、旅の提案も行っている。

開発するなどの取組を進めている

<sup>18</sup> 2007年には飯塚観光協会が設立されるなど、観光振興の体制が整いつつある

<sup>19</sup> 現在の九州観光推進機構の前身にあたる組織、2005年4月に九州観光推進機構に移行した

<sup>20</sup> 「歌人白蓮たどる旅提案 九州駆けた筑豊炭鉱王の妻 九誘協が観光モデル1号」の見出しで、他にも複数の観光モデルコースが設定された中で、伊藤邸をはじめとする柳原白蓮の足跡をたどるルートを中心に取り上げられた。

<sup>21</sup> 飯塚市が運行主体である西日本鉄道に広告費を支払っている

## ②久留米市

### 地域資源の発掘とプログラム化による久留米まち旅博覧会の開催

久留米まち旅博覧会（以下、まち旅）は、当初久留米市が主導する形で、2008年から始まった着地型観光である。地元企業や団体、グループが提供する観光プログラムをまとめて開催し、市内外の多くの人に久留米の楽しさを体験してもらう取組である。

まち旅への取組は、選任されたコアメンバー22名（観光関係者、地域デザイナーなど「久留米通」のメンバー）で久留米市の地域資源を掘り起こし、観光プログラムを形成するところから始まった。2008年の観光プログラムは36であったが、その後増加し、現在では80となっている。まち旅は、現在、期間限定の「秋のまち旅」「春のまち旅」（2011年終了）と、通年開催の「いつでもまち旅」（2012年～）が提供されている。

### 多種多様なプログラム

当初は久留米市、2010～11年は（公財）久留米観光コンベンション国際交流協会（以下、協会）のもとでの「久留米まち旅実行委員会」による委員会形式による運営であったが、2012年以降はNPO法人久留米ブランド研究会（以下、研究会）が設立され、協会内に事務局を置くことになった。協会は公的要素が強く、会員サービスの面などから活動内容に制限がかかることがあるが、研究会が事務局となることで活動の自由度が増し、多様なプログラム設定が進んだ。その結果、プログラムの参加率は100%を超えるまでに向上している。

具体的な観光プログラムには、室町時代から続く技法での藍染め体験や地元企業の（株）ムーンスターでのスニーカーづくり、酒蔵が集まる城島の酒街道まち歩き、全国で久留米のみに立地する陸上自衛隊幹部候補生学校の訓練見学など、多種多様な「久留米ならではの」ものが揃っている。リピーターも多いため、一部を除き、前年とはプログラムを変化させることを徹底するなど企画会議を通じて、内容の工夫をしている。



プログラム増加の理由の1つは、まち旅が、関係者が一同に集まる「まちづくり」型ではなく、出来る人が出来る場所で提供する「カフェテリア」型となっていることである。「カフェテリア」型の場合、時間に制約のある提供者も無理なく参加できる。プログラム数は、現在の運営体制と予算、ガイドブックのボリュームの中では80が限界となっているが、一方で、まち旅をきっかけに、地域内での異業種のつながりや、マスコミ取材や商品・観光

メニューのコラボレーションなどの効果が生み出されている。また、お土産（とんこつカレーなど）の独自開発や、チケット形式による観光体験・食・お土産の前売り（久留米くるくるチケット）が始まるなど、地域経済への波及効果を狙った仕組みも発展している。

### 久留米まち旅博覧会（秋）の実績推移

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
プログラム数	39	51	74	81	80	80	80	80
参加人数(人)	1,065	1,714	1,791	1,695	1,547	1,567	1,670	1,764
参加率(%)	73	71	73	86	90	102	101	106

資料) 久留米まち旅博覧会事務局

### まち旅による地元の意識変化と先進事例としての知名度向上

地元に対するまち旅の効果の1つは、地元を観光地として位置づけていなかった関係者の意識が変わったことである。これにより、更なる地域資源の発掘や再認識が進んだ。観光プログラムとして提供することで、結果的に久留米の地域資源のカタログ化ができる点も魅力である。また、まち旅は着地型観光の先進事例としての評判も高く、観光地としてのイメージアップや、毎年20程度の視察団が久留米市を訪問するなどの効果を生んでいる。

#### <運営方法>

現在の運営主体である研究会は、理事、副理事、事務局長の役職員3名、事務局スタッフ1名、経理担当のアルバイトなどのメンバーで構成される。研究会に対しては、まち旅の運営費として久留米市が年間900万円程度の予算を組んでいる。観光プログラムによる研究会の収益は少ないため、今後、自主財源の確保が課題となる。

#### <対外的なPR方法>

大々的なプロモーションは実施していないが、ホームページやフェイスブックでの情報発信、そして毎回趣向を凝らしたパンフレットにより実施している。パンフレットは、観光プログラムを通したまちの魅力が伝わるように、表紙、掲載写真やタイトル、紹介文に工夫が施されている。パンフレットは、まち



旅の案内だけでなく、地域資源や定住イメージなど久留米の魅力を内外へ発信する媒体となっている。パンフレットをきっかけとした、テレビの取材などが増えている。2012年以降は、参加者にパンフレットを2部発送している。まち旅の魅力を理解する人に紹介された人は、まち旅の趣旨を理解した「質の高い客」である可能性が高い。まち旅は、大々的なPRによる集客よりも、「口コミ」による質の高い集客を目指している。

### ③山鹿市

#### 限られた時間の中で観光客の受入態勢を構築する過程で地域資源を再発見

米米惣門ツアーが行われている山鹿市は、灯笼まつりで知られる熊本県北部の温泉地である。米米惣門ツアーが始まるきっかけとなったのは、2000年にNHK朝の連続ドラマ「オードリー」がツアーの舞台となる山鹿<sup>しもまち</sup>下町の古い街並み<sup>22</sup>をロケ地にしたことである。



朝の連続ドラマでの放映によって多くの観光客が訪れることが予想されたことから、観光客が訪れたときにどう楽しんでもらうかといったことをロケから放映までの3カ月の間に整えなければならなかった。こうした時間的制約のため、新たに何かを作るといった余裕がなく、地域にあるものを使ってもてなしをするしかなかった。その過程で下町は脇を流れる菊地川流域の米の集散地として発展した歴史を持ち、今も酒蔵、味噌蔵、米蔵、せんべい屋といった「米」を共通項に持つ地区であることに気がついた。こうして、それぞれの店主、スタッフが自らの店や街並み、地域の歴史などを案内してもてなす街歩きガイド「米米惣門ツアー」が誕生した。

#### 反省会通じてガイドのノウハウを共通・蓄積

米米惣門ツアーは、参加費1人500円（お土産付き）で、前日までの予約制で対応している。ツアーは数百mの間に並ぶ店舗や寺院を訪ねる1時間程度のコースで、それぞれの店舗の店主やスタッフがガイドを行い、次の店まで連れていくというリレー形式を取っている。そのため同時刻に複数グループの申し込みがあっても訪問する順番をスライドさせることで受け入れが可能になっている<sup>23</sup>。

ツアーを実施する下町惣門会<sup>24</sup>は、狭いエリアに店を構える人たちの集まりであるため、組織としての機動性が高く、軒先レベルで密な情報交換が行われている。ツアーを受け入れた後には反省会を開き、「この話題をしたらウケがよかった」、「若い人にはこの話はウケたけど年輩の方にはウケなかった」といった情報交換を通じてノウハウの蓄積を行っており、ガイドの品質向上が図られている。

ツアーを行うことによる副次的な効果として店舗での消費活動があるが、自社製品を売

<sup>22</sup> 参勤交代道として栄えた豊前街道（熊本から小倉まで）が下町を縦貫しており、菊地川河畔の下町の入口には、かつては街に出入りする不審者を取り締まる「惣門」が設けられていた

<sup>23</sup> 近隣の駐車場のキャパシティやガイドの数に限りがあるので上限はある

<sup>24</sup> 下町地区の店舗等で構成される任意団体

ろうとする気が見え見えだとツアー参加者には見透かされてしまうこともツアーを受け入れているうちに会得している。一方で、他店の話をしたところ、その店での上につながつたということもある。たとえば「隣の酒蔵ではこの時期しか飲めないしぼりたての新酒が並ぶ」とか「隣の味噌蔵ではこんなこだわりを持って作っている」といったことを話すとそれが第三者の評価として信頼性やツアー参加者の興味を引くといった効果を引き出している。こうしたノウハウも反省会を通じて得られた知見である。

### 近代化産業遺産を尊ぶ街の DNA が好循環を形成

山鹿には、今や街を象徴する地域資源の 1 つとなった八千代座（芝居小屋）があるが、昭和 40 年代には閉鎖状態が続き、廃屋同然となっていたものを市民の手で保存・復活させたことが現在の活況につながっている。八千代座の保存・復活を実現させた街の力は、その後のまちづくりにも活かされている。

米米惣門ツアーもこうした街の DNA を象徴する取組の 1 つと位置づけられよう。また、一度は取り壊された街のシンボルであった「さくら湯<sup>25</sup>」も 2012 年に復元され、市民や観光客の憩いの場になっている。こうした資源が重なり合うことで街の魅力が向上するといった好循環が形成されている。



#### <各主体の関係>

米米惣門ツアーの申し込みは、山鹿温泉観光協会で受けつけており、申し込みや問い合わせにかかる業務とツアー客の案内の分業体制が取られている。下町惣門会はガイドを行う以外に受け入れにかかる事務作業を行うとなると、本業（各店舗の経営）への影響も懸念され、事業の拡大に制約が生じかねない。そこを観光協会が米米惣門ツアーを山鹿の観光資源として評価することで、分業体制の構築が実現している。

#### <対外的な PR 方法>

- 山鹿温泉観光協会や山鹿温泉のホテル・旅館では、「米米惣門ツアー」を山鹿観光の目玉の 1 つとしてホームページで積極的に PR しているほか、ツアーのパンフレットを旅行会社等への営業ツールとして活用している。

<sup>25</sup> 細川藩の御茶屋からのルーツを持つ温泉で、明治初期の山鹿の旦那衆による大改修以降は市民温泉として親しまれていたが、昭和 48 年に解体されていた

#### ④人吉市ほか JR 肥薩線沿線市町

##### 全線開通 100 年を契機に近代化産業遺産としての肥薩線の活用強化へ



熊本県の八代から人吉を經由して鹿児島県の隼人を結ぶ JR 肥薩線は、1909 年に北部九州と鹿児島や宮崎を結ぶ初の鉄道路線として全線開通<sup>26</sup>した。沿線には数多くの近代化産業遺産<sup>27</sup>が存在する路線である。

肥薩線には、SL 人吉（熊本～八代～人吉）、いさぶろう・しんぺい（人吉～吉松）、はやとの風（吉松～隼人～鹿児島中央）といった JR 九州（株）の 3 つの観光列車が走っており、この 3 つを乗り継いで肥薩線の旅そのものを楽しむ観光ができる環境が整っている。JR 九州の観光列車は、途中駅<sup>28</sup>での停車時間を長めに確保して駅周辺のボランティア等による物産販売などが行われており、観光列車の旅を彩る 1 つの目玉となっている。



沿線では人吉市が中心となって、肥薩線全線開業 100 周年を迎えた 2009 年を契機に、世界遺産登録も視野にその価値を活かし、後世につないでいこうという気運が高まり、2011 年には沿線自治体による「肥薩線を未来へつなぐ協議会」が発足している。

出所) 肥薩線を未来へつなぐ協議会ホームページ「肥薩線の世界遺産に」

#### 沿線の地域活性化に関わるキーパーソンのネットワーク化

人吉商工会議所と人吉市は、経済産業省の地域新成長産業創出促進事業（2014 年度）を

<sup>26</sup> 艦砲射撃を避ける目的もあり、現在の鹿児島本線・肥薩おれんじ鉄道のルートよりも先に開通した。開通当時の名称は鹿児島線として鹿児島駅まで結ばれていた。

<sup>27</sup> 嘉例川駅や人吉機関車庫など全部で 18 の肥薩線関連施設が経済産業省の近代化産業遺産に認定されている

<sup>28</sup> 坂本駅（八代市）、一勝地駅（球磨村）、大畑駅、矢岳駅（以上、人吉市）、真幸駅（えびの市）、大隅横川駅（湧水町）、嘉例川駅（霧島市）では地域のボランティア等による物産販売が行われている

活用し、肥薩線沿線の地域活性化に関連する自治体や経済団体、地元企業、ボランティア等のキーパーソンで構成する協議会を立ち上げ、沿線地域の活性化に向けたコンセプト「劇場 124」を取りまとめた。

「劇場 124」とは、124km にわたる肥薩線沿線を、主人公である来訪者、舞台である駅舎や景観、演出となる沿線のストーリー、大道具・小道具にあたる花、それらを支える黒子としての沿線の人によって創り出す劇場に見立てたものという位置づけである。

構想では、劇場を盛り上げるために地元住民が地域の価値に気づき、その誇りを熱く伝えていくための「沿線の魅力づくりにかかる戦略（内向き）」を実現し、「集客にかかる戦略（外向き）」に結びつけることとしている。

事業自体は単年度で終了したため、その後は大きな事業には至っていない。しかし、構想実現のための主体として、人吉商工会議所と人吉市が負担して、現場の最前線で地域活性化に取り組むキーパーソン<sup>29</sup>らで構成される「劇場 124 会議」を設置し、各々の活動について情報交換を行っている。現場の最前線で活躍する人たちは、自身の活動で手一杯なことが多く、情報交換の機会を通じて、自身の活動の振り返りや他地域の取組に刺激を受けるなどの効果をもたらしている。

#### <各主体の関係>

沿線では地域のボランティアが主体的に活動をしており、自治体や経済団体などと良好な関係にある。また鉄道を舞台とした連携だけに JR の協力も得られている。

ボランティア活動は、観光客へのもてなしを通じたシビックプライドの醸成に加え、物産販売による収入が活動継続のモチベーションになっている。最近ではインバウンドの増加を受けて、駅ボランティアのキーパーソンが 70 歳を過ぎてから、英会話を学びはじめるほどの熱の入りようである。



#### <対外的な PR 方法>

- 沿線の豊富な地域資源を「肥薩線」という線で結ぶ形で PR。
- 「劇場 124」として特別な営業活動は行っていないが、ホームページがコンセプトの伝達ツールとして活用されている。



<sup>29</sup> 観光協会や駅のボランティアなど直接観光客と接する現場の人が主である

## ⑤日南市

### 合名会社による買収と市への寄贈、コワーキングスペースとしての活用へ

日南市の港町、油津地区にある油津赤レンガ館（以下、赤レンガ館）は、1922年に建設され、当初は飢肥杉の保管、その後はブティック、アトリエなどで利用されていた。しかし、油津港の港湾利用の低迷とともに所有者が赤レンガ館を維持できなくなり、1997年に裁判所の競売にかけられることになった。その時、日南市の有志が設立した合名会社「油津赤レンガ館」が同館を買収し、2004年に日南市に寄贈した<sup>30</sup>。

寄贈を受けた日南市は、赤レンガ館の修復を進めつつ、活用方法を模索していた<sup>31</sup>。紆余曲折の末、2014年11月より、赤レンガ館の2階をコワーキングスペースとして活用し始めた<sup>32</sup>。なお1階部分は、油津の観光・歴史案内スペースや多目的室として活用されている。コワーキングスペースとしての活用にあたって、日南市は赤レンガ館の維持管理の担当課をそれまでの生涯学習課文化財係から観光・スポーツ課へと変更し、登録有形文化財としての適切な保存をしつつも、柔軟な活用が可能な体制とした。

### 宮崎市内のIT企業と東京のIT企業2社と年間利用契約を結ぶ

現在の赤レンガ館の訪問者は、文化財としての赤レンガ館の見学を希望する観光客や多目的室でのイベント参加者などの一般客と、コワーキングスペースの利用者に大別される。一般客は約660名/月、コワーキング利用者は約50名/月である<sup>33</sup>。登録有形文化財を活用したコワーキング施設は、全国初である。レンガの壁面やレトロ風な白熱電球を使った照明など、従来のコワーキング施設ではみられない独特



の雰囲気により、市内だけでなく市外からも利用客が来訪しており、(株)アラタナ（宮崎市）と(株)クラウドワークス（東京都渋谷区）が年間利用契約を締結している。

なお、赤レンガ館は日南市の観光資源・コワーキング施設としての機能にとどまっていない。日南市は現在、企業誘致や油津商店街の活性化に取り組んでいるが、企業誘致につ

<sup>30</sup> 1998年10月には、赤レンガ館は国指定の登録有形文化財となる

<sup>31</sup> レストランやゲストハウスなど様々な方策を検討したが、恒常的な利用の実現には至らなかった。なお、日南市に事前に許可を取れば赤レンガ館の見学は自由であった

<sup>32</sup> 利用料金は、椅子利用とテーブル利用で異なる。椅子利用の場合、400円/日、10,000円/月、100,000円/年、テーブル利用の場合、2,000円/日、50,000円/月、500,000円/年となる

<sup>33</sup> 2015年12月の一般客は662名、コワーキング利用者は56名。コワーキングについては90名を越える月もある



いては、6社のIT企業が日南市に立地ないし本社を移転し、全国大手のIT企業2社の出張拠点が設立された。これらのオフィスの一部は油津商店街に展開する。日南市は、特にIT企業の誘致の際に、赤レンガ館のコワーキングスペースの存在や相乗効果の可能性についてPRしている。行政が登録有形文化財をコワーキングスペースとして活用するというある種の柔軟性に対して、企業が好印象を持つこともあるという。実際に、日南市にサテライトオフィスを作る準備の拠点として赤レンガ館コワーキングスペースを活用したIT企業もあり、赤レンガ館は産業観光の1拠点だけではなく、企業誘致や地域活性化のツールとしても機能しているといえる。

### <各主体の関係>

赤レンガ館は、日南市では「観光資源・地域活性化ツールの1つ」として位置づけられているため、関係する主体は多い。日南市観光・スポーツ課は、赤レンガ館を含めた油津地区全体を「港町・大正ロマンが香る地区」と位置づけ、油津地区を周遊させる様々な取組を進めている。また、(株)油津応援団は、広島東洋カープのキャンプ(天福球場)見学客を油津商店街へ誘導するため、写真や資料を展示する「油津カープ館」を商店街内に開設した。日南市商工政策課は、前述のとおり企業誘致の際に赤レンガ館のコワーキングスペースの存在をPRしている。(一社)日南市観光協会は、赤レンガ館を含めた市内の様々な観光資源<sup>34</sup>や、果物の収穫や醤油蔵の訪問などの体験型観光プログラムについて、地図やホームページ、エージェントに対する働きかけ等によりPRしている。日南市観光ガイドボランティアの会は、無料で市内の観光地の案内をしている<sup>35</sup>。

油津地区には地元住民による「油津地域協議会」があり、同協議会は、「港町油津まち歩きツアー」へ「ほお〜”ほお〜”まち歩き」など、地域住民によるツアーを開催している。



### <対外的なPR方法>

- 「赤レンガ館」のみに特化した観光PRは実施していない(コワーキング施設としてのPRは、市や赤レンガ館のホームページなどでされている)。
- 日南観光協会のホームページや観光地図において、その存在がPRされている。

<sup>34</sup> 梅雨期など、従来は観光のオフシーズンであった季節に観光客を誘致するため、日本一の群生地といわれる「ジャガランタ(5月下旬から6月中旬にかけて咲く紫色の花)」を楽しむイベントの開催など、ジャンルを問わない観光資源の発掘とPRを常に実施。産業観光のみに特化したものではなく、市内の様々な観光資源を組み合わせた観光客の誘致を進めている

<sup>35</sup> 案内する各施設の入館料は別途必要。観光ボランティア利用の際には事前の申込が必要

## ⑥北海道小樽市、岩見沢市

### <小樽における近代化産業遺産活用の取組>

#### 運河論争が市民レベルで街のありようを考える契機に

北海道でも有数の観光スポットとして知られる小樽運河は、近代化産業遺産の活用により多くの集客を実現した象徴的な事例である。1960年代後半、本来の機能を喪失していた小樽運河を埋め立てて道路を拡幅するか、小樽発展の象徴であった運河をまちづくりに活かすかといった市民を広く巻き込んだ「運河論争」が勃発した。運河論争は小樽の街のありようを考えるきっかけとなるには十分なものであった<sup>36</sup>。

#### 近代化産業遺産を活用した観光まちづくりへ

小樽発展の歴史は、北海道の開拓史と歩調を合わせたものである。市内には当時の発展の記憶を止める数多くの近代化産業遺産が残存しているが、これも運河論争を経て近代化産業遺産が、街の財産として認知されたことも関係している。

運河とならぶ小樽の集客施設として知られる(株)北一硝子も、石油ランプ<sup>37</sup>やニシン漁などに用いる漁具の製造などを通じて発展した歴史を持っており、小樽の近代化産業遺産を活用したまちづくりの流れに符合するものとなっている。北一硝子が小樽の観光スポットとして人気を集めたのは、1983年に木骨石張の漁業用倉庫を譲り受け、北一硝子三号館としてオープンしてからのことである。



このほかにも小樽の観光資源として広く知られるようになったものとして寿司がある。漁業の盛んな街でもあった小樽には街の規模に比して多くの寿司店が存在していたが、現在の「寿司屋通り」に立地する寿司店の店主が中心となって全国各地で開催される物産展に積極的に出展し<sup>38</sup>、小樽＝寿司のブランド化に寄与した。こうして小樽運河、北一硝子、寿司といった小樽観光の3点セットというべきコンテンツが確立し、道内随一の観光スポットになっている。

#### 「おたる観光案内人」による地域を誇る文化の醸成

いまや北海道を代表する観光地となった小樽であるが、3点セットをなぞるだけの観光

<sup>36</sup> 20年近くにわたる運河論争は、最終的に運河の半分を埋め立て、道路の拡幅に利用。一部は遊歩道として整備するという現在の形に決着した

<sup>37</sup> 当時は電気が普及していなかったため、石油ランプが当時の人々にとっての必需品だった

<sup>38</sup> 大規模店は通常どおり営業しながら物産展に人を派遣するだけの余裕があったことから実現できた

に留まっているという課題もある。一方で、それでは物足りない観光客も増えており<sup>39</sup>、こうしたニーズに応えるために「おたる観光案内人」制度を設けている。この制度は一般的な観光ガイドとしての人材育成ではなく、小樽の歴史や文化などに対する幅広い知識を有し、地域に誇りを抱く人材を育成するプログラムで、観光従事者をはじめ市民がその資格を有するようになっている<sup>40</sup>。



### <岩見沢・空知地域における近代化産業遺産活用の取組>

#### Q (Quality) × V (Volume) の発想で炭鉱の歴史に光を当てる

小樽の発展を語る上では、北海道における開拓史、なかでも空知地域の炭鉱開発の歴史とは切っても切れない関係がある<sup>41</sup>。しかし、炭鉱関連施設は、すでに廃墟となっており、住民も炭鉱に対して未だにネガティブな印象を持っている人も少なくない。そのような状況の中、空知の発展を支えた炭鉱は誇るべき地域の資源としてその活用に取り組んでいるのが、空知地域の中心都市である岩見沢市に拠点を持つNPO 法人炭鉱の記憶推進事業団（以下、事業団）である。

炭鉱関連資産の活用は、施設の受け入れ容量に限りがあり、民間事業者にとっては商業ベースには乗りにくく、行政にとっても評価軸は観光客の数であるため、なじみにくい。そのため中間的な組織であるNPOが、量 (Volume) の追求に、質 (Quality) を掛け合わせる発想で取組を進めている。

#### アートとの親和性や炭鉱のストーリーを通じた地域を越えた連携

質の追求とは、単なる観光客ではなく、空知の炭鉱開発の歴史や価値に共感する人を増やして、地域の再生を図る輪を広げていくことにある。具体的な取組としては、炭鉱関連資産をバックにしたアートイベントなどを仕掛けている。アートに関心のある人は、感受性の強い人が多く、炭鉱関連資産の存在感や価値に気づいてくれやすいという背景からである。また、空知には多くの旧産炭都市があるが、炭鉱関連資産を活用したまちづくりの取組は自治体によって温度差があり、広域での取組につながりにくい。こうした課題も事業団がコーディネーター役となって広域で同じ方向を向いた炭鉱関連資産を活用したまちづくりに結びつけている。

<sup>39</sup> 昔のままの姿が残る北運河や北海道初の鉄道である手宮線跡など数多くの資源が存在する

<sup>40</sup> 有資格者数（2015年4月現在）は2級322人、1級387人、マイスター38人の合計747人

<sup>41</sup> 北海道初の鉄道である官営幌内鉄道は、空知の幌内炭鉱から産出される石炭を小樽港から積み出すことを目的に整備された

## ⑦群馬県安中市

### JR 信越本線の廃止後に鉄道文化遺産の価値を伝える施設としてオープン

碓氷峠鉄道文化むらのある群馬県安中市横川は、隣接する長野県軽井沢町との間にある碓氷峠の群馬県側の登り口にあたる。碓氷峠は、最大勾配 66.7%<sup>42</sup>と当時の国内で最も急な勾配を越える難所であり、その克服にあたってはアプト式鉄道<sup>43</sup>や幹線電化といったわが国の鉄道史において初となる技術が導入された区間であった。

1997 年、北陸新幹線（高崎～長野）の開業に伴って、JR 信越本線の横川～軽井沢間は廃止となったが、この区間には機関車のほか、旧・変電所や旧・橋梁などが貴重な近代化産業遺産として残っていることから、その価値を後世に伝える施設として、旧・松井田町（市町村合併により安中市）や JR 東日本（株）の協力も得て、1998 年 10 月、JR 東日本・横川駅前に碓氷峠鉄道文化むらが開村した。碓氷峠鉄道文化むらは、碓氷峠を走った鉄道に関連する資料展示や数十



台に及ぶ鉄道車両の静態展示のほか、子ども向けの遊具などが備えられた施設である。今でこそ、九州鉄道記念館（北九州市）、鉄道博物館（さいたま市）、リニア・鉄道館（名古屋市）、京都鉄道博物館（2016 年 4 月オープン予定）といった大規模な鉄道博物館が注目を集めているが、その先駆となったのが碓氷鉄道文化むらといっても過言ではない。

### 決して安くはない金額にもかかわらず本物の機関車運転体験が大好評

碓氷峠鉄道文化むらでは、これらの展示とは別に、日本で唯一本物の電気機関車の運転体験<sup>44</sup>ができるメニューを用意し、産業遺産の動態保存を体験メニューとの組合せによって実現させている。

電気機関車の運転体験をするためには、10 時から 16 時半までの学科実技講習と 30,000 円の受講料を払って受講し、修了試験に合格<sup>45</sup>する必要がある、翌日以降、1 回 5,000 円の体験料で運転が可能というシステムとなっている。受講料、体験料ともに決して安くはな

<sup>42</sup> 1,000m進む間に 66.7m登る勾配、碓氷峠では電車単体では上下することができないため機関車の補助を得て急勾配を上下していた

<sup>43</sup> 車輪とは別に線路の中央に歯車を敷き、勾配を上り下りする際に歯車をかみ合わせて走行することで、急勾配での車輪の空転を防ぐための技術

<sup>44</sup> 往復約 800m の距離を指導員の添乗のもと運転できる

<sup>45</sup> 碓氷鉄道文化むら内の専用軌道（かつての信越本線の鐵路の一部）での運転が可能な資格であり、実際の鉄道車両の運転が可能な国家資格とは異なる

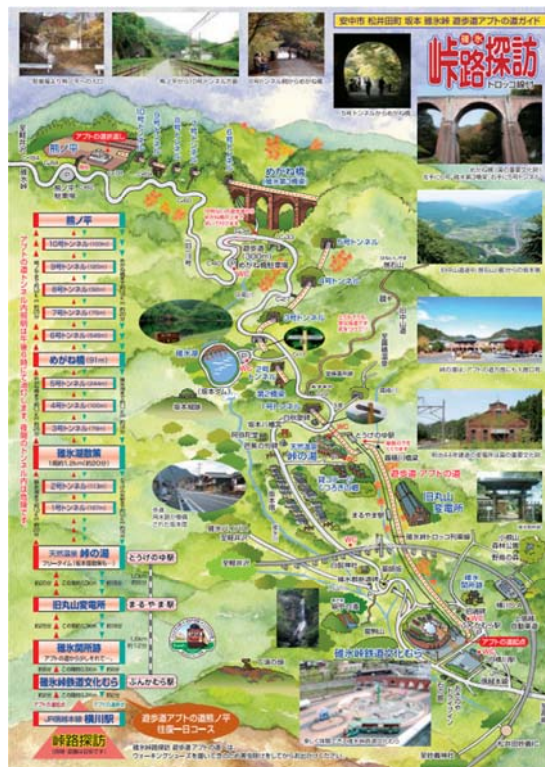
い金額で、拘束時間も長くなるものの、自分の手で重量 108 トンの本物の電気機関車が運転できるのは、他では得難い経験としてロコミで話題となり、オープン前の想定を上回る高い人気を誇っており、週末はもちろん平日でも運転体験の予約を取ることが困難なほどである。

その結果、電気機関車の運転体験は、事業単体での利益を生み出すまでの存在になっており、碓氷鉄道文化むらの運営主体である（一財）碓氷峠交流記念財団<sup>46</sup>の運営を支える存在になっている。

### <各主体の関係>

碓氷峠鉄道文化むらは開村から 20 年近くが経過しており、機関車の台車交換や線路の大規模修繕といった多額の費用が必要となり、施設の運営主体である碓氷峠交流記念財団での負担は困難な状況にある。安中市では、これらの大規模修繕に関して、これまでの実績からその意義を認め、維持のための修繕費を負担している<sup>47</sup>。

このほか、同じ運営主体が経営する温泉施設「峠の湯」との間は、碓氷峠鉄道文化むらの園内を走るトロッコ列車（延長約 2.6km）で結ばれており、施設間の連携が可能な環境を整えている。また、安中市ではトンネルも含めた旧線跡<sup>48</sup>を「アプトの道ハイキングコース」として整備し、碓氷峠の関所跡や「めがね橋<sup>49</sup>」といった歴史遺産や近代化産業遺産を結ぶルートづくりを行っている。新緑や紅葉の季節は多くのウォーキング客で賑わっており、また道中にある「峠の湯」への集客にもプラスに作用している。



### <対外的な PR 方法>

- 運転体験に関しては、ロコミやパブリシティ（NHK・ブラタモリにも登場）が主

<sup>46</sup> 同財団は碓氷峠鉄道文化むらのほか、温泉施設「峠の湯」、貸しコテージの経営を行っている

<sup>47</sup> 2015 年 9 月～2016 年 3 月に線路の大規模補修を行っており、その間の運転体験は休業された

<sup>48</sup> 1997 年に廃線となった路線とは別のアプト式鉄道が走っていた時代の線路跡（約 6 km）をハイキングコースとして整備している

<sup>49</sup> アプト式鉄道時代（1892 年）に作られたレンガ造りの橋梁で、第 2 橋梁から第 6 橋梁までの 5 基が残っており、すべてが国指定重要文化財であり、経済産業省の近代化産業遺産にも認定されている。ハイキングコース上にあり、橋の上を歩くことができる

## ⑧愛媛県東予地方（新居浜市、今治市など）

### <新居浜市・マイントピア別子における取組>

#### 別子銅山の産業遺産を活用したテーマパーク「マイントピア別子」

別子銅山は、1691年に開坑した銅山であり、かつては世界一の産出量を誇った。1973年の閉山後、別子銅山が新居浜市発展の基礎となっていたため、何らかの形で活用が求められていた。そこで、新居浜市と住友グループ11社、地域経済団体（新居浜商工会議所など）の出資による第3セクター「(株)マイントピア別子」が設立され、同社により1991年には体験型観光施設「マイントピア別子」がオープンした。銅山の採鉱所跡を活用した観光坑道や観光坑道まで移動可能な鉱山鉄道、一般客向けの温泉施設が整備された。

#### 低迷期から「第二の創業」による入込客の復活

オープン当初は年間60万人を超える入込客数があったものの、その後の展示物やプログラムがあまり変化しなかったことにより、リピーターが増えなかった。そのため、オープンから14年後の2005年の入込客数は26万人と、ピーク時（60万人超）の4割強に落ち込んだ。

その後、(株)マイントピア別子に出資している金融機関から経営建て直しのための人材が派遣された。現・同社専務取締役の船越 豪晴氏である。船越氏は、産業観光のみによる集客には限界があることを考え、業務の洗い出しをした上で、事業の取捨選択を実施した。その結果、まずは対外的なセールス・PR活動（旅行会社に対する営業、旅行雑誌掲載などによる情報発信強化）と、リピーターを増やすための花観光<sup>50</sup>に着手した。同時に、他の施設や自治体と連携したイベント開催（愛媛県愛南町のキャラバン隊を招聘した鯉に関するイベントなど）により、産業観光に興味がない人もマイントピア別子を訪問したくなるような環境づくりも進めた。更に、経営体力強化のための売上げ増加を進めるため、数々の自主事業に取り組んだ。例えば、マイントピア別子から離れた山岳地帯（東平地区<sup>とうなる</sup>）には、別子銅山の遺構が数多く残っているが、この東平地区を「東洋のマチュピチュ」と位置づけた上で、マイントピア別子から東平地区へのオプション観光バスツアー（着地型観光商品）に取り組んだ<sup>51</sup>。現在、6万人程度が利



<sup>50</sup> 園内に芍薬（5月に開花）、鹿の子ユリ（8月に開花）、冬桜（10～2月に開花）を植え、訪問する度に景色が変化するようにした

<sup>51</sup> 観光バスツアー開催のため(株)マイントピア別子は旅行業と陸上運送業（一般貸切旅客自動車）を取得

用し、マイントピア別子の入込客増に貢献している。また、レストランや各種売店の経営、外部の店舗に対する賃貸なども進めている。様々な取組や小さな実績の積み重ねにより、2013年の入込客数は49万人と増加に転じている。現在も温泉施設のリニューアルなどの設備投資を続け、新規の観光客やリピーター客の確保に努めている。

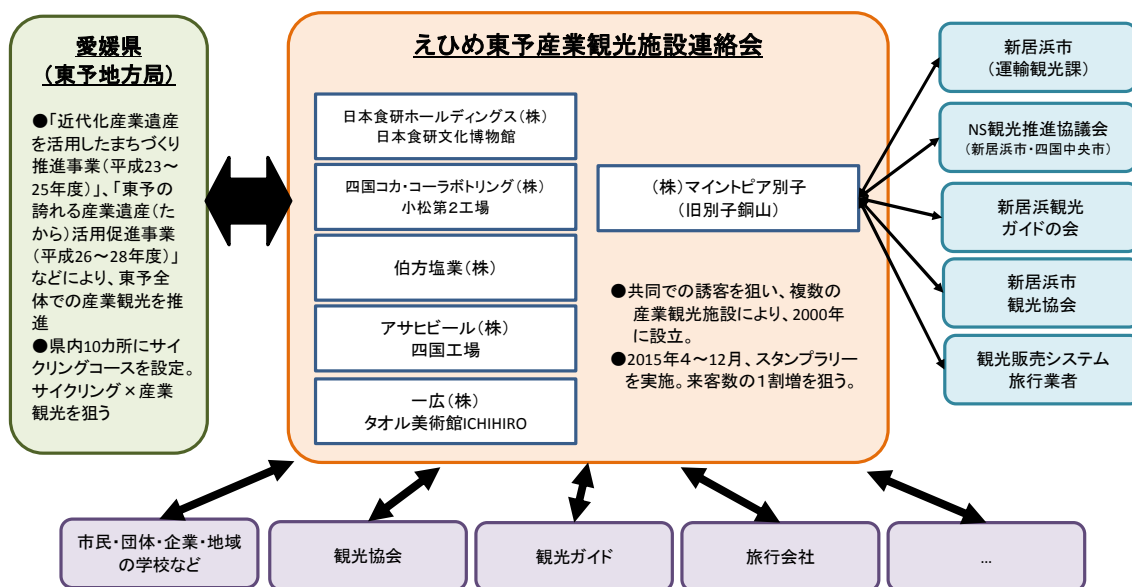
### 他の産業観光施設との連携

集客を進める上で、地域の他の産業観光施設との連携が進んでいる。愛媛県東予地区（今治市、西条市、新居浜市、四国中央市）には、工場見学を実施する様々な施設が存在するが、民間6施設により、「えひめ東予産業観光施設連絡会」が設立されている。スタンプラリーの実施などにより、互いに入込客を他の施設にも訪問させることを進めている。

### <各主体の関係>

マイントピア別子としては、地元新居浜市やNS観光推進協議会、新居浜観光ガイドの会などと連携し、観光地図の作成（新居浜市、観光推進協議会）、施設内のガイド派遣（観光ガイドの会）、着地型観光の展開（観光販売システム旅行者）などに取り組んでいる。また、愛媛県（東予地方局）が、様々な事業展開による活動支援や、サイクリングと産業観光をかけたヘリテージツーリズムの推進などを通して、地域全体に対する入込客増を進めている。

愛媛県東予地方の産業観光に関する主な主体



### <対外的なPR方法>

- 新居浜市や愛媛県の観光地図等によるPR
- 雑誌社や旅行代理店によるPR

## ＜今治市・タオル美術館 ICHIHURO における取組＞

### タオル美術館の運営による自社ブランド PR と対個人ビジネスの展開

1974年に設立した一広(株)は、タオルの製造販売を主な事業としている。設立当初からバブル経済期までは、製造したタオルを卸売業者に卸して販売してきたが、バブル崩壊による卸売業の低迷により、顧客に対する直接販売とそれを実現するための産業観光を目指した。そのため、平成12年4月には、工場として所有していた今治市内陸部の土地を活用して「タオル美術館 ICHIHURO」を開館した。館内には、タオルで作られた人気キャラクターや版画などのタオルアートが展示された美術館に加え、最新鋭の織機による製造を見学できる製造工程、自社製品を販売するショップ、人気デザイナーのギャラリーなどがある。



開館から7年間、美術館事業は赤字であった。しかし、美術館は同社のブランドPRと顧客に対する直接販売を進めるための拠点であったため、館内の機能を増やすなど投資を続けた結果、来訪客数と美術館でのタオル販売額は増加し、2008年からは採算ベースでの運営となった。現在は年間40万人（うち1割が外国人客）が訪問している。

### 美術館機能の段階的な追加・更新

自社ブランドのPRと自社製品の販売を進めるためには、美術館への来訪者の増加（と来訪者によるタオル購入の誘導）が課題となるが、同社はこの課題に対して、産業とアートを融合させること、機能を段階的に追加・更新することで対応している。「産業観光」としては製造工程見学が目につくが、同美術館は、タオルアート作品の展示やデザイン性の優れたカフェ設置などにより、「居心地の良い空間」を形成することで、来訪客の滞在時間の延長を促している。また、地元四国の物産コーナーやブランドグッズを揃えたミュージアムマルシェの追加や更新を続けることで、産業観光への関心が低い・目的としない来訪客を取り込んでいる。こうした地道な努力を繰り返すことで、営業は広報活動することなく来訪客の増加、つまり自社ブランドPRと自社製品の販売促進に成功した。





## ＜愛媛県東予地方広域での取組＞

### 産業観光を活用したまちづくり施策の展開

また、今治市が含まれる愛媛県東予地方は、もともと産業観光に対する取組を進めている地方である。愛媛県東予地方の管内4市1町<sup>52</sup>には、新居浜市の別子銅山ゆかりの遺構（遺産）が点在していた。これに注目した愛媛県（東予地方局）は、シビックプライドの醸成や交流人口拡大を進めるため、平成23～25年度の3カ年で「近代化産業遺産を活用したまちづくり推進事業」を展開。同事業で、産業遺産の保存・活用策の協議や語り部の発掘とその記録などの事業を実施した。平成26～28年度には、「東予の誇れる産業遺産（たから）活用促進事業」により、スタディツアーの実施やサイクリングでのフィールドワークを実施した。平成25年3月には「東予地域観光推進プロジェクト」の事業報告書を発表し、工場見学や産業体験をフックとした東予地方における観光産業全体の活性化の可能性を示した。愛媛県（東予地方局）は、長期間にわたり産業観光に対する支援策の展開や調査を進めてきた。

### 地域に点在する産業観光施設と「自転車」を活用した来訪者取り込みの模索

東予地方には、別子銅山ゆかりの遺構以外に施設見学が可能、つまり産業観光の拠点となり得る施設が数多く点在している。この中の6施設<sup>53</sup>は、「えひめ東予産業観光施設連絡会」を設立し、スタンプラリーの実施などによる集客増を進めている。ただし、一般的に産業観光のみを目的として地域を訪問する観光客は多いとは言えない。一方、愛媛県に対しては、尾道と繋がる「しまなみ街道」で自転車を楽しむサイクリストが数多く訪問している。

そのため愛媛県は、東予地方のサイクリングコースについて、産業観光施設に立ち寄るように設定しており、一部の施設にはサイクルスタンドなどを整備している。今のところサイクリストの楽しみと産業観光の楽しみは異なるため、必ずしも多くのサイクリストが産業観光施設に立ち寄っている訳ではない。しかし、他の観光資源との連携は、今後の集客増の可能性について期待することができる。



<sup>52</sup> 今治市、新居浜市、西条市、四国中央市、上島町

<sup>53</sup> 日本食研ホールディングス（株）日本食研文化博物館、四国コカ・コーラボトリング（株）小松第2工場、伯方塩業（株）、アサヒビール（株）四国工場、一広（株）タオル美術館 ICHIHIRO、（株）マイントピア別子

## IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策

### 1. 産業観光を活用した地域活性化の課題

これまで行ってきた文献調査やアンケート・ヒアリング、委員会からの提言から明らかにされた課題は以下のように分類される。本節では、これらの課題について個別の事例を交えながら整理を行う。

#### 文献調査、アンケート・ヒアリングから明らかにされた課題

産業観光資源の活用度の低さと受入環境の遅れ	・キャパシティの限界(敷地、ガイド等) ・ガイドの対応(高齢化、繁閑差のギャップと人繰り、飛び込み客への対応困難 等) ・ハード・ソフト両面での対応の遅れ
産業観光に対するニーズ把握	・マーケティングの基礎となるデータの不足 ・ユーザー目線での産業観光資源の活用ニーズ把握
インバウンドへの対応	・多言語対応の遅れ(費用対効果、頻繁な情報更新が困難) ・アジアからの観光客における産業観光資源に対する関心の低さ
住民や所有者の理解促進	・所有者への公開協力と本業への影響の兼ね合い ・現役施設では安全の確保や企業秘密保持への対応 ・保存・活用にかかる経費負担への住民の理解
産業観光資源の持続可能な保存・活用	・観光資源としての維持や大規模修繕にかかる経費の捻出 ・ガイドのボランティア依存 ・周辺の観光資源との組み合わせによる魅力の向上

#### (1) 産業観光資源の活用度の低さと受入環境の遅れ

産業観光を活用した地域活性化の取組において、まず課題としてあげられるのは、産業観光資源が十分に活用されていないことと、それに伴って受入体制が整っていないということである。産業観光では、特に産業観光資源の価値を発掘し、その価値を分かりやすく伝えていくことが重要である。

九州の産業観光資源、とくに近代化産業遺産は、明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録によって一躍脚光を浴びることとなった。しかしながら、産業観光自体がマス・ツーリズムになじみにくいということもあるが、これまでほとんど観光資源として扱われていなかった遺産もあり、一度に多くの観光客が訪れるようになると、受入環境が整っていないとその価値の理解が進まず、結果として不満を与え、その後の集客に悪影響を及ぼすことにもなりかねない。

たとえば、産業観光資源の活用において重要な役割を果たしているガイドであるが、アンケートや各地のヒアリングにおいても担い手の高齢化、ガイド人材の減少といった課題を抱えているところが多い。

このほかにも受入環境に関しては、以下のような課題が存在している。

### 受入環境の遅れ

	ハード面	ソフト面
産業観光資源	近代化産業遺産の保全 案内板などの充実 遺産を補完・代替する展示の充実 交通アクセス改善(二次交通、渋滞対策) 駐車場・トイレなどの増設	ガイドの確保・専門性向上、知識継承 パンフレット、ガイドブック充実 インバウンド対応 ゴミ・マナーの問題への対応
周辺地域	飲食・宿泊施設整備 物販施設整備	観光資源の開発(グルメ、土産など) インバウンド対応

## (2) 産業観光に対するニーズ把握

産業観光は、新しく複合的な要素を持つ観光の形態であることから、一般的な観光とは異なり、そのニーズに関連するデータの数は必ずしも多くない。こうしたマーケティングの基礎となるデータの不足は、今後の発展戦略を考える上でマイナスに作用してしまう。現存するマーケティングデータの場合でも、産業観光＝工場見学といったような位置づけがなされていることが多く、限定的な意味での産業観光の実態しか把握できていないという問題がある。産業観光は複合的な要素を持った観光の形態であり、定量的にその実態を把握することが難しいこともデータ不足の要因と考えられる。たとえば、観光客を対象にアンケートを行ったとしても、本人に産業観光を行ったという意識がなければ、実際には産業観光の要素を含んだ観光をしていても産業観光を行った人にはカウントされないといった問題がある。

また、産業観光資源の活用策については、供給側が「よかれ」と思って提供しているものが多く、ユーザー目線での活用策に関するニーズの拾い上げは十分ではないことも産業観光を活用した地域活性化を図る際の課題といえる。

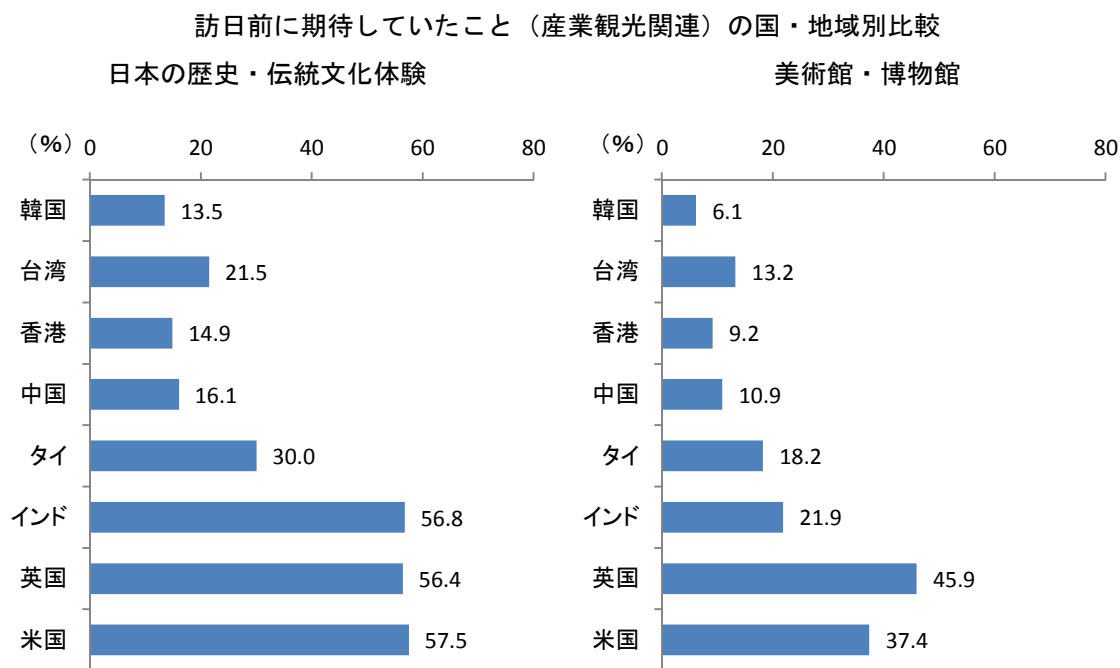
## (3) インバウンドへの対応

急増するインバウンドへの対応に関しては、各地ともに対応を進めている。しかしながら、多言語対応には翻訳などのコストがかかるため、費用対効果の兼ね合いから対応が進んでいないところも少なくない。

また、そもそもの問題として、九州に多く訪れているアジアからの観光客が、産業観光に関連する観光行動にあまり興味をもっていないこともあげられる。

訪日客を対象にした観光庁のアンケート調査では、産業観光に関連する観光行動は、アジアからの観光客では次図のとおり、あまり関心を持たれていない。ヒアリングからも「ア

アジアからの観光客はいるにはいるが、欧米からの観光客の方が反応がよい」といった話も聞かれており、インバウンドのボリュームゾーンであるアジアからの観光客に対しては、異なるアプローチが必要と考えられる。



資料) 観光庁「訪日外国人消費動向調査（2014年）」

#### （４）住民や所有者の理解促進

アンケート調査によれば近代化産業遺産の所有者は、官民ほぼ半々の割合となっており、半数近くは民間の所有となっている。現役の産業観光資源に関しては、ほとんどが民間の所有と見ることができる。したがって、産業観光資源の活用を図るには、所有者である民間事業者の理解と協力が不可欠となる。

さらに新日本製鐵八幡製鐵所や三菱重工長崎造船所の世界遺産の構成資産が一部非公開としているように、現役の稼働施設が産業観光資源の場合、観光客の受け入れは安全性の確保や企業秘密にかかる問題が存在し、両社ともに世界遺産登録を受けて、可能な限りでの公開対応を行っているものの、公開が限定されるものもある。公開に向けては、安全性の確保や企業秘密への対応、所有者等の協力をどう解決していくかが課題である。

行政や公的機関が所有している場合においても、とくに近代化産業遺産の場合は、後述する保存・活用のためのコストの問題があることから、保存・活用のためのコストを負担することに対する住民の理解が不可欠となる。しかしながら、これまでの産業観光資源（近代化産業遺産）に対しては、一般にその価値に理解が進んでおらず、世界遺産登録のよう

な外部からの評価によって初めて気づくというものも少なくない。行政としても住民の理解が得られていない状況では、保存・活用のための予算を負担することは難しく、こうした課題を前にして取り壊されてしまった近代化産業遺産も少なくない。

このように、産業観光資源の価値を広く一般に十分に理解してもらうことが課題である。

## （５）産業観光資源の持続可能な保存・活用

近代化産業遺産は、築年数が100年を超えるものも少なくない。産業観光資源は、維持や大規模補修のための経費が恒常的に発生する。こうした保存・活用にかかる経費をどのように捻出するかといった課題が常に存在している。

また、産業観光において重要な役割を果たすガイドについては、その多くはボランティアに依存しており、人材不足や高齢化が進んでいる状況がうかがえる。ガイド料も無料としている施設が多く、有料化できるサービスの向上も課題である。

さらに、産業観光単体では集客力が弱いことから、地域の観光資源と組み合わせることで、地域全体の魅力の向上を図り、観光客を呼び込むといった工夫などが必要である。

## 2. 産業観光を活用した地域活性化に向けた方策

前節で見た産業観光を活用した地域活性化の課題を踏まえ、以下では、これらの課題を克服し、解決を図るための方策について検討する。

### (1) 産業観光資源の発掘・磨き上げ

#### ①産業観光資源の発掘

産業観光を活用した地域活性化に向けた第一歩は、それぞれの地域が有する資源の掘り起こしである。産業観光資源の価値をきちんと調査・評価し、見える化、ストーリー化していくことが重要である。さらに関連する資源との組み合わせなどにより磨き上げを行っていくことが重要である。

産業はどの地域にも必ず存在するものであることを考えれば、産業観光資源となりうるものはどの地域にも必ず存在するといえる。つまり、内部の人間が見落としている産業観光資源は必ず眠っているはずであり、これらを外部（地域の外、業界の外など）の視点を取り入れることで産業観光資源の発掘の契機とすることが有効である。

#### <方策イメージ>

- 産業観光資源の価値の調査、ストーリー化
- 産業観光資源の発掘のきっかけとして、外部（地域の外、業界の外など）の視点を取り入れ

#### <取組事例>

- 工業地帯としてのブランドイメージに着目した産業観光振興（北九州市）
- 解体の危機に瀕していた旧伊藤伝右衛門邸の保存運動が契機となり、街として集客の取組を強化（飯塚市）
- 市内のバラエティに富んだ地域資源を体験プログラムの着地型商品に（久留米市）
- 限られた時間の中での観光まちづくりを模索する中で、ないものねだりではなくあるもの探しの発想で、地域共通の資源である「米」を発掘し、商品化した「米米惣門ツアー」を展開（山鹿市）
- 地域資源である運河の活用方策をめぐる大論争を通じて、街としての方向性を考える契機となり、近代化産業遺産を活用した道内随一の観光地に（小樽市）

#### ②他の要素との組合せ

ここで紹介した地域資源単体では、必ずしも強い集客力を持たないものも多い。これら

を他の観光資源と組み合わせて魅力を高めたり、地域への滞在時間を延ばす取組が行われている。

産業観光資源を他の観光資源などと組み合わせて、新たな価値を創造するサービスを提供することに関しては、商品化のための支援策も拡充されており、これらを活用して組合せによる魅力の創造を図ることも有効である。

#### <方策イメージ>

- 異業種連携による商品化支援策の活用

#### <取組事例>

- 産業発展の歴史に通じる角打ち文化や工場夜景を楽しむツアーを取り込んで宿泊需要の拡大を模索（北九州市）
- シュガーロードとしての歴史と石炭の街としての特色を融合させた黒スイーツや、地域でよく食されるホルモンを石炭に見立てた「ほるホルめし」の開発（飯塚市）
- 地域資源を活かした着地型観光プログラムの先駆である「長崎さるく」に近代化産業遺産や産業観光を組み込み（長崎市）
- 市内のホテル・旅館が営業ツールとしてツアーを積極的にPRし、街を楽しむメニューを拡充（山鹿市）
- 廃線跡のウォーキングと温泉施設、トロッコ列車との組合せにより多面的な魅力を創出（安中市）
- 施設内に花を植えることで季節の花を見に来る客を集客、リピーターの確保の効果も（新居浜市）
- 地域に数多く訪れるサイクリストの来訪を意識した環境整備（愛媛県東予地方）

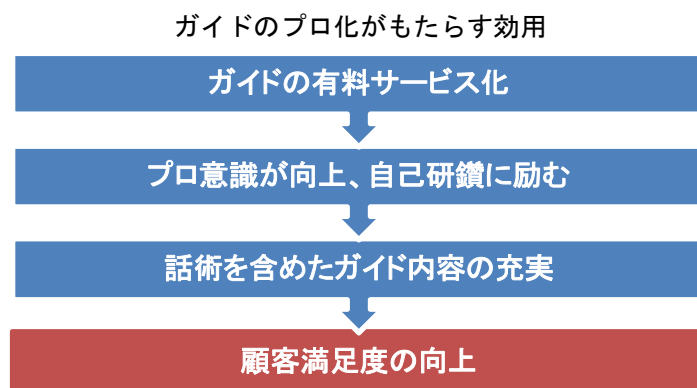
## （２）「稼げる」産業観光づくり

### ①演出方法の工夫による付加価値の向上

ここで紹介した産業観光資源の多くは「見るだけ」「触れるだけ」ではその魅力が伝わりにくいものも多い。したがって、その魅力を伝えるガイド、ストーリーテラーの存在が重要な役割を果たしており、ほとんどの事例においてその魅力を伝える手法の工夫や人材の育成に取り組んでいる。たとえば、富岡製糸場ではガイドをプロ化（ガイドの有料サービス化）を行ったところ、ガイドの自己研鑽意識が高まり、話術も含めたスキルの向上が図られ、来訪者の満足度も向上するといった効果を生み出している。

ガイドの存在は、産業観光資源の魅力を伝える重要な役割を果たしており、その人材育成は各地の産業観光を活用した地域活性化の成否を左右するといっても過言ではない。ガ

イドという、ボランティアガイドにばかり目が向かいがちであるが、ホテル・旅館や飲食店、運輸事業者といった観光客が利用するサービスに関わる人材が、おもてなしのレベルを高めるだけでなく、地域の産業観光資源を誇れるようになることでその魅力を伝えられる環境を整えていくことが重要である。



このほか、新居浜市のマイントピア別子では、施設外にある産業観光資源をめぐる着地型ツアーを造成し、マニアックな層に対する商品として販売している。着地型観光は、地域に精通した事業者が造成する中身の深い商品がその特徴であり、産業観光との親和性が高い。しかしながら着地型観光に関しては、大手の旅行会社が提供する商品とは異なり、営業力、情報発信力の面で見劣りするものが多く、売上が思うように伸びないのも事実である。これらは、商品造成ひとつを行うにもオーダーメイドであるがゆえにイニシャルコストがかかるものの、市場は大きくないので大きな利益は期待しにくい。しかしながらメニューの充実を図る上では必要不可欠な存在であり、これらの商品化の立ち上げ支援が望まれる。

その他にも、演出方法ひとつとっても、動態保存により資源のダイナミックさをよりリアルに伝えたり、体験メニューを組み込むなど感動を得られる仕掛けをすることによって訪れた人により深く記憶に留めてもらうなどの工夫が必要である。

#### <方策イメージ>

- 観光関連サービス従事者（ボランティアガイド等も含む）が、おもてなしのスキルを高めたり、地域を誇ることができるようになるような人材育成の支援
- 着地型商品開発の造成や事業の立ち上げ支援
- 異業種連携による商品化支援策の活用
- 複合的なサービスを提供する際の事業立ち上げ支援

#### <取組事例>

- 産業観光を活かした観光事業の立ち上げ支援（北九州市）



- 「さるくガイド」のノウハウを活かした近代化産業遺産観光の展開（長崎市）
- 反省会を通じてのガイドのノウハウの蓄積と改善（山鹿市）
- おたる観光案内人の取組を通じた市内の観光関連サービス従事者からボランティアガイド、一般市民に至るまでの地域に誇りを抱く人材の育成（小樽市）
- アートとの融合による炭鉱関連資産の新たな魅力創出（岩見沢市）
- ガイドのプロ化による意欲の向上と見学者の満足度向上（富岡市）
- 本物の機関車運転体験による動態保存。丸1日の講義、高額な受講料や運転体験料が必要にもかかわらず大人気（安中市）
- アクセスの悪い場所にあるが価値の高い産業観光資源をめぐる着地型ツアーを造成し、マニアックな層に訴求（新居浜市）
- タオル産業とアートの融合などによる滞在時間延長に向けたさまざまな仕掛けづくり（今治市）

## ②民間企業の参入を促す取組

産業観光資源を活かして民間企業が新たな事業を行うことで地域経済の活性化に結びつける視点も重要である。

たとえば、北九州市では、世界遺産登録を契機にオリジナルのロゴを作成し、商工会議所や観光協会の会員企業が世界遺産に関連した土産品などの開発に利用できるよう無償で提供している。これにより「ネジチョコ」のような新しいお土産品が誕生し、人気を博するなどの効果を生み出している。このほかにも、工場夜景クルーズの立ち上げに際して支援を行い、現在は民間事業単体の自立した事業に成長させたり、着地型の産業観光ツアーの商品化支援などを行って、旅行者にとってはメニューの拡充といった効果を、地域にとっては経済活動の活性化につながるといった効果を生み出している。

こうした取組を後押しするような新事業立ち上げ支援を活用することが望まれる。

### <方策イメージ>

- 地域資源を活かした新商品開発支援策の活用
- 着地型商品開発の造成や事業の立ち上げ支援

### <取組事例>

- 「北九州世界遺産」ロゴの作成と会員企業への提供による商品開発支援（北九州市）
- 産業観光を活かした観光事業の立ち上げ支援（北九州市）

## ③資源が持つストーリーを通じた広域展開

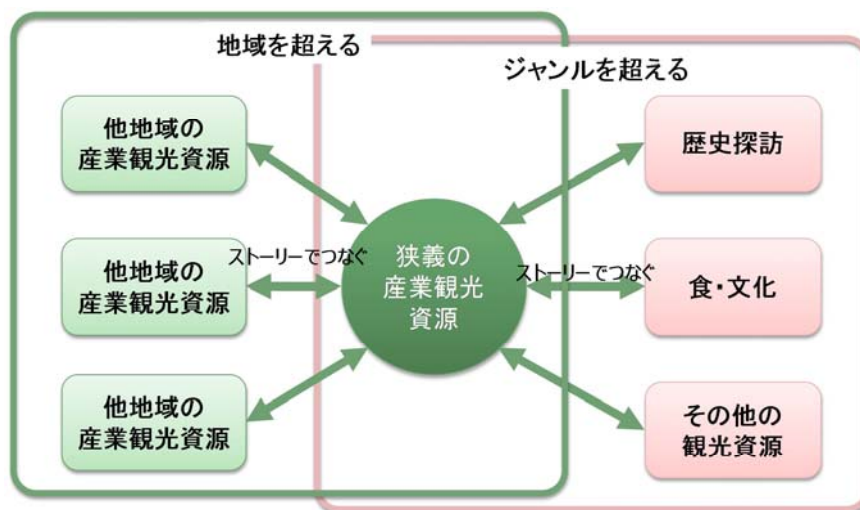
各地へのヒアリングでは、それぞれの産業観光資源が持つストーリーをつなげることで、面的な拡大を推進するチャンスがありながら、その取組が必ずしも十分でなく、それぞれ

の資源が持つ魅力を引き出し切れしていないところも多かった。産業観光資源の魅力を高める上ではこれらの資源の魅力を面的に拡大していくことも必要である。

人吉市を中心とした肥薩線沿線の自治体では、沿線の活性化ビジョンの策定を通じてできたボランティアや観光協会などのキーパーソンのネットワークをつなぐ取組を進めていたり、岩見沢市を中心とした北海道空知地域においては、炭鉱の記憶推進事業団という NPO が中核となって、炭鉱という共通のストーリーを活かした地域再生の取組をコーディネートするといった取組が展開されている。

こうした広域での取組に関しては、九州観光推進機構でも発足時から九州各地の観光資源が持つストーリーを通じてひとつのルートで結ぶ広域観光ルートの支援を行っており、これらの支援スキームも活用しながらストーリーを通じた広域展開を促進していくことが望まれる。

#### ストーリーを通じた地域やジャンルを超えての産業観光活性化（イメージ）



ストーリーを通じ、地域とジャンルを超えて産業観光の領域を拡大

#### <方策イメージ>

- ストーリーを通じた広域観光ルート形成の活用

#### <取組事例>

- 地域資源である肥薩線を通じた各地で活躍するキーパーソンのつなぐ取組（人吉市ほか）
- 複数の自治体にまたがる炭鉱関連資産の活用と地域の再生を NPO 法人がコーディネート（岩見沢市）
- 産業観光を展開する民間 6 施設で組織される「えひめ東予産業観光施設連絡会」によるスタンプラリー（集客）の展開（愛媛県東予地方）

### (3) インバウンド対応

#### ①インバウンド対応のためのインフラ整備

急増するインバウンドに対しては、サインやパンフレット、ホームページなどの情報伝達ツールの多言語化を着実に進めていくことが必要である。また、訪日外国人の間でもニーズの高かった Wi-Fi 環境の整備は産業観光に限った話ではなく、インバウンド対応として必要な策であり、観光立国のためのインフラ整備にかかる支援策を活用しながら受入環境を整えることが重要である。また、観光関連サービス従事者の外国語対応能力の向上も非常に重要なソフトインフラといえ、これらの人材育成にかかる支援策を有効に活用させることが必要である。

インバウンドを対象とした情報発信を行う際には、日本語で書かれた説明文をそのまま翻訳するのではなく、最小限必要な情報量での説明によって読む側にとってよりわかりやすい説明にする工夫も必要である。大牟田市では、エアサイネージ（Wi-Fi を利用してスマートフォンなどでコンテンツを見ることが出来るシステム）を活用して、近代化産業遺産を動画や古写真で解説するサービスを、4カ国語対応で提供している。

#### <方策イメージ>

- フリーWi-Fi の整備、サインやパンフレット、ホームページなどの多言語対応などに対する助成の活用
- 観光関連サービス従事者に対する外国語対応能力向上のための人材育成支援

#### <取組事例>

- エアサイネージを活用した多言語対応による解説サービス（大牟田市）

#### ②アジアからの誘客には産業観光資源のストーリーを活用

急増するインバウンドへの対応は必要性が高まっているが、九州へのインバウンドの大半を占めるアジアからの観光客は、産業観光資源に対する関心が薄いといった懸念もある。日本的なモノ・コトに関しては、欧米からの観光客の方が関心が高いのは事実であり、その動きは大きく変わらないと思われる。

したがって、アジアからの観光客に向けては、その国や地域とのゆかり（ストーリー）を通じたアプローチが有効であろう。たとえば、韓国に対しては、李参平が有田焼の陶祖として奉られているといったストーリーがあり、教育旅行を中心に「ゆかりの地」を訪ねる旅が確立している。こうしたストーリーを通じたインバウンドの集客は、両国間の相互理解を深める意味においても有意義である。これらもストーリーを通じた広域観光ルートづくりとの親和性が高く、産業観光資源を通じた広域連携を促していくことが望まれる。とくに受け入れ側となる基礎自治体（観光協会等を含む）においては、外国人をターゲッ

トにした情報発信でできることには限りがあるため、広域連携が重要な役割を果たす。

#### <方策イメージ>

- ストーリーを通じた広域観光ルート形成の活用（インバウンド向けの発信）
- ビジットジャパンキャンペーンを活用した観光ルートづくり

#### <取組事例>

- 有田焼の陶祖として奉られている李参平の足跡を訪ねる旅を韓国から誘客（有田町）

### ③深い知識を有する外国人には言葉の問題よりも中身が重要

日本に数多ある観光資源の中で、産業観光資源を選んで訪問する外国人客は、これらの資源やその背景にあるストーリーについて深い知識を有していることが多い。

炭鉱の記憶推進事業団（北海道岩見沢市）へのヒアリングにおいても、欧米から空知の炭鉱跡を訪ねてくる人もいるが、彼らは炭鉱やそれに関連する機械に関する知識はすでに有しているので、一から外国語で説明する必要はなく、むしろ母国との違い、日本ならではの特徴といった点に興味を示しており、これらを理解し、的確に答えられるかが重要で、言葉の問題は二の次であるという。

したがって、多言語対応よりもガイドなどの関係者が産業観光資源に対する知識を掘り下げることの方が重要といえ、そのためには言語能力だけではなく、地域の産業観光資源に精通した人材の育成が必要である。

#### <方策イメージ>

- 観光関連サービス従事者に対する外国語対応能力向上のための人材育成支援

#### <取組事例>

- 炭鉱に対する深い知識を持った外国人に対して、母国の炭鉱との違いや日本の特徴を伝達する取組（岩見沢市）

## （４）産業観光資源に対する理解の深化を通じた活用促進

### ①外部からの評価による価値の伝達

産業観光資源に対しては、一般にその価値を十分理解されていないことも少なくない。先般の世界遺産登録は、これらの産業観光資源に対する価値について認識を高める上では非常に大きなインパクトを与えるものとなり、構成資産を有する地域における住民や所有者の誇りの醸成につながっている。

世界遺産登録まで行かなくとも、飯塚市の事例のように新聞の一面記事で大きく取り上げられたことが、旧伊藤伝右衛門邸の保存・活用の気運を高める上で大きく寄与したことに象徴されるように、産業観光資源を活かす取組について外部からの評価は、広く価値に気づくといった効用を生み出すことが期待される。そのため表彰制度や好事例を広く伝えたり、産業観光資源を訪れた観光客に対してガイドが伝えるなどの取組が重要である。

#### <方策イメージ>

- 産業観光資源の保存・活用にかかる表彰制度や好事例の情報提供
- パブリシティやメディアの活用による情報発信

#### <取組事例>

- 解体の危機に瀕していた旧伊藤伝右衛門邸の保存運動が契機となり、街として集客の取組を強化（飯塚市）
- 所有者である片倉工業が「売らない、貸さない、壊さない」の3原則で建物を保全してきたことが世界遺産登録につながったことをガイドが紹介（富岡市）

### ②教育現場との連携による価値の伝達

また、教育現場との連携による価値の伝達も有効である。富岡や桐生の事例にあったように、子どもの郷土学習を通じて大人が地域にある産業観光資源の価値を再認識するということも見られる。その点では親子学習の機会を通じて、親と子がともに地域の産業観光資源の価値を学ぶ機会を創出することは有効な方策といえる。

また、大牟田では小学生によるガイドといった取組も進められている。幼少期から地域の財産に誇りを持つ機会が作られ、外から来た人に接する機会を持つことは、その子ども達が大人になったときも語り継がれる財産となり、ひいてはこれらの資源の保存・活用に向けた意識の向上に結びつく。こうした取組は、小学生に限らず、中学生や高校生など、それぞれの年代に適した手法で、産業観光資源を舞台にした学びの機会を創出することが可能である。具体的には、「総合的学習の時間」における生きた教材としての利活用が考えられる。

#### <方策イメージ>

- 親子学習の機会を通じた産業観光資源を学ぶ機会の創出
- 「総合的学習の時間」を通じての産業観光資源を舞台にした学びの機会創出

#### <取組事例>

- 小学生ガイドによる地域資源の価値を学ぶ取組、世界遺産登録前からの地道な価値を伝える取組（大牟田市・荒尾市）

- 教育現場を通じて子ども達が地域の誇りを学ぶことで大人達もその価値を再認識（富岡市・桐生市）

### ③住民の理解の高まり通じた保存・活用の推進

産業観光資源の保存・活用のためにかかる費用の多くは、行政や企業が負担していることが大半であるが、住民の理解はその根拠となりうるため、重要な要素である。

しかしながら、これらの費用をすべて行政や企業の負担に委ねるのではなく、産業観光を活用した事業収入や市内外の理解者による支援を得ることで一部を補っていくことも重要である。たとえば大牟田市では、近代化産業遺産である炭鉱電車を保存・活用するための移転費用を、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングによって市内外の理解者やファンから一部を募るといった取組を行っている。このほか、端島炭坑（軍艦島）では世界遺産の保全等に充てることを目的とした上陸料を軍艦島上陸クルーズの料金に含む形で徴収したり、富岡製糸場では、製糸場の維持・修繕にかかる費用に充てることを明確化した上で見学料を 500 円から 1,000 円に値上げしている。こうした取組も見学者への理解を得ることによる保存・活用のための費用の捻出方法といえる。

#### <方策イメージ>

- ふるさと納税制度を活用した保存・活用のための資金の捻出
- 使途を明確化した保存・活用のための費用負担の協力要請

#### <取組事例>

- クラウドファンディングを活用した近代化産業遺産の保存・活用のための費用の獲得（大牟田市）
- 世界遺産の保全等に充てることを目的とした軍艦島への上陸料の設定（長崎市）
- 維持修繕のための費用に充てることを明確化した上での見学料の値上げ（富岡市）

### ④観光だけに留まらない活用

産業観光資源を観光だけに活用するのではなく、それを核にして異なるまちづくりの分野にも活用の輪を広げていくことも重要な視点である。日南市の赤レンガ館は、観光資源としての活用に留まらず、赤レンガ館を企業誘致や起業支援、移住促進などにも活用するまちづくり全般に関わる貴重な資源として活用している。

用途の考え方を広げることによって、観光だけに留まっていた時には集まることのなかったヒト、モノ、カネ（使える支援制度も広がる）などが集まるようになり、活用の輪を広げることができる。

#### <方策イメージ>

- 観光振興目的以外の政策的な支援（創業支援、移住促進など）の活用

#### <取組事例>

- 「赤レンガ館」の単体での保存と活用（コワーキング）から、まちづくり（企業誘致、起業支援、移住促進など）へ組織横断的に活用を展開（日南市）

### （５）持続可能な運営

これまでに述べてきた方策は必ずしも特効薬となるようなものとは限らない。産業観光自体は徐々に理解が広まってきたとはいえ、いわゆるメジャーな観光とは異なることから2015年の世界遺産登録といった事象をうまく活用して広めていく好機とすべきである。その意味では、地道な取組であっても、そこで小さな効果・実績を積み上げていくことで内外からの評価を高めていくことがカギになる。

こうした一連の取組を模式化したものが下図である。供給サイドから見た場合には、産業観光の活性化を図ることで、実績ができ、外部からの評価が高まり、それを支える住民の意識（シビックプライド）が向上、それにより産業観光にかかる投資（保全も含め）が拡大し、それが産業観光のさらなる活性化につながるというものである。一方、需要サイドからの視点では、産業観光に対するニーズを明らかにすることで、顧客満足度の高いメニューを開発し、産業観光の活性化を図っていくという流れが描ける。

これまで述べてきた内容と重なる部分もあるが、魅力の磨き上げや感動を与える仕組み、周辺の観光資源との組み合わせによる魅力向上、シビックプライドの醸成による地域のおもてなしの強化、顧客ニーズや満足度の把握などを通じ、産業観光をめぐる好循環の構築による稼げる産業観光のモデルを確立し、地域活性化を図ることが求められる。

#### <方策イメージ>

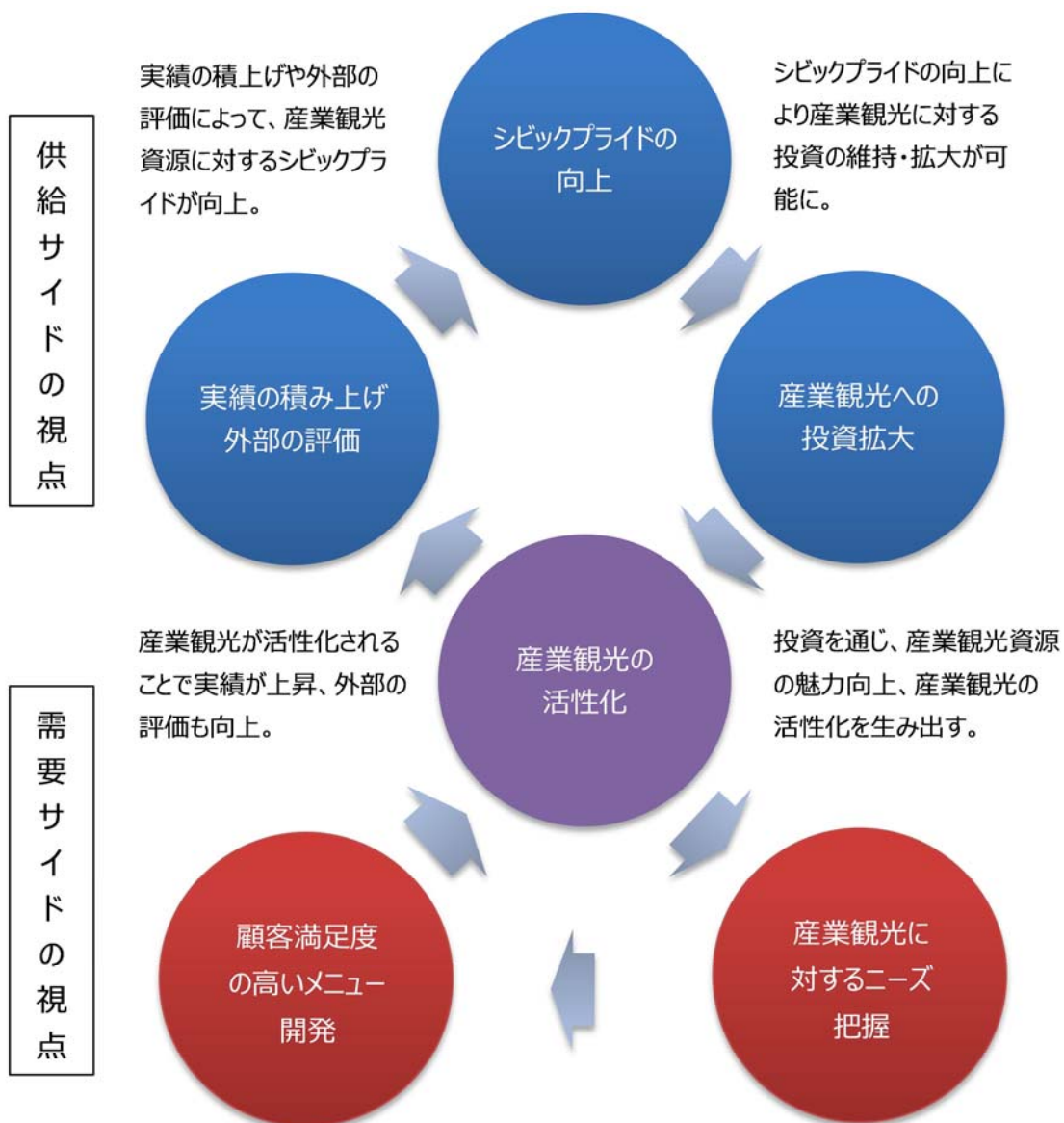
- 地域資源を活かした新商品開発支援策の活用
- 異業種連携による商品化支援策の活用
- 観光関連サービス従事者（ボランティアガイド等も含む）が、おもてなしのスキルを高めたり、地域を誇ることができるようになるような人材育成の支援
- 産業観光のニーズを把握するためのマーケティング調査の実施

#### <取組事例>

- 市・商工会議所・観光協会の三者が連携して産業観光にかかるワンストップ体制を明確化し、観光客にもわかりやすい体制を確保（北九州市）

- 自らを観光地として位置づけていなかった関係者の意識の変化に伴うさらなる地域資源の発掘や再認識といった好循環（久留米市）
- 外国人も含めた多くの観光客に接することで意欲の向上が進み、ボランティア人材が自発的に英会話学習に取り組む（人吉市ほか）
- 動態保存による収入が運営主体の経営に貢献、大型補修の費用は価値を認めた行政による負担による事業運営（安中市）
- 着地型観光の造成やレストラン・売店の経営など小さな経営改善の取組の積み重ね（新居浜市）

産業観光をめぐる好循環構築のイメージ





# 參考資料



# 近代化産業遺産の保存・活用に関するアンケート

経済産業省 九州経済産業局 流通・サービス産業課  
 (調査実施機関：公益財団法人 九州経済調査協会)

近代化産業遺産の名称 (宛名記載の名称をご記入ください)		
ご回答者について	企業・団体名	
	所属・役職	
	氏名	
	電話番号	

## 1. 近代化産業遺産（以下、対象施設と記載）の現状についてお尋ねします

問 1. 対象施設の管理者は次のうちどれに当てはまりますか (○は1つ)

1. 行政	2. 公的団体	3. 民間企業	4. 民間団体	5. 個人
-------	---------	---------	---------	-------

問 2. 対象施設の現在の稼働状況はどのようになっていますか (○は1つ)

1. 稼働中	2. 非稼働	3. 稼働中と非稼働が混在
4. 他の用途 (店舗・資料館・工房 等) に転用されている		

問 3. 対象施設の現在の保存状況は次のうちどれに最も近いですか (○は1つ)

1. 良好である	2. 多少問題はあるが概ね良好である
3. 修繕しないと保存が困難な状態である	4. 一部が壊れかけている
5. 多くの部分が壊れている、跡地である	
6. 復元されたものである	

問 4. 対象施設は文化財指定・登録等を受けていますか (○は1つ)

1. 受けている	2. 受けていない
----------	-----------

## 2. 近代化産業遺産の認定資産や当時整理したストーリーの活用状況についてお尋ねします

問 5. 対象施設に対する「経済産業省による近代化産業遺産の認定」(平成 19・20 年度)以降、見学者や問い合わせなどは、どのように変化しましたか。(○は1つ)

1. 大幅に増えた	2. 増えた	3. 変わらない	4. 減った
-----------	--------	----------	--------

問 6. 「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録をめぐる一連の動き (平成 25~27 年にかけて) によって、対象施設への見学者や問い合わせなどは、どのように変化しましたか。(○は1つ)

1. 大幅に増えた	2. 増えた	3. 変わらない	4. 減った
-----------	--------	----------	--------

問 7: 認定資産やストーリーを活用した取組を実施していますか (○は1つ)

1. 実施している → 問 8 へ	2. 実施していない → 問 7-1 へ
-------------------	----------------------



問 13-2. ガイドは予約制ですか (○は1つ)

1. 事前予約制	2. 時間指定制
3. 事前予約制・時間指定制併用	4. 予約不要 (随時受付)

問 14. 対象施設におけるガイド運営上の課題は何ですか (当てはまるものすべてに○)

1. ガイド可能な人材自体がない	2. ガイド運営を続けるための資金がない
3. ガイドの品質を確保できない	4. ガイドを教育するノウハウがない
5. 繁閑差が大きく、人繰りが難しい	6. 見学者数にガイド数が追いつかない
7. その他 ( )	

問 15. ガイドの概要・特徴、運営上の工夫をご記入ください (例：地元小学生によるボランティアガイド)

--

問 16. 対象施設における観光客の受入に関して、以下の項目に対応していますか。対応している項目・言語すべてに○をつけてください。外国語については対応している言語名を記入してください。

	日本語	外国語	対応している言語をご記入ください
1. ホームページの開設			
2. 説明用看板やパンフレット類の整備			
3. ガイドやテープ等による音声案内			
4. Free Wi-Fi の整備			
5. アプリ等を活用した情報提供			

問 17. 経済産業省による近代化産業遺産の認定 (平成 19・20 年度) や「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録をめぐる一連の動きを受けて、管理者以外も含め、対象施設や周囲の環境整備などを行いましたか。(それぞれについて、あてはまる項目すべてに○)

	近代化産業遺産認定	世界遺産登録
1. インフォメーションセンターのような機能を設けた		
2. 周囲にトイレや休憩所、売店などを整備・拡充した		
3. ガイドによる案内を開始・拡充した		
4. 対象施設の説明を記載した看板やパンフレット、HP 等を整備した		
5. 対象施設そのものの美化・補修を行った		
6. 対象施設の周囲の美化・補修を行った		
7. 駐車場や道路、バスの運行などアクセス環境を整備した		
8. PR 活動を強化した		
9. 対象施設や地域資源を活用した名物料理、土産品を開発・強化した		
10. 対象施設や地域資源を活用した体験メニューを開発・強化した		
11. その他 ( )		
12. 何もしていない		

問 18. 対象施設の保存・活用に当たっての課題は何ですか（当てはまるものすべてに○）

1. 維持・補修のための費用不足	2. 活用にかかる活動の費用不足
3. 活用にかかる人材不足	4. 活用のためのノウハウの不足
5. 関係機関の協力態勢の不備	6. 本来業務への悪影響の懸念
7. 対象施設の維持が物理的に困難	8. その他（ ）

#### 4. 対象施設への来場・集客についてお尋ねします

問 19. 対象施設の来場者数を教えてください。

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
人	人	人	人	人

※来場者数をカウントしていない場合は「未集計」と記入してください。

問 20. 対象施設の来場による効果・影響は何ですか（当てはまるものすべてに○）

1. 地域の観光消費が拡大した	2. 本業のイメージアップや売上の上昇
3. 関係機関との連携が深まった	4. 住民の誇り・意識向上につながった
5. 混雑・受入態勢に伴う問題が生じた	6. その他（ ）

問 21. 対象施設の公開・集客にあたり、市町村の枠を越えて、他の近代化産業遺産や観光資源（温泉地、名所・旧跡など）と連携した PR 活動や観光ルートの形成などを行っていますか。具体的な連携先と連携内容・実績を教えてください。

連携している遺産や資源	連携内容・実績
(例) ○×温泉協会	共同で大都市圏でのセールスを行い、年間○○人の来場者増

#### 5. 今後の見通しや課題についてお尋ねします

問 22. 対象施設を観光資源として活用することについて次のうちどれに最も近いですか（○は1つ）

1. 活用を強化する・着手する	2. 活用度は現状を維持させる
3. 観光資源としての活用は減速させる	4. 今後も活用は行わない

問 23. 対象施設の活用、他の観光資源との連携、政策的な支援などについて、課題やご意見がありましたら自由にご記入ください。

ご回答ありがとうございました。ご回答いただいた内容について、ヒアリングをお願いすることがあるかもしれませんが、その際にご協力をお願いします。

1月25日（月）までに投函してください（切手は不要です）

# 九州の産業観光資源一覧

以下に示す九州の産業観光資源は、日本観光振興協会九州支部「産業観光」ホームページ、日本観光振興協会「全国産業観光ガイド」ホームページ、各県・観光協会の産業観光資源に関するホームページ、リクルート「じゃらん産業観光」ホームページなどに公開されている情報をもとに、施設名称や営業時間等の情報を可能な限りまとめたものである。

各観光産業資源の受け入れ状況については、上記の情報源に掲載された時と異なる場合があるので、最新の情報については、各自治体や観光協会、施設に照会されたい。

日本観光振興協会九州支部「産業観光」



<http://www.kanko-kyushu.com/industrial/index.html>  
各県・観光協会の産業観光資源（鹿児島島の例）

日本観光振興協会「全国産業観光ガイド」



<http://sangyou.nihon-kankou.or.jp/>  
じゃらん「産業観光」



<http://www.kagoshima-kankou.com/houjin/industrial/>



[http://www.jalan.net/kankou/g2\\_53/](http://www.jalan.net/kankou/g2_53/)

また、自治体により掲載している産業観光資源の情報の多寡に差があり、以下にあげた産業観光資源の他にも産業観光資源が存在することについても留意されたい。

	資源名称	所在地	TEL
福岡県	トヨタ自動車九州(株)宮田工場	宮若市上有木1番地	0949-34-2400
	(株)安川電機 ロボット工場	北九州市八幡西区黒崎城石2-1	093-645-7705
	ロボスクエア	福岡市早良区百道浜2-3-2 TNC放送会館2F	092-821-4100
	東陶機器(株)小倉第1工場	北九州市小倉北区中島2-1-1	093-951-2053
	アサヒビール博多工場	福岡市博多区竹下3-1-1	092-431-2701
	昭和アルミニウム缶(株)大牟田工場	大牟田市岬町1-16	0944-41-2111
	直方市石炭記念館	直方市直方御館山692-4	0949-25-2243
	麒麟ビール(株)福岡工場	朝倉市馬田3601	0946-23-2132
	須恵町立歴史民俗資料館	糟屋郡須恵町大字上須恵21-3	092-932-6312
	芦屋釜の里	遠賀郡芦屋町大字山鹿1558番地3	093-223-5881
	石炭記念館	宮若市上大隈573番地	0949-32-0404
	紅乙女酒造	久留米市田主丸町田主丸732	0943-72-3939
	株式会社巨峰ワイン	久留米市田主丸町益生田246-1	0943-72-2382
	うきは市立浮羽歴史民俗資料館	うきは市朝田560-1	0943-77-6287
	日産自動車九州(株)	京都郡苅田町新浜町1番地3	093-435-1137
	JR博多シティ	福岡市博多区博多駅中央街1番1号(博多駅直結)	092-431-8484
	道の駅いとだ おじゅごんち市場からすお	田川郡糸田町162番地4	0947-26-2115
	恋ぼたる 温泉館	筑後市大字尾島298-2	0942-52-8866
	恋ぼたる物産館	筑後市大字尾島310	0942-52-8188
	新日鐵住金(株)八幡製鉄所	北九州市戸畑区飛幡町1-1	093-872-6105
	U-ZONE(大川家具工業団地協同組合)	大川市大字中古賀1048-1	0944-87-5151
	立花ワイン株式会社	八女市立花町兼松726	0943-37-1081
	ふるさとわらべ館	八女市上陽町下横山4838	0943-54-2442
	芦屋歴史の里	遠賀郡芦屋町大字山鹿1200番地	093-222-2555
	つきほし歴史館	久留米市白山町60 株式会社ムーンスター 本社敷地内	0942-30-1111
	オーム乳業(株)	大牟田市新勝立町1-38-1	0944-52-8282
	さわやか市「大平」	築上郡上毛町下唐原1621番地	0979-72-3945
	立花パンブー株式会社	八女市立花町兼松752-1	0943-37-1676
	久留米市城島総合文化センター	久留米市城島町檜津1-1	0942-62-2110
	古賀市コスモス館	古賀市青柳658-1	
	インテリア館エルバーレ	大川市大字大橋266	0944-87-3539
	松谷海苔(株)九州工場	大牟田市新勝立町1-38-3	0944-53-3080
ヤヨイ食品(株)	大牟田市宮山町2-11	0944-57-8419	
日本コークス工業(株)三池事業所	大牟田市新港町1	0944-57-3105	



費用	予約等について	営業時間	休日
無料	要事前予約(見学希望日の3ヶ月前の同日～1週間前まで) ※PR館の見学は予約不要	月～金曜日の平日・祝日※時間は直接お問い合わせ下さい。	土・日・年末年始・GW・夏期連休
無料	事前予約必要(3ヶ月～14日前まで)	9:00～12:00、13:00～17:00	土・日・祝祭日・夏期休暇
無料	事前予約不要(団体は要予約)	9:30～18:00	第2水曜(祝祭日の場合は翌木曜)※但し、1、7、8、12月は開館12/31～1/2
	2ヶ月～14日前までに予約(中学生以上5～40名)	月火水木 曜日 9:00～12:00、13:00～16:00	
無料	要予約	9:30～15:00(昼休みあり、土・日はモニターのみ)	年末年始
無料		9:00～12:00、13:00～17:00	土・日・祝日・年末年始
有料		9:00～17:00	月曜日、第3日曜日、祝日
無料			月曜日
無料		10:00～17:00 但し入館は16:30まで	月火水 曜日 祝日は開館 盆(8/1～8/15)、年末年始(12/25～1/10)は休館
有料		9:00～17:00	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始
無料		9:00～17:00	月曜日、祝日、木曜日の午後、年末年始 ※月曜日が祝日の場合は翌日。
無料		9:00～17:00	12月30日～1月3日
無料		9:00～17:00	12月30日～1月4日
無料			月曜日・年末年始
	要予約	月火水木金 曜日 9:00～15:15	
		9:00～18:00	元旦、1月2日
有料		10:00～21:00 受付は、20:30まで	
		月火水木金 9:30～11:30、13:30～15:30	土・日・祝日・年末年始、11月18日(創立記念日)
無料	工場見学は要予約	8:00～17:00	日、第2、4土曜
無料		9:00～17:00	第2,4火曜日
有料		9:00～18:00	
有料		9:00～17:00	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始
無料		10:00～17:00	12:00～12:45は昼休みのため閉館、8月13日～8月15日(盆)、12月30日～1月3日(年末年始)
無料		9:30～17:00	日・年末年始
		9:00～22:00	毎週月曜日、祝日及び休日(その日が月曜日から木曜日にあたる時に限る)の翌日【12月28日から翌年1月4日まで】
無料		8:30～17:30 月～土、10:00～17:00 日祝	GW・お盆・年末年始
無料		10:00～15:00	土・日・祝日・年末年始
無料		10:00～15:00	土・日・祝日・年末年始
無料		9:00～15:30	日・祝日・年末年始

	資源名称	所在地	TEL
佐賀県	味の素(株)九州事業所	佐賀市諸富町大字諸富津450	0120-47-4963
	肥前夢街道	嬉野市嬉野町大字下野甲716-1	0954-43-1990
	志田焼の里博物館	嬉野市塩田町久間乙3073	0954-66-4640
	鏡山窯	唐津市鏡4958	0955-77-2131
	ふるさと会館アルピノ	唐津市新興町2881番地1	0955-73-4888
	有田ポーセリングパーク	西松浦郡有田町中部乙370?2	0955-41-0030
	丸兄商社	西松浦郡有田町中樽1-4-28	0955-42-3052
	みかんオーナー園	小城市牛津町上砥川2256-19	0952-63-8820
	岳信太郎棚田会	西松浦郡有田町山谷(岳)	0955-46-2246
	伊万里・有田焼伝統産業会館	伊万里市大川内町丙221-2	0955-22-6333
	幸姫酒造	鹿島市古枝甲599	0954-63-3708
	観光潮干狩り	佐賀県佐賀市川副町地先の有明海	0952-20-2200
	村岡総本舗羊羹資料館	小城市小城町861	0952-72-2131
	玄海エネルギーパーク	東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112-1	0955-52-6409
	体験工房 ろくろ座	西松浦郡有田町泉山1-30-1	0955-41-1302
	柿右衛門古陶磁参考館	西松浦郡有田町南山丁352	0955-43-2267
	道の駅太良「たらふく館」	藤津郡太良町大字伊福甲3488-2	0954-67-9117
	ほたるの郷	小城市小城町岩蔵81-8	0952-72-5114
	観光酒蔵肥前屋	鹿島市浜町乙2761-2	0954-63-2468
	JA大型製茶工場	嬉野市下野	0954-20-2377
佐藤食品工業(株)佐賀工場	杵島郡江北町浪花町	0952-86-3700	
やきもの窯元・商社	西松浦郡有田町全域	0955-42-3164	
独立支援工房 赤絵座	西松浦郡有田町赤絵町1-2-18	0955-41-1310	
伝統文化の交流プラザ 有田館	西松浦郡有田町幸平1-1-1 MAP	0955-41-1300	

	資源名称	所在地	TEL
長崎県	端島軍艦島周遊クルーズ	長崎市高島町端島	095-822-5002
	池島炭鉱体験	長崎市池島町1411-1	
	三菱重工業(株)長崎造船所史料館	長崎市飽の浦町1番1号	095-828-4134
	ハウステンボス(バックヤード見学)	佐世保市ハウステンボス町1-1	0956-27-0012
	上五島国家石油備蓄基地	南松浦郡新上五島町続浜ノ浦郷(折島)	0959-52-8800
	松浦火力発電所	松浦市志佐町白浜免458-1	0956-72-1201
	松浦発電所	松浦市志佐町白浜免2091-1	0956-72-1241
	エコヴィレッジ さいかい元気村	西海市西海町 中浦南郷	080-6423-7029
	福島町歴史民俗資料館	松浦市福島町塩浜免2993番地88	0955-47-2006
	船崎うどん伝承館	南松浦郡新上五島町船崎郷496	0959-42-0964
	陶芸の館	東彼杵郡波佐見町井石郷2255-2	0956-85-2290
	長崎県窯業技術センター	東彼杵郡波佐見町稗木場郷605-2	0956-85-3140
	中尾郷交流館	東彼杵郡波佐見町中尾郷157	0956-85-2273
	中尾山伝習館	東彼杵郡波佐見町中尾郷332 MAP	0956-85-6127
	松浦火力発電所	松浦市志佐町白浜免458-1	0956-72-1201
	松浦魚市場	松浦市調川町下免695	0956-72-0147

費用	予約等について	営業時間	休日
	予約必要(1~25人までのグループで5日前まで) 25名以上の団体は、問合わせ必要。		
有料			
有料			
有料	予約必要		
有料			
有料			
有料	【予約】4~6月に小城市役所農林水産課で申込		
		【営業日・時間】5~11月(農作業期間)	
無料		9:00~17:00	年末・年始
有料	電話予約	4月~5月の2ヶ月間	
無料	電話予約	8:00~17:00	年中無休
無料		9:00~17:00	休館毎月第3月曜(祝祭日の場合はその翌日)・12月29日~1月2日
有料		10:00~16:00 申込み時間9:00~15:00	木曜日(祝日の場合はその翌日)・12/29~1/3
無料		9:00~17:00	年末年始
		9:00~18:00	
	要予約	公開:4月下旬~8月上旬 13:00~16:00	
有料		9:30~17:00	不定休
有料		9:30~17:00	年末年始

費用	予約等について	営業時間	休日
有料	要予約(15名以上で運航)	見学9:30 発、13:30発	
有料	3日前までに予約必要	午前の部 10:45 池島港集合 午後の部 14:15 池島港集合	年末年始及び水曜日、その他点検日
有料	要電話予約(10名未満は予約不要)	9:00 ~ 16:30	毎月第2土曜、2015年12月29日~2016年1月4日
有料	要電話予約	9:00~21:30 12/26~2月は20:30まで(見学は9:00~17:00)	
無料	見学希望5日前までに電話にてお申し込み	9:30~12:00、13:00~16:00	土・日・祝日等
無料		9:00~17:00	無休
無料		9:00~17:30	無休
有料			
無料		10:00~17:00	月曜日、祝日、12月29日~1月2日
有料	10日前までの要予約		
		9:00~17:00	元旦
有料	予約優先	10:00 ~ 17:00	火曜日定休、年末年始定休、お盆定休
無料		9:00~17:00	無休
無料			

	資源名称	所在地	TEL
熊本県	万田坑ステーション	荒尾市原万田200番地2	0968-57-9155
	フードパル熊本	熊本市北区貢町581-2	096-245-5630
	球磨焼酎ミュージアム 白岳伝承蔵	人吉市合ノ原町461-7	0966-32-9750
	九州相良蔵めぐり	人吉市内に点在	0966-22-2111
	三角西港公園	宇城市三角町西港	0964-53-0010
	織月城見蔵	熊本県人吉市新町1番地	0966-22-3207
	アートキャンディ熊本工場	熊本県阿蘇郡西原村鳥子工業団地内	096-279-2828
	サントリー九州熊本工場	上益城郡嘉島町大字北甘木八幡水478	096-237-3860
	アクトビーリサイクリング(株)	熊本県水俣市塩浜町278番6	0966-62-3300
	みそ・しょうゆ蔵(釜田醸造所)	人吉市鍛冶屋町16	0966-22-3164
	東肥大正蔵	熊本市南区川尻1-3-72	096-311-6275
	宮原工芸(伝承蔵)	熊本県人吉市中林町512-2	
	白岳酒造研究所	人吉市井の口町792-7	0966-22-2155
	通潤酒蔵	上益城郡山都町浜町54	0120-72-1178
	松の泉酒造	球磨郡あさぎり町上北169番地1	0966-45-1118
	泗水窯・泗水直子窯	菊池市泗水町吉富2664-5	0968-38-2095
	萩尾園	宇城市松橋町萩尾146-3	
	丸尾焼	天草市北原町3-10	
	三郎窯	熊本市東区月出1丁目2-88	096-385-1727
	鯛窯	上益城郡御船町田代8405-375	
	木の葉猿窯元	玉名郡玉東町木葉60	
	小代本谷ちひろ窯	荒尾市川登2131-74	0968-68-6459
	陶丘工房	天草市五和町御領7005-1	
	陶祥窯	球磨郡錦町大字木上新立	0966-38-4419
	小代焼 太郎窯	荒尾市平山2560-17	0968-68-4817
	天草焼 小田床窯	天草市天草町下田南3000-2	
	小袋焼 末安窯	荒尾市府本1712-2	0968-68-0058
	小代瑞穂窯	荒尾市上平山914	0968-66-2380
	黒石窯	合志市野々島5523	
	蒼土窯	宇土市下網田町380	
	小袋焼 しろ平窯	荒尾市大島25-3	0968-62-0538
	小代焼 中平窯	荒尾市樺1192	0968-68-7326
	小代焼 ふもと窯	荒尾市府本字古畑	0968-68-0456
高田焼上野窯	八代市日奈久東町174	0965-38-0416	
内田皿山焼窯元	天草郡苓北町内田554-1	0969-35-0222	
小代焼 一先窯	玉名郡長洲町永塩1612-3	0968-78-5631	
円満寺窯	菊池郡大津町真木241-1	096-293-0203	
きくか昇典窯	山鹿市菊鹿町下内田733	0968-48-3050	
南風窯	上益城郡甲佐町大字上早川1551-2	096-234-4461	

費用	予約等について	営業時間	休日
有料		9:30～17:00	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日
無料		10:00～17:00(季節・施設により異なる)	1月1日
無料		9:00～16:00(15:30受付締切)	
有料		伝承蔵9:00～17:00(年中無休) みそ・しょうゆ蔵9:00～16:00(年中無休・年末年始休) 武家蔵9:00～17:00(第二土曜休) 御用蔵11:00～21:00(年中無休・年末年始休) 焼酎蔵8:30～16:30(年中無休) お茶蔵9:00～17:00(年中無休)	
無料	工場見学(無料)	9:00～17:00(最終入場16:30)	年中無休(ただし、臨時休業あり)
無料	要予約	10:30～17:00	
	(電話受付9:30～17:00)	10:00～16:00	年中無休(但し、年末年始休有り)
有料		9:00～16:00	土日祝
無料	10名以上は事前予約必要	9:00～16:00	12月28日～1月3日(年末・年始休)
無料		火～日 10時～17時	
		9:00～17:00	年中無休
無料		9:00～16:00	土日祝、盆、年末年始
無料	要予約	9:00～17:00	盆、年末年始
無料	10名様以上要予約	【蔵見学】9:00～16:00	年中無休(但し、売店は1月1日、2日、食事処は12月28日～1月4日まで休み)
		(陶芸教室)火曜日(9:00～12:00)木曜日(9:00～12:00・13:00～18:00)	
有料		チェックイン/16:30 チェックアウト/16:00	
有料	要予約	10:00～18:30	
有料	要予約	10:00～18:00	毎週火曜日 12/27～1/3
			年中無休
		10:00～18:00	
有料	要予約	10:00～18:00	不定休
		8:00～18:00	
		8:00～17:00	不定休
		9:00～18:00	
		10:00～17:00	
			無休
		(平日)9:00～17:00 (休日)9:00～17:00	
		9:00～20:00	
		9:00～18:00	
		9:00～18:00	
		9:00～18:00	
有料	要予約	8:00～17:00、日、祝日は9:30～17:00	
			不定休
			無休
有料		9:00～17:00	毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

	資源名称	所在地	TEL
熊本県	高浜焼寿芳窯	天草市天草町高浜南2598	0969-42-1114
	窯元 天(SORA)	阿蘇郡西原村小森2077	096-279-3959
	新聞博物館	熊本市中央区世安町172	096-361-3071
	千代の園酒造資料館	山鹿市山鹿1782	0968-43-2161
	小黒三郎組木館ズートピア	阿蘇郡小国町北里	0967-46-3387
	らくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場	阿蘇郡西原村大字河原3944-1	096-292-2100
	サントリー酒類(株)九州熊本工場	上益城郡嘉島町北甘木八幡水478	096-237-3860
	あさぎり町ふれあい物産館	球磨郡あさぎり町上北1972-1	0966-47-0890
	天日古代塩ソルト・ファーム	天草市五和町二江650	0969-33-1834
	九州電力(株)苓北発電所	天草郡苓北町年柄	0969-35-2131
	ふるさとセンターY・BOX	玉名市大字横島1716番地 MAP	0968-84-3700
	荒尾市観光物産館	荒尾市緑ヶ丘1-1-2	0968-66-0939
	八代よかこ物産館	八代市上日置町4459-1	0965-32-3600
	天草白磁陶房泰	天草市天草町高浜南493-11 MAP	0969-42-0545
	息峠窯	天草市五和町御領息峠10826	0969-32-1525
	完全天日塩製塩所	天草市五和町二江106	0969-33-0610
	ヤマハ天草製造(株)	上天草市姫戸町二間戸5995	0969-58-2121
	17水上村あめんぼ一館	球磨郡水上村大字湯山126-1	0966-49-6011
	白糸の滝交流館「糸舞季」	阿蘇郡西原村河原3460	096-279-1136
	乳製品加工センター	阿蘇郡小国町宮原2300	0967-46-4525
	みすみフィッシャーマンズワーフ「ラ・ガール」	宇城市三角町三角浦 東港(三角駅前)	0964-53-2666
	白州ヘルス飲料株式会社 熊本工場(コカコーラ製品の見学)	熊本市南区南高江3-5-1	096-311-3911
天草西海岸春の陶器市	苓北町・天草市天草町の9窯元(9会場)	0969-35-1111	
火の国長洲金魚まつり	玉名郡長洲町長洲3150 金魚と鯉の郷広場	0968-78-3219	

費用	予約等について	営業時間	休日
		9:00～16:30	盆、年末年始
		10:00～日没	不定休
無料		9:30～16:30	日曜日・祝日・12月26日～1月5日
無料		日月火水木金土 曜日 9:00～16:00	年末年始・土曜休業の場合あり
有料	電話確認必要	10:00～16:00	不定休
有料		10:00～17:00 季節により変動あり	木 曜日 季節により変動あり 夏休み～11月無休
		9:00～18:00	月 曜日 第2・4月曜日(祝祭日の場合は翌日)
無料	体験は有料、要予約	9:00～17:00	なし
無料		9:00～16:00	日 曜日
		開館時間:日月水木金土 10:00～18:00 研修室 10:00～21:00	火 祝日にあたる場合は翌日 年末年始
		8:00～19:00 物産館、10:00～19:00 レストラン	毎月第2木曜日 1月1日
	要連絡	9:00～17:00	未定
	電話確認必要	10:00～17:00	未定
無料		8:30～17:30	なし
無料		会社の営業日	
有料		9:00～17:00	
有料		5月上旬～10月下旬 10:00～17:00	不定休 11月～4月閉館
無料		9:00～17:00(土曜日のみ12:00)	日曜日・祝日・12月29日～1月5日
無料		8:00～18:00 日曜のみ	第2・4火曜日
	要予約	見学:火木 案内日 10:00～14:00～	
		5月上旬(ゴールデンウィーク期間)午前8時30分から午後5時00分	
		5月3日～4日(二日間開催予定)	

	資源名称	所在地	TEL
大分県	原次郎左衛門味噌醤油蔵	日田市中本町5-4	0973-23-4145
	サッポロビール九州日田工場	日田市大字高瀬6979	0973-25-1111
	フンドーキンドレッシング工場	臼杵市井村	0972-63-2111
	大分醤油協業組合	臼杵市大字望月1500	0972-63-2111
	神の里交流センター「緒環」	竹田市大字神原1931	0974-67-2288
	九州自動車歴史館	由布市湯布院町川上	0977-84-3909
	八丁原地熱発電所	玖珠郡九重町大字湯坪八丁原601	0973-79-2853
	八鹿酒造株式会社	玖珠郡九重町大字右田3364	0973-76-2888
	安心院町民俗資料館	大分県宇佐市下毛	0978-44-1955
	安心院葡萄酒工房	宇佐市大字茅場(家族旅行村内)	0978-34-2210
	リキュール工房うしゅく	日田市大字西大山字辻の台4587 豊後・大山ひびきの郷	0973-52-3000
	体験工房こころみ	日田市大山町西大山4587番地 豊後・大山ひびきの郷	0973-52-3000
	道の駅「せせらぎ郷かみつえ」	日田市大字川原3848-1	0973-54-3514
	一村一品物産店「津江んもん」	日田市上津江町川原3812-1	0973-54-3013
	JAフーズおおいだ	杵築市本庄1453-1	0978-62-6500
	二豊醤油協業組合	臼杵市大字大野160番外	0972-63-3221
	二豊味噌協業組合	臼杵市大字末広字黒丸160	0972-63-3609
	東陶機器(株)中津工場	中津市是則700	0979-32-1111
	ダイハツ九州(株)工場見学	中津市大字昭和新田1	0979-33-1229
	TOTOアクアテクノ(株)大分工場	大分市屋山300	097-592-1616
九州電力新大分発電所	大分市大字青崎4番1	097-521-6033	
新日鐵住金(株)大分製鐵所	大分市西ノ洲番地	097-553-2986	

	資源名称	所在地	TEL
宮崎県	神楽酒造(株)トンネルの駅	西臼杵郡高千穂町岩戸144-1	0982-73-4050
	霧島酒造(株)志比田増設工場「霧島ファクトリーガーデン」	都城市志比田町5480番地	0986-21-8111
	雲海酒造(株)綾・手造り蔵	東諸県郡綾町大字南俣字豆新開1795番1	0985-77-3535
	蔵元 綾 酒泉の杜	東諸県郡綾町大字南俣1800-19	0985-77-2222
	高千穂牧場	都城市吉之元町5265-103	0986-33-2102
	グリーンパークえびの	えびの市大字東川北1321-1	0984-25-4211
	綾 国際クラフトの城	東諸県郡綾町大字北俣1012	0985-77-1223
	体験型ミニブルワリー 焼酎道場	日南市北郷町郷之原甲888	0987-55-4134
都城圏域地場産業振興センター	都城市都北町5225-1	0986-38-4561	



費用	予約等について	営業時間	休日
無料		9:00～17:45 工場見学は16:30で受付終了、17:00迄	1月1日～1月5日 ※8月14～16日は店舗のみの営業。
有料 (小学生以下無料)		10:00～16:00 土・日・祝日は9:00～16:00	12月1日～4月30日 水曜日 年末・年始及び特別休館日
	要予約	月～金曜日の平日9:30～11:00 /13:30～15:00	
無料	要予約	9:00～15:00	土日祝日・年末年始
有料		9:00～17:45	無休
無料		9:00～17:00	年末年始
無料			
無料		8:30～17:00	年中無休
		9:00～17:00	
	要予約	10:00～17:00	
		9:00～19:00	年中無休
		9:00～17:00	木
無料		8:30～17:00	土・日・祝日
無料	見学希望日の2週間前までに予約	9:00～12:00、13:30～15:00	土日・祝日・年末年始
無料			
無料	団体は要確認	月火水木金 9:00～12:00、13:15～16:00	
無料	電話予約	月～金 8:30～10:00・9:15～10:45・11:00～12:30・13:30～15:00	工場の休日および工場内整備の日
無料		9:00～17:00	土日・祝日・年末年始
無料		10:00～17:30	土・日、祝日・年末年始
		9:00～16:30	

費用	予約等について	営業時間	休日
無料	予約不要	9:00～18:00	無休
無料	事前予約必要(受付時間 9:00～17:00)	1日2回 11:00～、13:30～	
無料	要予約(0985-77-3737)	9:30～16:30	
無料	要予約		
有料	体験プログラムは一週間前までに予約必要	4月1日～10月31日 10:30～18:00、11月1日～3月31日 10:30～17:00	
有料		4月～9月 9:00～17:30、10月～3月 9:00～17:00	無休
無料		開館時間:月火水木金 10:00～16:00	休館:日土 祝日休 ただし見学は可能
		9:00～17:00	

	資源名称	所在地	TEL
鹿 児 島 県	寺山炭窯跡	鹿児島市吉野町10710-68	099-227-1962
	関吉の疎水溝	鹿児島市下田町1263	099-227-1962
	旧集成館(旧集成館機械工場)	鹿児島市吉野町9698-1	099-247-1511
	旧集成館「旧鹿児島紡績所技師館」(異人館)	鹿児島市吉野町磯9685-15	099-247-3401
	旧集成館「反射炉跡」	鹿児島市吉野町9700-1	099-247-1511
	曾木発電所跡	伊佐市大口曾木	0995-22-1111
	厚地松山製鉄遺跡	南九州市知覧町厚地柵場	0993-83-4433
	新波止	鹿児島市本港新町	
	山ヶ野金山	霧島市横川町上ノ	0995-45-5111
	松野下蒲鉾	枕崎市桜山本町598番地	0993-72-2328
	(株)有村屋	鹿児島市南栄3-24-5	099-269-5711
	(株)立石食品・揚立屋	鹿児島市谷山港2-2-4	099-262-0211
	かごしま旅の駅 魔猿城	鹿児島市七ツ島1-5-1	099-297-6711
	月揚庵	鹿児島市谷山港3丁目4番17号	099-262-3666
	見学工場 薩摩庵	鹿児島市七ツ島1丁目1番22号	099-262-2020
	勤場蒲鉾店	いちき串木野市西薩町17-25	0996-33-3311
	(有)勤場蒲鉾店(シーフロントくしきの)	いちき串木野市西薩町17-25	0996-33-3311
	(株)高浜蒲鉾	いちき串木野市下名13301-1	0996-32-7160
	日高水産加工(有)	いちき串木野市西薩町17-14	0996-32-9421
	小鹿酒造(株)	鹿屋市吾平町上名7312	0994-58-7171
	屋久島伝承蔵	熊毛郡屋久島町安房2384	0997-46-2511
	薩摩郷中蔵・GALLERIA HOMBO	鹿児島市南栄3-27	099-822-7011
	杜氏の里 焼酎づくり伝承展示館	南さつま市笠沙町赤生木6762	0993-63-1002
	焼酎蔵 薩摩金山蔵	いちき串木野市下名13665	0996-21-2110
	日本初の焼酎資料館(田苑酒造)	薩摩川内市樋脇町塔之原11356番地1	0996-38-0345
	若潮酒造株式会社	志布志市志布志町安楽215	099-472-1185
	焼酎蔵薩洲濱田屋伝兵衛	いちき串木野市湊町4-1	0996-36-3131
	薩摩酒造「明治蔵」	枕崎市立神本町26	0993-72-7515
	天星酒造	曾於郡大崎町菱田1270	0994-77-0510
	無双蔵	鹿児島市七ツ島1丁目1番17	0120-606-069
	中村酒造	大島郡天城町平土野	0997-85-2016
	有村酒造	大島郡与論町茶花226-1	0997-97-2302
	上妻酒造	熊毛郡南種子町中之上2480	0997-26-0012
	奄美酒類(株)	大島郡徳之島町亀津1194	0997-82-0254
	奄美大島にしかわ酒造	大島郡徳之島町白井477-565	0997-82-1650
	新納酒造	大島郡知名町田皆2360	0997-93-5232
	高崎酒造	西之表市安納1861-2	0997-25-0707
	弥生焼酎醸造所	奄美市名瀬小浜町15-3	0997-52-1205
	奄美大島開運酒造	大島郡宇検村湯湾2924-2	0997-67-2753
	森伊蔵	垂水市牛根境1337	0994-36-2063
	八千代伝	垂水市新御堂鍋ヶ久保1322-5	0994-32-8282
	指宿蒸留蔵	指宿市西方4670	0993-27-9181
	錦灘酒造(株)(酒匠工房GEN)	霧島市溝辺町麓876-15	0995-58-2535
	国分酒造	霧島市国分川原1750	0995-47-2361
	霧島町蒸留所	霧島市霧島田口564-1	0995-57-0865

費用	予約等について	営業時間	休日
無料			
無料			
有料		8:30～17:30	年中無休
有料		8:30～17:30	年中無休
有料		(3/16～10/31)8:30～17:30、 (11/1～3/15)8:30～17:20	年中無休
無料			無休
無料			
無料	電話予約	9:00～17:00	年中無休
無料	要予約)工場体験:1ヶ月位前まで、工場見学:1週間前まで		
無料	個人のお客様:予約不要 団体のお客様:事前予約必要(およそ1ヶ月前まで)	9:00～16:00	
	電話予約		
無料			
無料			
無料			
無料	事前予約必要(1回の受入可能人数:40名～80名)		
無料	事前予約必要	4月～8月 9:00～16:30、9月～3月 13:00～16:30	土日祝
無料	6日前までに予約	10:00～15:30(最終受付 15:00)	土日祝
有料		9:00～17:00(展示館入館は16:30まで)	年中無休(※年末年始12/29～1/3除く)
無料	蔵坑道内の焼酎蔵見学は大人720円	10:00～17:00	毎週火曜
無料		9:00～16:00	土・日・祝日 及び 年末年始・お盆
無料		9:00～16:00	土・日・祝日
無料		9:00～17:00	水曜日
無料	来館日2日前までに予約	9:00～16:00	12月31日～1月1日
無料	電話予約	9:00～17:00	土日祝
無料		9:00～17:00	年中無休
無料		7:30～17:00	無休(11月～4月)
無料	予約必要		
無料	予約必要	9:00～17:00	日祝日
無料	予約必要 蔵の見学はできません		

	資源名称	所在地	TEL
鹿 児 島 県	木場酒造	曾於市末吉町諏訪方8881-2	0986-76-2383
	大島食糧酒造所	奄美市名瀬小浜町25-2	0997-52-0631
	朝日酒造	大島郡喜界町湾41-1	0997-65-1531
	喜界島酒造	大島郡喜界町赤連2711-1	0997-65-0251
	奄美大島酒造(株)	大島郡龍郷町瀬留1435	0997-62-3778
	オガタマ酒造株式会社	薩摩川内市永利町2088	0996-22-3675
	沖永良部酒造(株)	大島郡和泊町玉城花トリ1999-1	0997-92-0185
	黒糖焼酎 奄美	大島郡天城町平土野43-12	0997-85-2016
	権之助甕蔵	薩摩郡さつま町平川1427	0996-54-2507
	白金酒造(株)	始良市脇元1933	0995-65-2103
	雲海酒造(株)鹿児島工場	出水市上鯖淵532-1	0996-62-0043
	大久保酒造	曾於郡大崎町横瀬1252-2	099-476-3666
	神酒造(株)	出水市高尾野町大久保208	0996-82-0001
	佐藤酒造有限会社	霧島市牧園町宿窪田2063	0995-76-0018
	白露焼酎工場	指宿市山川大山	0993-35-2000
	新平酒造	曾於郡大崎町横瀬2366番地	099-476-0024
	軸屋酒造(株)	薩摩郡さつま町平川1427	0996-54-2507
	大海酒造協業組合	鹿屋市白崎町21-1	0994-44-2190
	種子島酒造	西之表市西之表13589-3	0997-22-0265
	津貫貴匠蔵	南さつま市加世田津貫6594 本坊酒造株式会社津貫工場内	0993-55-2001
	日当山醸造	霧島市隼人町西光寺649	0995-42-0315
	八千代伝酒造株式会社 猿ヶ城溪谷蒸留所	垂水市新御堂鍋ヶ久保1322-5	0994-32-0024
	山元酒造	薩摩川内市五代町2725	0996-25-2424
	薩摩酒造 花渡川ビアハウス	枕崎市立神本町26	0993-72-4741
	南薩地域地場産業振興センター	枕崎市松之尾町37-1	0993-72-3133
	枕崎市かつお公社	枕崎市立神本町347	0993-72-7021
	(財)南薩地域地場産業振興センター	枕崎市松之尾町37-1	0993-72-3133
	山川水産加工業(協)	指宿市山川新栄町9	0993-34-0155
	(株)津曲食品	曾於市大隅町月野3928	099-482-5551
	奄美の里	鹿児島市南栄1-8-1	099-268-0331
	美山地区(薩摩焼)	日置市東市来町美山	099-273-2111
	美山陶遊館	日置市東市来町美山1051	099-274-5778
	沈壽官窯 沈家伝世品収蔵庫	鹿児島県日置市東市来町美山1715	099-274-2358
	桜岳陶芸	鹿児島県鹿児島市桜島赤水町1360	099-293-3939
	龍門司焼企業組合	鹿児島県始良市加治木町小山田5940	0995-62-2549
	種子島無比	鹿児島県西之表市国上上古田	0997-28-1802
	芙蓉窯	熊毛郡南種子町中之上1767-23	0997-26-1925
	陶房六大	西之表市西之表259-5	0997-23-2612
	陶房一條	西之表市西之表6143	0997-22-2312
	河内窯	西之表市住吉2666	0997-23-8130
	種子島焼 葉山窯	西之表市住吉2807-1	0997-23-8043
	種子島南蛮住吉窯	西之表市住吉1348	0997-23-3127
能野焼窯元 福元陶苑	西之表市住吉710	0997-23-1410	
村山陶芸	大島郡伊仙町阿権1711	0997-86-4857	
結窯	大島郡伊仙町阿権1711	0997-86-4857	
工房豊炎	鹿児島市谷山中央2-4138	099-266-3145	
薩摩焼窯元紫陶	鹿児島市紫原6-28-22	099-255-1321	
志光窯	鹿児島市吉野町555-4	099-244-5561	



	資源名称	所在地	TEL
鹿 児 島 県	島津家礎御庭焼島津陶苑	鹿児島市吉野町9685-34	099-247-7931
	珠泉	鹿児島市薬師2-29-10	099-255-1962
	松玄窯	鹿児島市吉野町9428-6	099-244-1455
	長太郎焼本窯	鹿児島市下福元町2692-2	099-268-3313
	樫山窯	鹿児島市宮之浦町4095-29	099-294-4084
	工房夢吉	鹿児島市宮之浦町466-1	099-294-3913
	永田陶芸	鹿児島市田上8丁目16-15	099-281-5252
	肥後窯	鹿児島市平川町3606-2	099-262-5516
	薩摩金欄手絵師実雪	鹿児島市東坂元4-48-2	099-248-1227
	小路窯	鹿児島市西坂元町7-25	099-248-1960
	椿窯	鹿児島市東谷山4-9-15	099-269-1577
	黒薩摩郡山焼 藤本窯	鹿児島市郡山町6367	099-298-3687
	陶工房流	枕崎市中央町734	0993-72-7862
	指宿長太郎窯元	指宿市東方7834	0993-22-3927
	薩摩焼窯元 仁楓陶苑	指宿市西方2360	0993-25-2286
	草地工房	垂水市海潟1992-1	0994-32-4328
	秋浦窯	日置市東市来町美山1236	099-274-4404
	苗代川焼佐太郎窯	日置市東市来町美山422	099-274-2155
	茜工房	日置市伊集院町麦生田1065-1	099-273-2789
	くらふと工房さらむ夢飯牟礼窯	日置市伊集院町飯牟礼1056-2	099-273-1577
	風木野陶	日置市日吉町日置7080	099-292-2265
	日置南洲窯	日置市日吉町日置5679	099-292-3477
	天降川焼	霧島市牧園町高千穂3240	0995-78-2400
	霧島白土焼	霧島市霧島田口137	0995-57-1456
	溪流窯	霧島市霧島田口97-2	0995-57-0589
	夢・つる子窯	霧島市霧島田口2393-8	0995-57-2218
	隼風窯	霧島市隼人町内山田1-11-6	0995-42-0403
	修山窯	南さつま市加世田武田4465	0993-52-3284
	次郎太窯	始良市加治木町小山田6096-2	0995-63-4267
	信太窯	始良市蒲生町漆3883	0995-67-3455
	三蔵窯	始良市平松5757	0995-65-2748
	紅窯	始良市池島町5-13	0995-65-6326
	宗艸窯	始良市平松5922	0995-65-0614
	井前窯	始良市西餅田862-10	0995-66-1147
	風窯	始良市西餅田1610-3	0995-65-8776
	一徳窯	曾於市財部町下財部5684-2	0986-72-2180
	小野原陶芸	肝属郡肝付町南方2259	0994-67-3774
	池之上陶芸	肝属郡肝付町富山796-7	0994-65-0370
	笠沙陶苑	南さつま市加世田武田8191	0993-53-3881
	祁答院窯詩季工房	薩摩川内市祁答院町下手2849-1	0996-55-1800
	工房久美	薩摩川内市東郷町斧淵7136-24	0996-42-0923
	米ノ津窯	出水市今釜町360	0996-67-4073
	田島陶芸	南さつま市金峰町花瀬1862	0993-77-3551
	種子島焼締め 榕窯	西之表市西之表15059-1	0997-23-0611
	種子島焼種子島窯	西之表市西之表6463	0997-22-1350
	田の浦窯	鹿児島市清水町28-17	099-248-0795
	陶工房桜里葦	薩摩川内市入来町浦之名15284	0996-44-4915
	福窯	鹿児島市武町2-13-24	099-252-8368
	美無工房	鹿児島市西佐多浦138-5	099-295-2362
	わらべ窯	阿久根市鶴川内9402-1	0996-73-1395
	大島陶房	鹿児島市伊敷町7丁目19-39	099-220-5844
	川畑陶興苑	鹿児島市上福元町6422	099-267-9205
	玉陶山	鹿児島市与次郎1-5-32	099-257-5400
	溪山窯南州工房	鹿児島市慈眼寺町6-5	099-801-1962
	梅の木窯	鹿児島市小野2-2-18	099-228-9704
	玉翠窯	鹿児島市伊敷町1丁目16-19	099-229-3836
	さつま町ガラス工芸館(観音滝公園内)	薩摩郡さつま町永野5665-5	0996-58-0141



	資源名称	所在地	TEL
鹿 児 島 県	坂元のくろず「壺畑」情報館&レストラン	霧島市福山町福山3075番地	0995-54-7200
	ガラス工房 舞硝	鹿児島市川上町2682-201	099-244-7515
	(株)黒酢の杜	鹿児島県霧島市福山町福山147-1	0995-54-7201
	ニチデン漬物の里	南九州市頰娃町別府845	0993-38-1000
	新日本石油基地(株)喜入基地	鹿児島市喜入中名町2856番地5	0993-45-1131
	南西糖業(株)	大島郡徳之島町徳和瀬	0997-82-0167
	平瀬製糖	大島郡天城町瀬滝	0997-85-4320
	村山陶芸	鹿児島市桜島赤水町1080	099-293-2322
	南日本酪農	鹿屋市笠之原町760-1	0994-43-5591
	宇都醸造(有)	霧島市福山町福山1490-1	0995-55-3366
	福山こめ酢醸造	霧島市福山町福山4115-1	0995-55-3051
	福山酢醸造	霧島市福山町福山2631	0995-55-2539
	福山黒酢株式会社	霧島市福山町福山2888	0995-55-3557
	長命ヘルシン酢醸造	霧島市隼人町野久美田670-2	0995-43-1507
	木の工房 木蓮	霧島市牧園町高千穂3311-21	0995-78-3154
	彫泉堂	霧島市牧園町高千穂3311-10	0995-78-3479
	(有)角満	鹿児島市南栄6-2-16	099-262-0261
	福田工芸	鹿児島市南栄6-2-14	099-262-0228
	(有)福丸工芸	鹿児島市南栄6-2-17	099-262-0236
	(有)外園銘木	鹿児島市南栄6-2-18	099-261-8505
	屋久杉の山王	鹿児島市川上町685	099-243-5010
	太平木材工業(株)	鹿児島市川上町1959	099-243-7111
	(株)コピオン	鹿児島市東開町13-12	099-269-0111
	(有)山幸木材商店	鹿児島市東開町13-10	099-268-0659
	アリヨシ民芸品店	鹿児島市喜入瀬々串町6612-1	0993-47-0613
	(有)はとや観光	熊毛郡屋久島町宮之浦40	0997-42-1313
	屋久杉岳南	熊毛郡屋久島町宮之浦2392-2	0997-42-1754
	安房工芸	熊毛郡屋久島町安房2354-8	0997-46-3052
	(株)武田産業	熊毛郡屋久島町安房650-18	0997-46-2258
	脇田工芸	熊毛郡屋久島町安房739-13	0997-46-3282
	フクヤマ食品(株)	日置市伊集院町中川1276	099-273-9282
	セイカ食品(株)唐湊工場	鹿児島市唐湊4-4-5	099-256-2334
	(有)フェスティパロ	鹿屋市上野町1869	0994-43-3457
	山佐木材(株)下住工場	肝属郡肝付町前田2090	0994-31-4141
	藤安醸造(株)	鹿児島市谷山港2-1-10	099-261-5151
	(社)鹿児島県特産品協会	鹿児島市名山町9-1	099-223-9171
	(株)健康医学社	霧島市国分姫城3080-1	0995-45-1400
	小城製粉(株)	薩摩川内市隈之城町1892	0996-22-4161
	薩摩びーどろ工芸(株)	薩摩郡さつま町永野5665-5	0996-58-0141
	(有)重久盛一酢醸造場	霧島市福山町福山2246-1	0995-55-2441
	(資)伊達醸造	霧島市福山町福山3621-1	0995-55-2016
	(合)新原味噌醤油工場	薩摩川内市樋脇町市比野141-1	0996-21-0202
	鹿児島県川辺仏壇(協)	南九州市川辺町平山6140-4	0993-56-0240
	(株)津曲食品	曾於市大隅町月野3928	099-482-5551
	日置瓦工業(協)	日置市日吉町吉利235-1	099-292-2178
	ヒガシマル(株)串木野工場	いちき串木野市西薩町15-2	0996-33-1711
富士屋あめ(有)	曾於郡大崎町仮宿1098-2	099-476-0067	
薩摩切りガラス工場(薩摩ガラス工芸)	鹿児島市吉野町磯9688-24	099-247-8490	
川内原子力発電所展示館	薩摩川内市久見崎町字小平1758-1	0996-27-3506	
かめまる館	日置市吹上町永吉15446	099-299-3747	
小正醸造焼酎工場見学	日置市日吉町日置3309	099-292-3535	
山川地熱発電所展示館	指宿市山川小川2303	0993-35-3326	
大島紬館 いっちゅう	大島郡与論町茶花	0997-97-3188	



費用	予約等について	営業時間	休日
無料	団体様は要予約	9:00～17:00	年中無休
無料	事前連絡必要	8:30～17:30	日曜日、お盆、年末年始
		9:00～17:00	土日祝日・お盆休み・年末年始
		9:00～17:00	毎週月曜日
無料	予約必要	9:00～16:00	土・日・祝日・会社記念日(10月28日)・年末年始
無料	要確認		
無料	事前連絡必要	9:00～,10:30～,13:00～,14:30 (約1時間)	原則として土曜日・日曜日・祝祭日(季節により変則的)
	予約必要		
無料	5名以上は予約必要	9:00～17:00、最終受付16時	年中無休
無料		8:30～17:00	12/31～1/4
無料		8:00～17:00	日曜日
無料		8:00～16:00	土日祝、年末年始
無料		9:00～16:00	日・祝日
無料		8:30～17:00	月曜日 第3日曜日、夏期、年末年始
無料		9:00～17:00	12月29日～1月1日
		8:30～17:00 夏期18:00迄	火曜日 第2水曜日
無料		入場受付時間は9:00～12:00、13:00～16:00	土日・祝祭日・お盆・年末年始休み
無料		9:00～17:00	12月29日～1月3日
有料		9:00～17:00	

	資源名称	所在地	TEL
鹿 児 島 県	江口蓬萊館	日置市東市来町伊作田7425-5	099-274-7666
	薩摩酒造「明治蔵」	枕崎市立神本町26	0993-72-7515
	薩摩切子の工房(薩摩ガラス工芸)	鹿児島市吉野町磯9688-24	099-247-8490
	奄美パーク	奄美市笠利町節田1834 奄美パーク2	0997-55-2333
	肥後染色 夢しぼり	大島郡龍郷町戸口2176	
	赤崎鍾乳洞	大島郡与論町麦屋678	0997-97-2069
	ゆんぬ あーどうる焼窯元	大島郡与論町古里909	0997-97-5155
	大島紬村	大島郡龍郷町赤尾木1945	0997-62-3100
	せとうち海の駅	大島郡瀬戸内町古仁屋大湊26-14 古仁屋漁港ターミナルビル	0997-72-4626
	ちかび展示館	いちき串木野市野元21803	0996-32-4747
	貝工房 かざはな	大島郡与論町東区1294	0997-97-3032
	体験テーマパーク 夢おりの郷	大島郡龍郷町大勝3213-1	0997-62-3888
	なかたね ふれあいの里	熊毛郡中種子町野間5942番地4	0997-27-3990
	東串良物産館 ルピノンの里	肝属郡東串良町池之原2608-1	0994-62-8701
	九州電力甑島風力発電所	薩摩川内市里町里山神	09969-2-0017
	手造りかめ仕込蔵白石酒造	いちき串木野市湊町3138	0996-36-2058
	かつお節加工団地	指宿市山川新栄町9	0993-34-0155
	薩摩萬世 松鳴館	さつま市加世田高橋1940-25	0993-52-0648
	こけけ特産品販売所	日置市東市来町長里2482-3	099-274-5028
	ひまわり館	日置市吹上町中之里2939-1	099-296-2519
	城の下物産店	日置市日吉町日置3104	099-292-5890
	都市農村交流施設 チェスト館	日置市伊集院町竹之山220-1	099-273-9525
	本場大島紬手織り機の里	鹿児島市新栄町18-6 MAP	099-254-1185

費用	予約等について	営業時間	休日
		夏 5月～9月 9:00～18:00, 春秋冬 10月～4月 9:00～17:00	毎月第1、第3火曜日(7月・12月 は除く) 年末年始
無料		9:00～16:00	
無料		8:30～17:00	月 第3日曜日、夏期、年末年始
有料		9:00～18:00(7月・8月は9:00～ 19:00) 入館は、閉園時間の30分 前までです。	第1・第3水曜日(祝日の場合は 翌日)(4月29日～5月5日、8月21 日～8月31日、12月30日～1月3 日は開園)
		9:00～18:00	不定休
有料		9:30～18:00	水 夏季無休
有料		9:30～17:00	水曜定休(年末年始祭りと7・8・9 月は営業)
有料		4月1日～9月30日 9:00～18:00、 10月1日～3月31日 9:00～17:00	
無料			火水
無料		夏 9:00～19:00、冬 9:00～18:00	
有料	予約優先	9:30～18:00	
		日月火水木金土 9:00～18:00	12/31～1/2
	要予約		
無料	電話確認必要	月火水木金 9:00～17:00	
無料		8:00～16:00	日土 祝日
		9:00～16:00	第3日曜日
		4月～9月 8:30～18:00、10月～3 月 8:30～17:00	年末年始
		4月～9月 8:00～18:00、10月～3 月 8:00～17:00	毎月第3水曜日1月1日
		8:30～17:00	12月31日～1月4日
		11月～3月 9:00～17:00、4月～10 月 9:00～18:00	12月31日～1月3日
無料		10:00～16:00	12月30日～1月3日、8月14日～ 16日、第2・第4土曜日、日・祝日

## 産業観光を活用した地域活性化事例調査委員会 開催概要

### 「産業観光を活用した地域活性化事例調査委員会」委員名簿

(氏名五十音順、敬称略)

企業・団体名	役職	氏名
鳥取環境大学	経営学部 准教授	新井 直樹
九州産業大学	商学部 客員教授	大江 英夫
株式会社ドリームインターフェイス	相談役	門口 洋章
有限会社オフィスフィールドノート	取締役	砂田 光紀
大牟田市	企画総務部 総務課 市史編さん室 室長	山田 元樹

○ 座長

### 第1回 産業観光を活用した地域活性化事例調査委員会

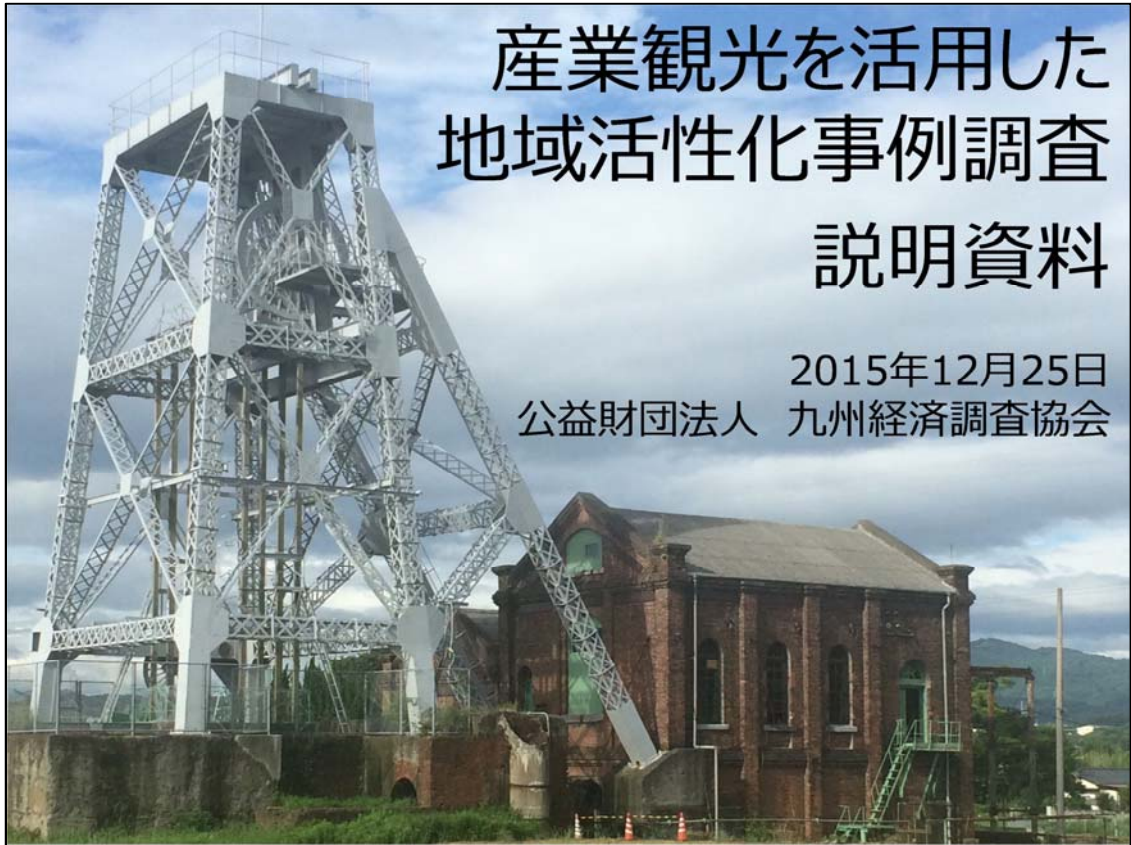
日時：平成27年12月25日（金）11:00～13:00

会場：九州経済調査協会 会議室（電気ビル共創館5階）

1. 開会挨拶
2. 座長選出
3. 委員紹介
4. 調査の概要・論点
5. 討論
6. 閉会・事務連絡

#### <議論の要点>

- 産業観光の振興に関して、受入環境の不備を洗い出していくことが重要。産業観光資源に関わる主体の縦割りの問題も妨げになっている。
- 産業観光資源の活用に関しては、いかに演出できるかがカギであるが、そこが欠落している。それを補うことができるのはその資源が持つストーリー。
- インバウンドに関しては、ターゲットをどの国・地域に定めるかといった問題も存在。
- 産業観光にとってはガイドの存在は重要。アンケートの実施に当たってはガイドに関する質問項目を厚くして、現状や課題を掘り下げることが必要。



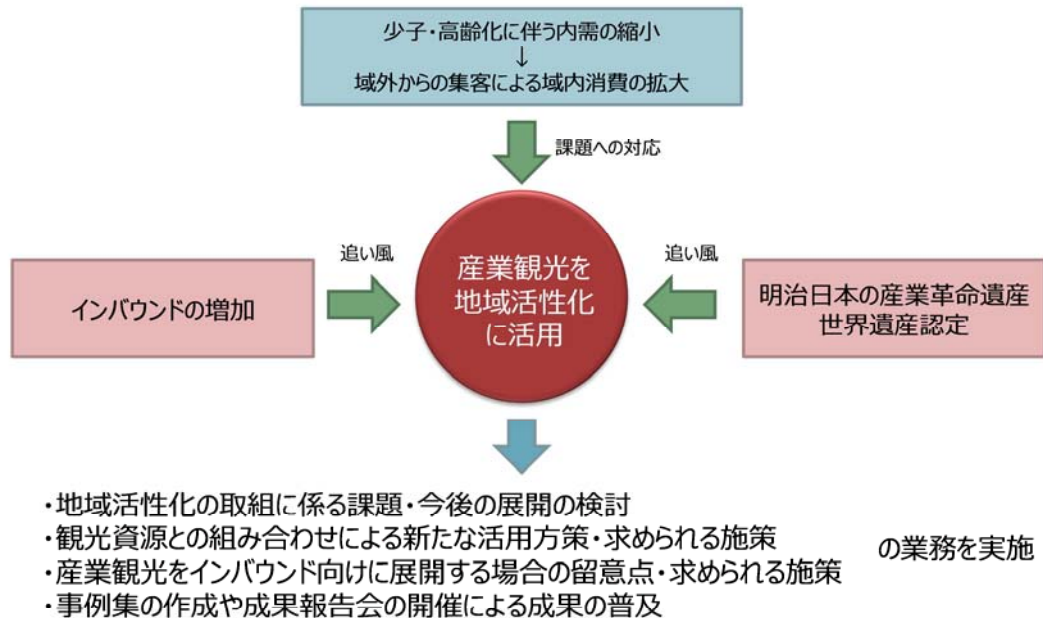
# 産業観光を活用した 地域活性化事例調査 説明資料

2015年12月25日  
公益財団法人 九州経済調査協会

## 資料の構成

1. 調査の背景・目的
2. 調査の視点
3. 調査の内容
4. 調査スケジュール
5. 産業観光を取り巻く現状
6. 討議していただきたい内容

## 1.調査の背景・目的



NEW PROJECT PRESENTATION

3

## 2.調査の視点

- ・ 平成19・20年度に近代化産業遺産を大臣認定  
→ 認定から7～8年が経過した現在、九州の近代化産業遺産の活用状況はどのようになっているか？



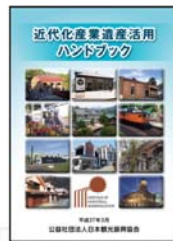
- ・ 今年7月に「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産認定  
→ 産業観光に追い風が吹く中で、これらの地域資源はどのような状況にあるか？

NEW PROJECT PRESENTATION

4

## 2.調査の視点

- 産業観光・近代化産業遺産活用に関しては、先行レポートが複数存在
  - 九州の事例を発掘する
  - 産業観光を他の観光の要素と組み合わせて活用している事例に着目し、発掘する
  - インバウンドを取り込むための課題や方策について整理・検討する
  - 九州ならではの活性化モデルの発掘・検討を試みる



NEW PROJECT PRESENTATION

5

## 3.調査の内容

### 報告書の構成（案）

- I. はじめに
  - II. 九州における産業観光の実態
    1. アンケート調査からみた九州の産業観光の実態  
九州の近代化産業遺産管理者へのアンケート結果の取りまとめ
    2. 産業観光振興に向けた各地の取組  
ヒアリング結果をもとに各地の取組を取りまとめ
  - III. 産業観光を通じた地域活性化への課題と方策
    1. 産業観光を通じた地域活性化の課題
    2. 産業観光を通じた地域活性化の方策  
アンケート・ヒアリング結果をもとに課題や方策について整理し、検討委員会で討議した内容を取りまとめ
- 資料編. 九州の産業観光資源一覧  
九州の産業観光資源をリスト化して掲載

NEW PROJECT PRESENTATION

6





### 3.調査の内容

#### ② 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を活用した取組状況調査

##### <ヒアリング調査>

明治日本の産業革命遺産の構成資産を有する地域を対象に、構成資産を活用した地域活性化の取り組みについてヒアリング調査を実施する。ヒアリング項目や進め方は、①と同様に管理者だけでなく、関連する主体を訪問し、多面的な分析を行う。

#### ③ 産業観光等実施状況調査

##### <文献調査>

九州の産業観光に関する資源（産業遺産、工場見学、ものづくり体験等）について、観光協会や工場見学を受け入れている企業ホームページなどの信頼できるサイトから情報を入手し、リスト化する。

##### <ヒアリング調査>

活用に向けた特色ある取り組みを行っている事例を対象にヒアリングを実施。ヒアリング項目や進め方は、①や②と同様。

### 3.調査の内容

#### <ヒアリング調査のイメージ>

#### 近代化産業遺産・産業観光資源を活用して観光振興を図る地域

##### 近代化産業遺産・産業観光資源を持つ地域

近代化産業遺産  
産業観光資源  
(管理者)

・活用状況、活用に向けた工夫  
・活用を図る上での課題や解決策・取り組み  
・周辺観光地等との連携 など

観光協会・自治体

・その街の観光における遺産の位置づけ

NPO・ボランティア

・遺産の活用への関わり

民間事業者

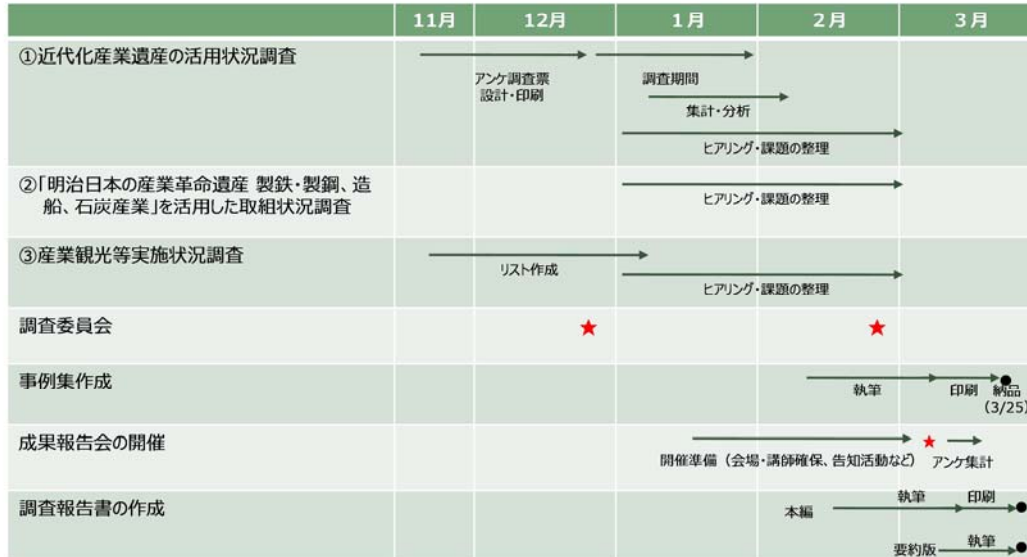
・活用に向けた取り組みと課題

周辺観光地

・近代化産業遺産・産業観光資源を持つ地域との連携内容  
・組み合わせによる魅力の創出方法 など

近代化産業遺産の活用、産業観光の振興に関する全体像を調査

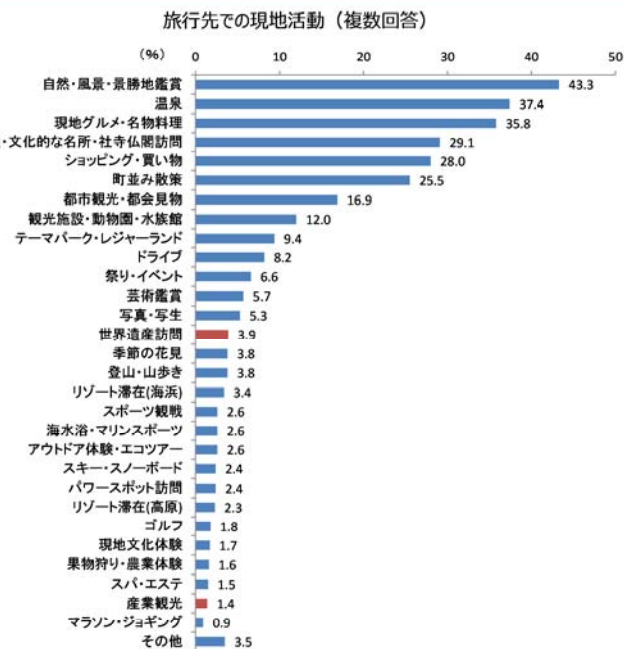
## 4.調査スケジュール



NEW PROJECT PRESENTATION

11

## 5.産業観光を取り巻く現状



NEW PROJECT

資料）（公財）日本交通公社「旅行年報2015」より九州経済調査協会作成（原資料：JTBF旅行実態調査）

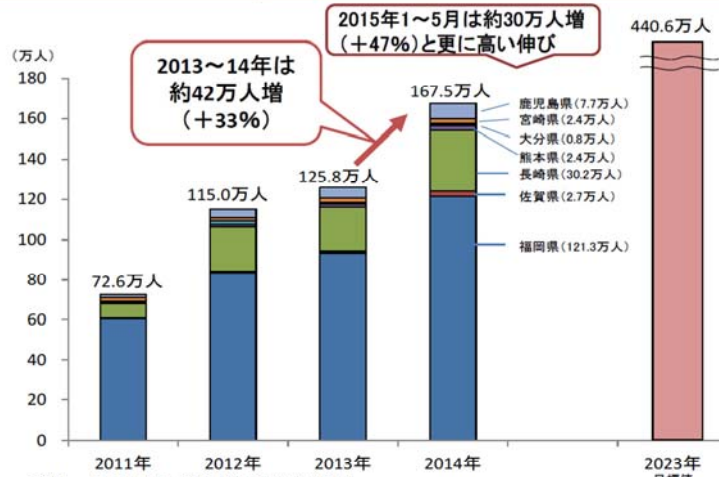
12

# 5.産業観光を取り巻く現状

九州の訪日外国人の推移

## 九州への訪日外国人 3年連続過去最高

- 2014年の九州7県への訪日外国人は 167.5万人(過去最高)。前年比約 42万人増、3割以上の大きな伸び。
- 第二期九州観光戦略(2013年策定)で目指した2016年目標値 188.7万人(2016年)は早期達成の見込み



資料: 訪日外国人消費動向調査(観光庁)

資料)九州地域産業活性化センターほか「九州におけるインバウンドの動向について～現状と今後の見通し及び取組事例～」

4

13

# 5.産業観光を取り巻く現状

訪日外国人の国別観光消費額(全国)

## 観光消費額\*の中では、 中国・台湾は買い物代、 その他は宿泊料金がトップ

- 中国は買い物代、宿泊料金、飲食代が他地域より高く、特に買い物代は全体平均の2倍
- 韓国はリピーターが多く、1回の消費額は各項目で全体平均より低い

\* 訪日外国人が1回の訪問で消費した各項目の平均値



資料: 訪日外国人消費動向調査(観光庁)

出所)九州地域産業活性化センターほか「九州におけるインバウンドの動向について～現状と今後の見通し及び取組事例～」

9

14

# 5.産業観光を取り巻く現状

図3 九州・山口の経済産業省「近代化産業遺産」所在地



注) 市区町村ごとに各遺産の代表的な位置にプロット  
資料) 経済産業省「近代化産業遺産「観光」活用ガイド」より九経調作成

表4 九州・山口の経済産業省「近代化産業遺産」リスト

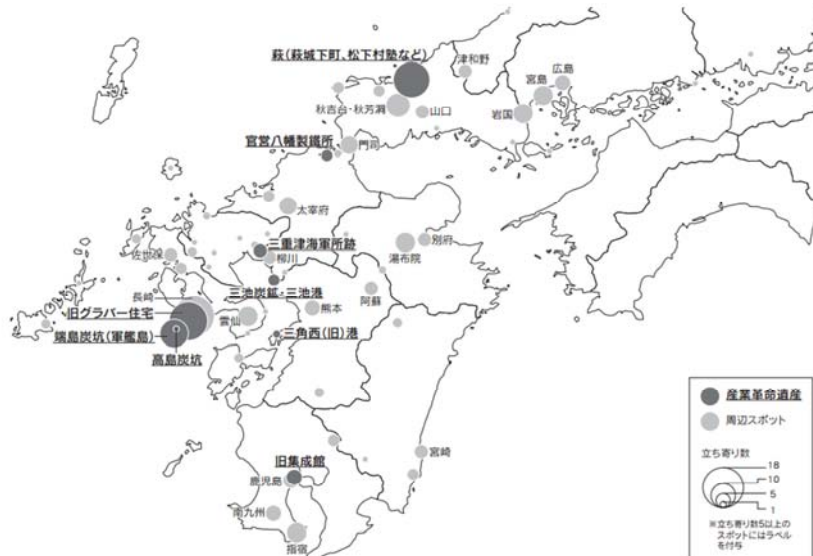
遺産名	所在市区町村	遺産名	所在市区町村
福岡製紙関連遺産	北九州市門司区、下関市	長崎市内の旧居留地時代のレンジャー屋敷関連遺産	長崎市
戦艦の主要部遺構トンネル	北九州市門司区、下関市	新田町の酒気検閲	長崎市、山形小野田市
九州大学工学部関連遺産	福岡市東区	伊王島灯台	長崎市
手動式計量器	北九州市小倉北区	水ノ子島灯台	宮崎市
北九州市の衛生陶器・食器製造関連遺産	北九州市小倉北区	養生金山関連遺産	日田市
北九州市所管の近代水道関連遺産	北九州市小倉東区、北九州市若松区	別府遺構関連遺産	別府市
筑豊炭田からの石炭輸送・貨車関連遺産	北九州市戸畑区、北九州市門司区、北九州市八幡西区、北九州市八幡東区、北九州市若松区、福岡県東峰村、福岡県芦屋町、福岡県赤松	三池炭坑からの石炭輸送・貨車関連遺産	宇城市
九州工業大学関連遺産	北九州市戸畑区	三池炭坑からの石炭輸送・貨車関連遺産	宇城市
北九州市の通信技術関連遺産	北九州市門司区	熊本市の織造業関連遺産	熊本市
私塾及製造関連遺産	北九州市門司区	物産輸送関連遺産(肥後線)	人吉市、八代市、熊本県熊本市、熊本県津久井市、えびの市、鹿野市、鹿児島県湧水町
郡庁灯台	北九州市門司区	兵衛精練の関連遺産	人吉市、八代市、熊本県熊本市、えびの市
八幡製鉄所関連遺産	北九州市八幡東区、北九州市戸畑区	福岡市の化学工業関連遺産	福岡市
筑豊炭田関連遺産	飯塚市、田川市、豊后市、福岡県柳井町、福岡県上野市	諸塚村の水力発電関連遺産	宮崎県諸塚村
三池炭坑関連遺産	大牟田市、筑紫市	新境灯台	日南市
北九州製鉄所関連遺産(除く製鉄業)	福岡県志免町	大口市の水力発電関連遺産	伊佐市
戸畑製糖(旧・日立金鋼鉄)の生産施設	福岡県戸畑町	熊本県による軍事の関連遺産(除く製糖業)	鹿児島市、阿蘇市
志田の製業関連遺産	横野市	鹿児島県立鹿児島工業高等専門学校関連遺産	鹿児島市
宮崎島の製紙関連遺産	藤津市	南九州市の航空機関連遺産	南九州市
佐賀藩による事業の関連遺産	佐賀市	安南村貯蔵	鹿児島県屋久島町
有田の製業関連遺産	佐賀県有田町	宇留田製糖関連遺産	宇留市
宮田製糖工場と宮田製糖関連遺産	宮崎市	山形小野田市のセメント製造関連遺産(山形小野田セメント)	山形小野田市
長崎の製糖関連遺産	宮崎市、長崎市	山形小野田市の製業(製糖)関連遺産	山形小野田市
旧国営海軍工廠関連遺産	佐世保市	角島灯台	下関市
長崎市の造船関連遺産	長崎市	長州藩による製業の関連遺産	萩市
長崎市の製糖関連遺産	長崎市	三田尻の製糖業関連遺産	萩市
長崎市の所管の近代水道関連遺産	長崎市		

注) 各遺産は第一または複数の観光・体験で構成される  
資料) 経済産業省「近代化産業遺産「観光」活用ガイド」より作成

出所) 小柳真二「明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録と地域活性化」九州経済調査月報2015年8月号

# 5.産業観光を取り巻く現状

図1 産業革命遺産を組み込んだ周遊観光の状況



注) 1. 2015年7月出発のプラン  
2. 国内旅行3社については、首都圏出発、季節員付きのツアーに限る  
3. 西鉄旅行についてはバスツアーに限る  
資料) 観光エィティビー(東京都品川区)、KNT-CTホールディングス㈱(東京都千代田区)、旅業急交通社(大阪市)、西鉄旅行㈱(福岡市)の旅行プランをもとに九経調作成  
出所) 小柳真二「明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録と地域活性化」九州経済調査月報2015年8月号

## 5.産業観光を取り巻く現状

### 産業遺産活用のポイント

①「活用」なければ保全なし

現役稼働施設（工場・工房等）と比べて、産業遺産はそれ自体としては経済価値を生み出さない。しかし、その維持・管理のためには膨大な経費と手間を要するため、その保全を図るためには、何らかの「活用」が不可欠であるという理念が重要である。

②多様な活用用途と手法を学ぶ

産業遺産の活用には、そのままの景観を見せるものから、ミュージアム、アトリエ・工房、レストラン・ショップ・宿泊施設等の商業・文化施設にリノベーションするもの、無くなってしまった遺産をアーカイブし復元するものなど多様な道がある。これらの学びと応用が重要である。

③遺産再生をまちづくりを活かす

バラバラになった遺産を一定のエリアに集積して観光まちづくりを進め、地域単位の再生を図ることが重要である。

④活用のための用途変更等規制緩和を進める

遺産の活用には、立地地域の用途規制をはじめ、活用用途によっては関連業法の規制、建築基準法など数多くの制約がある。これらは個別企業にとって重荷であり、国や県・市など行政側からの支援が不可欠である。

⑤事業基盤の安定化

遺産を活用した事業では、地域と連携した各種商業機能など、収益性の高い事業の導入も不可欠である。要するに「売れるもの」を確保した事業基盤の安定化である。

⑥広域連携によるストーリー性豊かな活用

産業遺産は「ネットワーク財」である。原材料・製品や人材を通じた他地域との濃密なネットワークがあったからこそ生産活動が可能であった。産業遺産の再生には、こうしたネットワークを踏まえに個性豊かな物語（ストーリー）の再構築が不可欠である。

⑦訪日外国人へのアピール（MICE）

アジアで最初の産業革命を達成し世界最速の産業発展を遂げた日本の産業資源は、これからの MICE など訪日外国人客の受け入れコンテンツとして大きな注目が集まっている。これら資源をどのように見せていくのが大きな課題である。

出所）日本観光振興協会「近代化産業遺産活用ハンドブック」

17

## 5.産業観光を取り巻く現状

### 地域資源を組み合わせたモデルコース形成の事例

18

## 5.産業観光を取り巻く現状

インバウンドを取り込む事例

### 4. 取組事例 【大分県杵築（きつき）市】まちなみ散策と着物レンタル

#### 日本唯一の「サンドイッチ型城下町」を 着物で散策が人気

- ・全国初の「きつき和服応援宣言」・「きものが似合う町並み」に認定
- ・武家屋敷、商家、石畳の坂道など、面的な江戸時代の風情を活かし、「城下町と着物」で和の相乗効果を演出。
- ・和服で散策の場合、公共観光施設の入館料が全て無料、食事代の割引、ドリンクサービス、お土産プレゼント等特典を準備



- ・杵築城を中心に南北の高台に武家屋敷が、その谷間に商人の町がある日本唯一の「サンドイッチ型城下町」
- ・坂道から見る面的な町並みが魅力で、レンタル着物を着用しての散策が人気。レンタル着物の利用客の5割が外国人観光客。一方、県内観光客が3割と地元客の利用が多いのも特徴
- ・香港、台湾、シンガポール、タイ等の観光客が増加
- ・立命館アジア太平洋大学の入学式、卒業式に合わせた家族旅行でも人気



1【和楽庵】200着の着物のレンタル(1着2400円)、着付けを実施

1【英語対応のパンフレット】着物レンタルのパンフレットを英語で作成。外国語対応の散策マップも配布



1坂道から望む町並みが美しい城下町

31

出所)九州地域産業活性化センターほか「九州におけるインバウンドの動向について～現状と今後の見通し及び取組事例～」

19

## 5.産業観光を取り巻く現状

ぐんま絹遺産MAP (モデルコースの作成機能も付加)

20

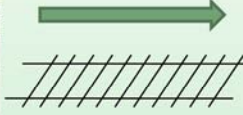
## 5. 産業観光を取り巻く現状

石川県能登町における産業遺産の活用事例



廃線跡に自転車式のトロコ列車を導入し、観光資源化  
(500円/回、ファンクラブ制度10,000円/年も)

オーナーは乗り入れ可能



酒蔵の裏手にある廃トンネルを活用した貯蔵庫  
(酒代+維持管理費のオーナー制度を導入)



トロコ乗り場の近隣(徒歩2~3分)にある景勝地

それぞれの資源を活用しながら  
地域一体となった観光地づくり

21

## 6. 討議していただきたい内容

- 九州の産業観光に関連する主体が、その振興を図る上で何に困っているか？
  - 資金（観光資源として回していくためのもの、保存のためのもの）
  - 人材（プロデューサー的な人材、ボランティアガイドのような人材etc）
  - 商品化・PRの手法、安全性の確保、公開対応 etc
- 産業観光を地域活性化につなげるために必要な視点
  - 成功例から見える成功要因、活性化を図る際のボトルネック、必要とされる施策
  - 滞在期間の延伸（広域ルート、体験型プログラムの開発等）、消費単価の向上、九州の強みでの打ち出しの可能性
  - 産業観光の新しい展開の可能性（産業観光ツーリズム等）について
  - 単体が組み合わせか？・・・組み合わせる場合はどのような形か（例：食と、温泉と、イベントと・・・）
  - 効果的なPRの手法、見せ方の工夫は？、直販か委託販売か？ etc
- 産業観光を持続可能な形で地域活性化につなげるための仕組みについて
  - 地域の受け入れ体制の確保、行政や民間、ボランティア等の各主体の役割分担・関わり方
  - 持続していくための資金的な裏付けをどう確保しているか
  - 日本版DMO（Destination Marketing/Management Organization）の取組の必要性 etc
- 産業観光を通じてインバウンドを取り込む際の留意点や求められる施策について
- アンケートやヒアリングを進める際に重視すべき視点・聞くべき項目、分析すべき事例の情報提供

NEW PROJECT PRESENTATION

22

# (参考)日本版DMOについて

## (参考) 日本版DMO形成・確立の必要性



これまでの観光地域づくりの課題

<p><b>関係者の巻き込みが不十分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化、農林漁業、商工業、環境、スポーツなど地域の関連事業者や住民等の多様な関係者の巻き込みが不十分</li> <li>⇒地域の幅広い資源の最大限の活用につながらない</li> <li>⇒地域住民の誇りと愛着を醸成する豊かな地域づくりにつながらない</li> </ul>	<p><b>データの収集・分析が不十分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来訪客に関するデータの収集・分析が不十分。観光客を十把一絡げに扱っている地域が少なくない</li> <li>⇒ターゲットとなる顧客層や地域のコンセプトが十分に練られていない</li> <li>⇒変化する観光市場に対応できない</li> </ul>	<p><b>民間の手法の導入が不十分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なブランディングやプロモーションといった民間的な手法の導入が不十分</li> <li>⇒観光客に対して、「刺さる」競争力を持つ観光地ブランディングができていない。</li> </ul>
--	--	---

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役＝「日本版DMO」を各地域で形成・確立

<p><b>関係者の巻き込み</b> 内外の人材やノウハウの取り込み</p> <p>人財 内外から取り込み、ノウハウ</p>	<p><b>データの収集・戦略の策定</b></p> <p>例) 富良野・美瑛観光圏によるSWOT分析</p> <table border="1"> <tr> <th>強み</th> <th>弱み</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>【強み】Strength</li> <li>ヨーロッパに接する自然景観</li> <li>札幌圏・旭川圏へのアクセスも良く、夏場とも近い地理条件</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>【弱み】Weakness</li> <li>公共交通アクセスの不便</li> <li>冬の観光の魅力不足</li> <li>自然資源の活用</li> <li>宿泊施設が不足</li> </ul> </td> </tr> <tr> <th>機会</th> <th>脅威</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>【機会】Opportunity</li> <li>エコツアー・スローツーリズムなどの近い風土</li> <li>若狭世代の帰郷に伴う労働力不足</li> <li>外国人観光客の増加</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>【脅威】Threat</li> <li>パンデミック・ホテル・飲食店の倒産リスク</li> <li>交通渋滞による住民の生活の質の低下</li> <li>他の観光地との競争激化</li> </ul> </td> </tr> </table>	強み	弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>【強み】Strength</li> <li>ヨーロッパに接する自然景観</li> <li>札幌圏・旭川圏へのアクセスも良く、夏場とも近い地理条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【弱み】Weakness</li> <li>公共交通アクセスの不便</li> <li>冬の観光の魅力不足</li> <li>自然資源の活用</li> <li>宿泊施設が不足</li> </ul>	機会	脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>【機会】Opportunity</li> <li>エコツアー・スローツーリズムなどの近い風土</li> <li>若狭世代の帰郷に伴う労働力不足</li> <li>外国人観光客の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【脅威】Threat</li> <li>パンデミック・ホテル・飲食店の倒産リスク</li> <li>交通渋滞による住民の生活の質の低下</li> <li>他の観光地との競争激化</li> </ul>	<p><b>ブランド力を高める仕組み</b></p> <p>例) 富国観光圏「SAKURA QUALITY」</p> <p>富国観光圏では、外国人の受入体制などにより宿泊施設等の評価を行う品質認証制度「サクラクオリティ」を導入。</p>	<p><b>プロモーション</b></p> <p>例) 外国人職員による効果的なプロモーション</p>
強み	弱み										
<ul style="list-style-type: none"> <li>【強み】Strength</li> <li>ヨーロッパに接する自然景観</li> <li>札幌圏・旭川圏へのアクセスも良く、夏場とも近い地理条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【弱み】Weakness</li> <li>公共交通アクセスの不便</li> <li>冬の観光の魅力不足</li> <li>自然資源の活用</li> <li>宿泊施設が不足</li> </ul>										
機会	脅威										
<ul style="list-style-type: none"> <li>【機会】Opportunity</li> <li>エコツアー・スローツーリズムなどの近い風土</li> <li>若狭世代の帰郷に伴う労働力不足</li> <li>外国人観光客の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【脅威】Threat</li> <li>パンデミック・ホテル・飲食店の倒産リスク</li> <li>交通渋滞による住民の生活の質の低下</li> <li>他の観光地との競争激化</li> </ul>										

23

# (参考)日本版DMOについて

## 日本版DMOの役割、多様な関係者との連携



<p><b>日本版DMOの役割</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本版DMOを中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成</li> <li>各種データ等の継続的な収集・分析、明確なコンセプトに基づいた戦略の策定、KPIの設定・PDCAサイクルの確立</li> <li>関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション</li> </ol> <p>+</p> <p>観光地域づくりの一主体として実施する個別事業</p> <p>(例) 着地型旅行商品の造成・販売、ランドオペレーター業務の実施 等</p>	<p><b>多様な関係者との連携</b></p> <p>内外の人材やノウハウを取り込みつつ、多様な関係者と連携</p> <table border="1"> <tr> <td> <p><b>商工業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと名物の開発</li> <li>免税店許可の取得</li> </ul> </td> <td> <p><b>交通事業者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二次交通の確保</li> <li>周遊企画乗車券の設定</li> </ul> </td> <td> <p><b>地域住民</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光地域づくりへの理解</li> <li>市民ガイドの実施</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <p><b>宿泊施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別施設の改善</li> <li>品質保証の導入</li> </ul> </td> <td> <p><b>日本版DMO</b></p> </td> <td> <p><b>行政</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興計画の策定</li> <li>プロモーション等の観光振興事業</li> <li>インフラ整備(景観、道路、空港、港湾等)</li> <li>文化財保護・活用</li> <li>観光教育</li> <li>交通政策</li> <li>各種支援措置</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <p><b>農林漁業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験プログラムの提供</li> <li>6次産業化による商品開発</li> </ul> </td> <td> <p><b>飲食店</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の食」の提供</li> <li>多言語、ムスリム対応</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </table> <p>地域一体の魅力ある観光地域づくり 戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p> <p>観光客の呼び込み</p> <p>観光による地方創生</p>	<p><b>商工業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと名物の開発</li> <li>免税店許可の取得</li> </ul>	<p><b>交通事業者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二次交通の確保</li> <li>周遊企画乗車券の設定</li> </ul>	<p><b>地域住民</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光地域づくりへの理解</li> <li>市民ガイドの実施</li> </ul>	<p><b>宿泊施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別施設の改善</li> <li>品質保証の導入</li> </ul>	<p><b>日本版DMO</b></p>	<p><b>行政</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興計画の策定</li> <li>プロモーション等の観光振興事業</li> <li>インフラ整備(景観、道路、空港、港湾等)</li> <li>文化財保護・活用</li> <li>観光教育</li> <li>交通政策</li> <li>各種支援措置</li> </ul>	<p><b>農林漁業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験プログラムの提供</li> <li>6次産業化による商品開発</li> </ul>	<p><b>飲食店</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の食」の提供</li> <li>多言語、ムスリム対応</li> </ul>	
<p><b>商工業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと名物の開発</li> <li>免税店許可の取得</li> </ul>	<p><b>交通事業者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二次交通の確保</li> <li>周遊企画乗車券の設定</li> </ul>	<p><b>地域住民</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光地域づくりへの理解</li> <li>市民ガイドの実施</li> </ul>								
<p><b>宿泊施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別施設の改善</li> <li>品質保証の導入</li> </ul>	<p><b>日本版DMO</b></p>	<p><b>行政</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興計画の策定</li> <li>プロモーション等の観光振興事業</li> <li>インフラ整備(景観、道路、空港、港湾等)</li> <li>文化財保護・活用</li> <li>観光教育</li> <li>交通政策</li> <li>各種支援措置</li> </ul>								
<p><b>農林漁業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験プログラムの提供</li> <li>6次産業化による商品開発</li> </ul>	<p><b>飲食店</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の食」の提供</li> <li>多言語、ムスリム対応</li> </ul>									

1 24



## 第2回 産業観光を活用した地域活性化事例調査委員会

日時：平成28年3月11日（金）10:00～12:00

会場：九州経済調査協会 会議室（電気ビル共創館5階）

1. 開会挨拶
2. 調査報告
3. 討論
4. 閉会・事務連絡

### <議論の要点>

- 産業観光の活性化に向けては、魅力を磨き上げることが大切。
- 施設の魅力を磨き上げる手法を理解していない人も多いので、報告書や事例集では具体的な事例を数多く盛り込んで提供すべき。
- 教育現場との連携も重要で、子供たちが地元を自慢できるようにすることが大切。
- 世界遺産効果が薄れたときに、産業遺産だけでなく、地域の産業やイベントで集客し、そこで産業遺産にも興味を持ってもらえるようにすることが大事。
- 産業観光の供給サイドの視点だけでなく、旅行者（需要サイド）からの視点も重要。

# 産業観光を活用した 地域活性化事例調査 説明資料

2016年3月11日

公益財団法人 九州経済調査協会

# 報告書の構成と本日の討議について

## I. はじめに

調査の背景・目的のほか、産業観光を取り巻く現状について文献整理（説明略）

## II. 九州における近代化産業遺産の保存・活用の現状と課題

九州の近代化産業遺産における保存・活用状況についてのアンケート結果を解析（説明事項）

## III. 産業観光を活用した地域活性化の取組状況

九州を中心とした産業観光を活用した地域活性化の取組に関するヒアリング結果から各地の取組のキーワードを抽出（説明事項）

## IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策

### 1. 産業観光を通じた地域活性化の課題

アンケートとヒアリングから明らかになった課題の整理（説明・討議事項）

### 2. 産業観光を通じた地域活性化の方策

課題を踏まえての産業観光を通じた地域活性化の方策を検討（説明・討議事項）

## 資料編. 九州の産業観光資源一覧

九州の産業観光資源をリスト化して掲載（説明略）

NEW PROJECT PRESENTATION

2

## II. 九州における近代化産業遺産の保存・活用の現状と課題

### 近代化産業遺産の保存・活用に関するアンケートを実施

- 調査対象：経済産業省が平成19・20年度に認定した九州の近代化産業遺産（そのうち管理者がわかっているもの）
- 発送数：195件（近代化産業遺産1件につき1通発送）
- 回収数：138件
- 回収率：70.8%
- 実施時期：2016年1月
- 質問項目（調査票は別紙）
  - ✓ 近代化産業遺産の管理、保存状況
  - ✓ 近代化産業遺産の認定資産や当時整理したストーリーの活用状況
  - ✓ 近代化産業遺産の公開・活用状況（ガイドの体制や各種環境整備含む）
  - ✓ 近代化産業遺産への来場・集客
  - ✓ 今後の見通しや課題

NEW PROJECT PRESENTATION

3

## Ⅱ. 九州における近代化産業遺産の保存・活用の現状と課題

### 結果のポイント（詳細は別紙）

- 近代化産業遺産は、稼働中、非稼働、転用にほぼ三分
- 近代化産業遺産認定、世界遺産登録により約半数の施設で見学者や問い合わせが増加
- ストーリーを活用した取組は6割が実施、他の観光資源との連携模索が主体
- 条件付きも含め8割超が一般公開、うち有料公開は4割、ガイドありは6割（無料が多い）
- ガイドの課題は、繁閑差による人繰り、資金面、ガイドの高齢化が主
- 外国語の受入環境整備はまだ
- 活用の課題は、維持・補修のコストのほか、活動資金や人材の問題も
- 来場者の増加は、住民の誇り・意識向上に最も貢献

NEW PROJECT PRESENTATION

4

## Ⅲ. 産業観光を活用した地域活性化の取組状況

### 九州内外の産業観光を活用した地域活性化の取組をヒアリング →以下のキーワードに整理

#### 資源の発掘・磨き上げ

- 地域資源の掘り起こし→産業観光活用の第一歩（各地）
- ないものねだりからあるもの探し（北九州、山鹿）
- 教育現場を通じた理解の深化（福岡、桐生）

#### 他の要素との組合せ

- ストーリーを通じた食や文化との融合・連携（北九州、飯塚など）
- 他の観光資源との連携（山鹿、東予など）
- 季節性を生かした観光との連携（飯塚、碓氷峠、別子など）

#### 演出方法の工夫

- ガイド（ストーリーテラー）の活躍（各地）
- アートやデザインとの融合・連携（空知、金沢、今治）
- 動態保存（福岡、碓氷峠、マンチェスター）

#### 機能的・面的広がり

- 産業観光資源を通じた観光分野以外の横断的活用（日南）
- 産業観光資源のストーリーを通じた面的拡大（肥薩線、空知、東予）
- コーディネーターの存在（北九州、空知）

#### 持続可能な運営

- 付加価値の向上による事業収入の向上（北九州、山鹿、福岡）
- シビックプライド、CSRなどによる上乗せ（北九州、大牟田、肥薩線など）
- 行政によるイニシャルコスト等の下支え（大牟田、碓氷峠など）

5

# 1. 資源の発掘・磨き上げ

- 地域資源の掘り起こし**  
 →産業観光活用の第一歩（各地）
- ないものねだりからあるもの探しへ**  
**北九州**…北九州が持つブランド力＝北九州工業地帯  
 に着目して産業観光の取組に着手  
**山鹿**…地域資源の共通のキーワードである「米」を  
 切り口に地域資源を生かしたガイドツアーに  
 展開（写真右）
- 教育現場を通じた理解の深化**  
**福岡、桐生**…子どもたちを通じて大人が地域資源の  
 価値を再発見（右図）  
**西条**…ビール工場における「親子見学ツアー」の実施。  
 企業が実施する森林保護活動の紹介やグッズ  
 づくりを通して、企業や工場に親しみを持って  
 もらう



NEW PROJECT PRESENTATION

6

# 2. 他の要素との組合せ

- ストーリーを通じた食や文化との融合・連携**  
**北九州**…「角打ち文化」を産業観光として位置づけ（写真右）  
**飯塚**…地域でよく食されるホルモン料理のご当地グルメ化（ほるホル  
 丼）や炭釜の歴史とつながる菓子文化を生かした黒スイーツ  
 の開発
- 他の観光資源との連携**  
**山鹿**…温泉旅館が「米米窓門ツアー」の案内を営業ツールとして  
 活用  
**東予**…しまなみ海道がサイクリストの聖地となっていることから、来  
 訪者を地域に呼び込むための環境整備（サイクルスタン  
 ドの整備等）を実施（写真右下）
- 季節性を生かした観光との連携**  
**新居浜（別子）**…産業観光資源に花を植えることで季節の花を  
 見に来る客を集客、リピーターの確保の効果も  
**碓氷峠**…鉄道廃線跡をウォーキングコースとして整備  
 新緑や紅葉の季節を中心に多くの集客  
 温泉施設（産業観光施設と同じ運営主体）への集客に



拡大



NEW PROJECT PRESENTATION

7

### 3. 演出方法の工夫

- ・ ガイド（ストーリーテラー）の活躍（各地）

- ・ アートやデザインとの融合・連携

**空知**…炭鉱関連資源（廃墟含む）とアートの親和性に着目。（写真右上）

アート好きな感度の高い人に炭鉱への目を向けてもらうきっかけを作る。

**金沢**…紡績工場の倉庫跡を市民の芸術活動（練習）の場として使える施設に。

自由な文化活動を行うための土壌づくりのため、24時間365日営業の公共施設として市民の創作活動に活用（写真右中央）

**今治**…「タオル美術館」をタオルと製造過程の展示にとどめず、デザイン性に優れたカフェ等を整備し、滞在時間の延長→タオル消費の拡大を図る



- ・ 動態保存

**富岡**…地元産の繭を使って製糸場内の機械を動態保存する構想。将来的な製品化（例：土産品）を視野に養蚕ボランティアを拡大。（写真右下）

**碓氷峠**…本物の機関車運転体験。丸1日の講義、3万円の受講料、運転1回につき5千円も大好評で、稼働率9割。定常的な修繕コストだけでなく、運営主体の経営に貢献する存在に。



8

### 4. 機能的・面的広がり

- ・ 産業観光資源を通じた観光分野以外の横断的活用

**日南**…「赤レンガ館」の単体での保存と活用（コワーキング）から、まちづくり（企業誘致、起業、移住など）へ組織横断的に活用を展開

- ・ 産業観光資源の面的拡大

**肥薩線**…「劇場124」として地域資源とキーパーソンをつなぐ取組（右画像）

**空知**…地域の炭鉱を起源に、小樽や札幌、さらには薩摩との関わりを追求する取組を展開

**東予**…産業観光を展開する民間6施設で組織される「えひめ東予産業観光施設連絡会」による、スタンプラリー（集客）の展開



- ・ コーディネーターの存在

**北九州**…市、商工会議所、観光協会の3者によるワンストップサービスを展開（右図）

**空知**…NPO法人（炭鉱の記憶推進事業団）が中心となって市町村界の壁、主体（行政や民間）の壁を取り払って取組を広域的・多様な主体の関与により展開



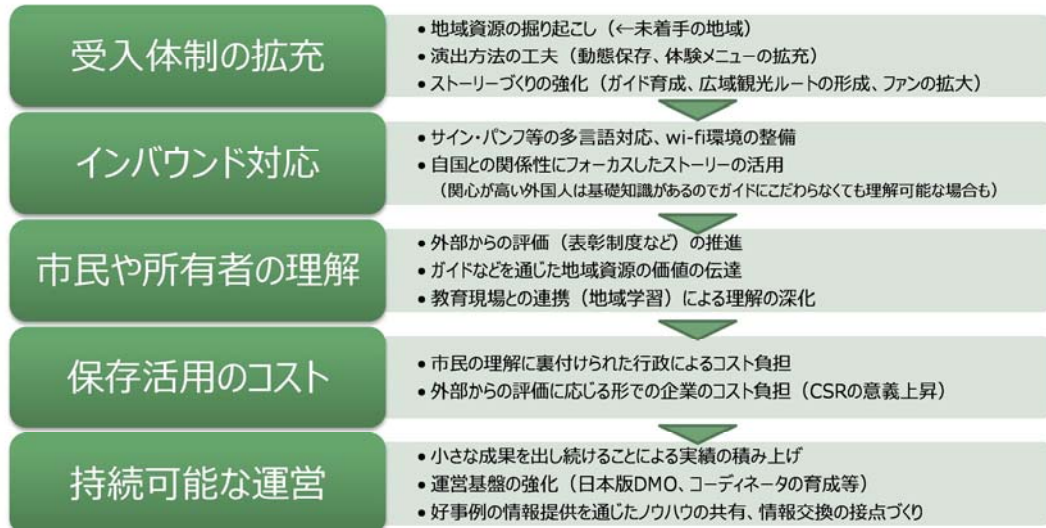
9



## IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策

### 2. 産業観光を通じた地域活性化の方策

課題を踏まえた方策…産業観光資源が持つ“ストーリー”を生かす

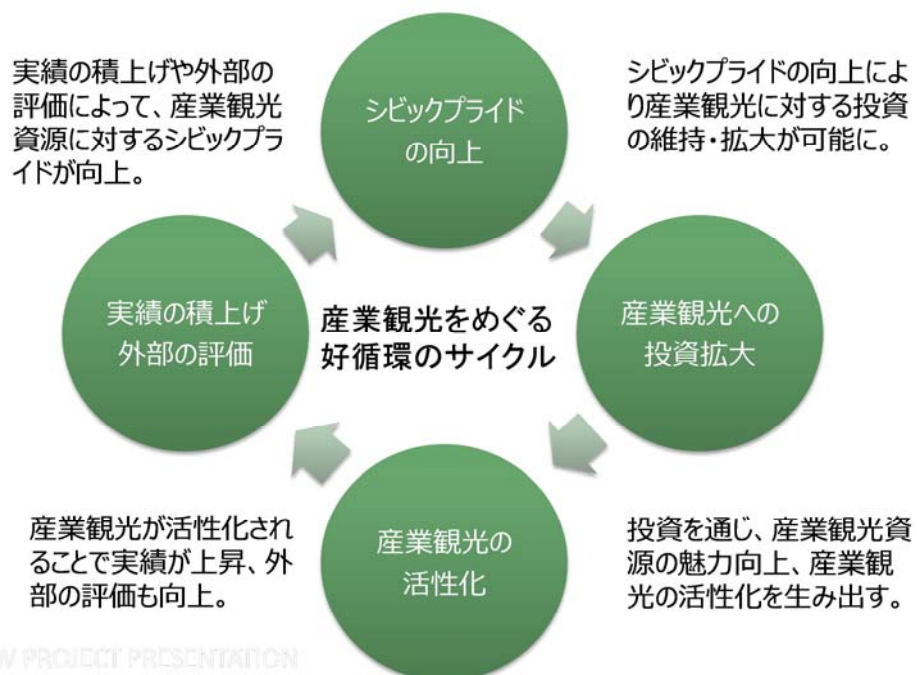


NEW PROJECT PRESENTATION

12

## IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策

### 2. 産業観光を通じた地域活性化の方策



NEW PROJECT PRESENTATION

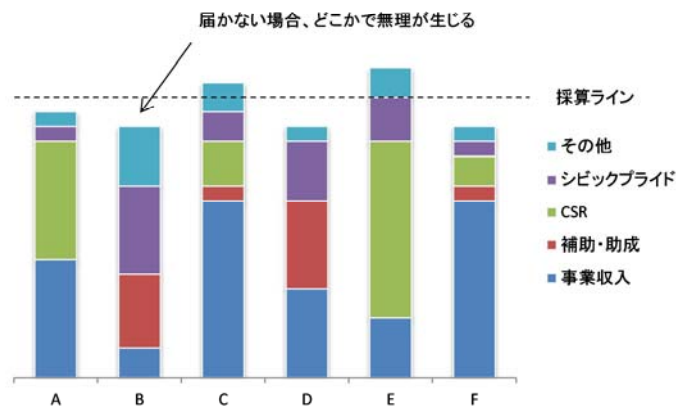
13

## IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策

### 2. 産業観光を通じた地域活性化の方策

- 産業観光は事業収入以外の複数の要素によって維持
- 採算ラインに届かない場合、どこかで無理が生じる
- 前ページの好循環を生み出すことで採算ラインへの到達を図る

産業観光を持続させるための資金等の構成（イメージ）



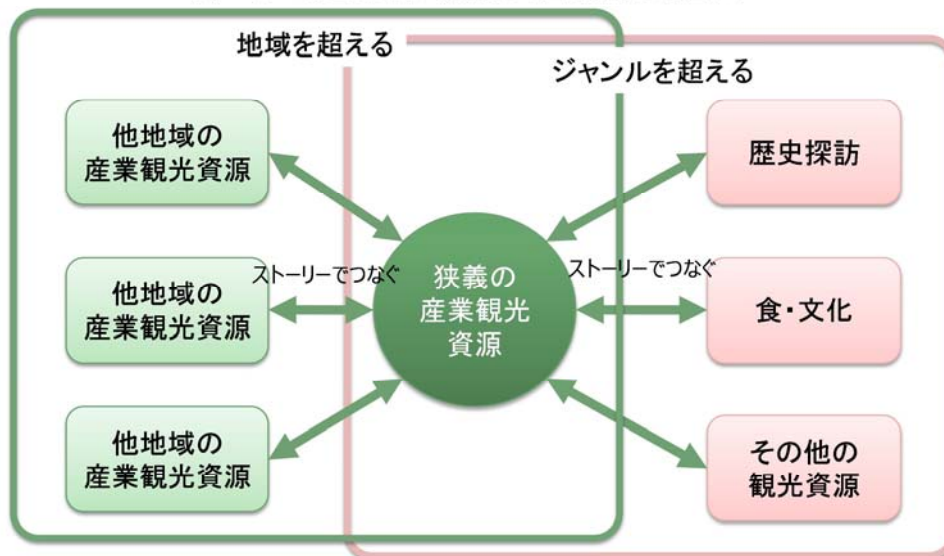
NEW PROJECT PRESENTATION

14

## IV. 産業観光を活用した地域活性化への課題と方策

### 2. 産業観光を通じた地域活性化の方策

ストーリーを通じた広い視点での産業観光活性化



ストーリーを通じ、地域とジャンルを超えて産業観光の領域を拡大

NEW PROJECT PRESENTATION

15



平成 27 年度地域経済産業活性化対策調査

## 平成 27 年度産業観光を活用した地域活性化事例調査 報告書

---

---

平成 28 年 3 月

発行：経済産業省 九州経済産業局 産業部 流通・サービス産業課

〒812-8546 福岡市博多区博多駅東 2-11-1

TEL：092-482-5511 FAX：092-482-482-5959

委託先：公益財団法人 九州経済調査協会

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 2-1-82 電気ビル共創館 5 階

TEL：092-721-4907 FAX：092-721-4904

---

---